

琵琶湖博物館 年報

第 16 号

2011 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2012 年 10 月

---

# ごあいさつ

---

2011年度は、大地震による東日本大震災という天災とそれに伴う福島原発事故という人災が如何に深刻なものであり、復興という言葉など軽々しく口にすることができないのではないかと思います。そしてそれはいつまで続くのかいまだに見当さえつきません。この深刻な事態は、日本の近代化そのものが何であったのかを問うことにもなりました。その日本の近代化は、当初から所与として欧米の科学技術を見習い習得し、さらには追いつくことを目標に現在まで進んできました。そのことによって支えられてきた近代の文明そのものが、人間にとってどういう意味をもつものなのかを問われていると思います。博物館にひきつけてこの深刻な事態を考えると、科学技術によって支えられた近代文明のなかにおける博物館とはどうあるべきなのかと考えざるを得ません。

昨年、開館20年を目指してリニューアルを宣言しました。何をどのように如何にリニューアルするのかという前提には、リニューアルの哲学がなければなりません。この哲学のなかには、近代文明のなかの博物館とはどうあるべきかという問いも当然入るべきであります。そんな思いを強くした2011年度でありました。

さて2011年度の琵琶湖博物館の諸活動を概観してみたいと思います。琵琶湖博物館には、3つの大きな業務があります。ひとつは研究的業務であり、ふたつめは研究的業務と密接に連動している事業的業務であります。さらに琵琶湖博物館の特長として、市民参加、地域密着を重視する市民との交流的業務があります。

まず研究的業務ですが、博物館における研究の大きな特徴として、博物館でしかできないモノ資料に基づく研究や市民参加型の研究があります。こうした特徴を活かした研究を琵琶湖博物館では、内容と規模とスタイルに応じて総合研究、共同研究、申請専門研究にとして進めています。こうした研究に交錯するようにさまざまな外部研究資金を得る努力もしてきています。文科省や環境省などの科学研究費という競争的経費の獲得もかなり高い水準を保っています。これらの研究に伴って、学術論文や専門分野の著述、さらに一般向けの著述や学会発表なども行って、研究機関として高い発信力を誇っていると自負しています。

ふたつめの事業的業務の中心は資料収集とその保管、またそれらの調査研究に基づく公開（多くは展示という方法がとられます）であります。また総合研究、共同研究などの成果の展示もまた事業的業務の中心であります。詳しい内容は年報の該当箇所をみていただきたいと思います。ここでは展示に関連するものをいくつかとりあげてみましょう。

2011年度の企画展示は長期間におよぶ共同研究「カワウによる水域生態系から陸域生態系への物質移動とその影響」（研究代表・亀田佳代子）などに基づく第19回企画展示「こまった！カワウー生きものとのつきあい方」（7月16日～11月23日）を開催しました。滋賀県では個体数増加と分布域拡大をする野生動物保護管理の問題ではカワウとニホンジカは大きな問題です。外来生物であるブルーギルやブラックバスとは根本的に異なった問題群で

す。今後こうした野生動物とどのようにつきあっていったらいいのか考えてもらう展示であったと思います。第24回水族企画展示は「レッドリストの魚たち」（4月29日～9月4日）を開催しました。これは琵琶湖博物館がアクアリウムを備えた総合博物館の強みを活かした展示であり、滋賀県で大切にすべき野生生物を生きた形で市民に知ってもらうことができたと思います。

琵琶湖博物館では、ギャラリー展示という資料や情報のありように応じて柔軟に対応できる展示方法を採用しています。2011年度は3つのユニークなギャラリー展示を開催することができました。この展示は約350万年前の古琵琶湖層の化石を長年にわたり採集されてきた故奥山茂美さんの歴大な化石標本の寄贈を記念して企画されたものです。収集された資料の早い公開を考えたものでもあります。ギャラリー展示「湖国の鳴く虫たち」は鳥丸半島周辺に棲息する鳴く虫の生体展示を中心に開催されました。この展示では、お隣にある草津市水生植物園との共同の事業も企画しました。今後この方向はもっと充実したものにしていく必要があると思います。ギャラリー展示「民具を科学する」は、博物館に収蔵されている県内全域の民具約15,000点の調査研究に基づいた展示です。すでにこれらの資料目録やデータベースは公開されていますが、資料収集とその調査研究そしてそれらに基づく展示は博物館でしか可能でない企画であったと思います。

交流的業務での最大のイベントは7月1日から3日の3日間に「あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう」でありました。初めての試みでありました音楽やFM生放送などとのコラボレーションによって琵琶湖博物館の新たな可能性を切り開いたのではないかと思います。交流事業は他にも多くのことがあります。最後に2010年度まで開催していた各分野で活躍している研究者を招いての特別講演会を別の形で復活することができたことを述べておきたいと思います。これは文化庁の観光振興・地域活性化事業のなかのミュージアム活性化事業の助成を受けて連続講座「琵琶湖・自然と文化」を他の博物館などとの共催で開催することができたことであります。この方向も今後強化していかなければならないものだと思います。

2011年度を振り返って、主だった琵琶湖博物館の研究活動や業務活動またアウトリーチとしての社会的活動などを述べてきました。こうした活動が可能なのは琵琶湖博物館を積極的に応援し支えてくださっている多くの方々がおられるからであります。ここに厚くお礼申し上げますとともに、今後とも積極的なご意見・ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2012年9月25日

滋賀県立琵琶湖博物館  
館長 篠原 徹

# 目 次

ごあいさつ	1
<b>I 博物館機能の強化</b>	
<b>1 資料が活用できる博物館</b>	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	5
(2) 寄贈者および提供者	8
(3) 購入資料	9
(4) 水族繁殖生物	9
(5) 資料情報の公開	10
(6) 資料の活用	10
(7) 資料保管	17
(8) 燻蒸・処理	18
<b>2 研究を進めて活かせる博物館</b>	
研究調査活動	
(1) 総合研究	19
(2) 共同研究	19
(3) 専門研究	20
(4) 公表された主な研究業績	21
(5) 研究助成を受けた研究	25
(6) 新琵琶湖学セミナー	28
(7) 特別研究セミナー	29
(8) 研究セミナー	29
(9) 研究員の受け入れ	30
(10) 海外交流活動	31
<b>3 新たな参加と発見ができる博物館</b>	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	33
(2) 企画展示	35
(3) 水族企画展示	39
(4) ギャラリー展示	40
(5) その他の展示	41
(6) 集う・使う・創る 新空間	42
(7) ディスカバリールームのイベント	43
展示交流事業	
(1) 展示交流員と話そう	43
<b>4 体験と交流を促す博物館</b>	
一般利用者へのサービス事業	
(1) 観察会・見学会等	45
(2) 講座	45
(3) 体験教室	47
学校連携事業および体験学習	
(1) 学校団体の受け入れ	48
(2) 教職員等研修	48
(3) 学校団体向け体験学習	49
(4) 一般団体向け体験学習	50
(5) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動	51

(6) 学校サテライト博物館事業	52
(7) ミュージアムスクールの運営	53
(8) 自然調査ゼミナール	55
(9) 職場体験実習	55
(10) 視察対応	56
(11) 博物館実習	56
国際交流活動	
(1) 「JICA 博物館学集中コース」の実施	57
(2) 海外からの視察・研修	59
地域発見！参加型移動博物館	60
<b>5 対話と応援ができる博物館</b>	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	63
(2) はしかけ制度	64
地域交流活動への支援事業	
(1) 地域活動の支援（博物館内対応）	77
(2) 地域活動の支援（博物館外対応）	79
(3) 質問コーナー・フロアトーク	82
滋賀県ミュージアム活性化推進事業	83
琵琶湖博物館環境学習センター	84
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！	85
情報発信活動	
(1) 通信網を利用した館外への情報提供	89
(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス	90
(3) 印刷物	91
<b>II 環境の整備</b>	
<b>1 拠点としての施設整備</b>	
(1) 利用者用施設の整備	92
(2) 情報システムの整備	92
(3) 来館者アンケート調査結果	92
<b>2 柔軟な運営組織</b>	
(1) 組織	97
(2) 職員	98
<b>3 社会的支援と新しい経営</b>	
(1) 利用状況（2011年度入館者数）	101
(2) 新聞掲載記録	103
(3) 広告掲載一覧	111
(4) 雑誌等掲載記録	112
(5) テレビ放映・ラジオ放送記録	115
(6) 予算	117
<b>4 存在基盤の確立</b>	
(1) 琵琶湖博物館協議会	118
(2) 企画・計画	118
<b>III 2011年度をふり返って</b>	
<b>1 研究部</b>	120
<b>2 事業部</b>	120
<b>3 総務部</b>	122
<b>IV 博物館利用のご案内</b>	125

# I 博物館機能の強化

## 1 資料が活用できる博物館

### 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。

今年度は、東日本大震災で被災した自然史系標本を預かり、標本類の修復作業を行うなど、博物館として地域の文化・自然遺産を救済する社会貢献活動を行った。

以下に 2011 年度の資料整備および利活用状況を示す。

### (1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、植物標本、動物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の 11 分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2011 年度末現在で、博物館登録資料は 451,286 で、収蔵概数は 846,642 となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示・閲覧および貸出等に利用している。

#### 【収蔵資料のまとめ】

2012 年 3 月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2011 年度登録数	2011 年度受入総数
地学	38,817	50,500	4,091	15
植物	84,188	166,037	2	201
動物	108,597	307,342	1,054	40,996
微生物	0	66,416	0	3,051
水族（生体）	17,748	17,748	13,794	13,794
考古	0	1,348 箱と 343	0	0
歴史	2	205	292	1
民俗	6,721	6,770	0	0
環境	0	45 箱と 745	0	0
図書	116,555 と 2,892 タイトル	127,443	10,547 と 230 タイトル	10,039 と 230 タイトル
映像	75,766	101,700	0	0
合計	451,286	846,642	30,010	68,327

【各分野別の詳細】

地学標本	2011年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	3,891	0	15	0	0	15		26,500	21,600
岩石・鉱物	158	0	0	0	0	0		8,517	11,800
堆積物	42	0	0	0	0	0		2,649	5,800
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	4,091	80	15	0	0	15		38,817	50,500

植物標本	2011年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	2	0	0	0	201	201	標本受入・登録・ラベル貼付け・収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	84,188	165,859
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	2	0	0	0	201	201		84,188	166,037

動物標本	2011年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	340	3	298	0	16	654		2,324	2,629	
内 訳	哺乳類骨格標本	0	0	2	0	0	2	本剥製標本の寄贈5点、仮剥製標本の寄贈291点、卵殻標本の採集2点と提供16点を含む	197	210
	哺乳類剥製標本	0	0	0	0	0	0		8	11
	哺乳類(その他)	25	0	0	0	0	0		519	839
	鳥類骨格標本	0	0	0	0	0	0		220	212
	鳥類乾燥標本(巢、卵、レプリカ等含む)	316	3	296	0	16	315		891	868
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		28	28
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		3	3
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		44	44
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		6	6
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		351	351
	両生類(その他)	0	0	0	0	0	0		14	14
	魚類（淡水魚類）	595	3	0	0	48	51			53,769
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を整理し、データベースの修正をおこなった	2,677	2,677
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を整理し、データベースの修正をおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	595	3	0	0	48	51	前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ595件を新規登録した	47,369	76,342
昆虫	0	46	34,897	0	4,516	39,459		34,610	194,291	
内 訳	昆虫液浸標本	0	3	0	0	12	15	新規採集や提供を受けた標本を固定し、データラベルを添付して登録できる状態にした	12,495	31,075
	昆虫乾燥標本	0	43	34,897	0	4,504	39,444	村山コレクション4,200点を整理し、4,658点の標本を作成した。東日本大震災で被災した陸前高田市立博物館の標本1,046点を修復し、トピック展示で紹介した	22,115	163,216
貝類	119	0	0	0	389	389	未整理標本および新規採集・提供寄贈標本を整理し、データベースに登録した	14,297	16,024	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	302	0	0	141	443	仮データベースへの累積登録件数6,290点（うち今年度登録件数：580点）	3,597	11,656	
小 計	1,054	354	35,195	0	5,110	40,996		108,597	307,342	

微生物標本	2011年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	65	0	0	0	65		0	3,612
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	155
珪藻プレパラート	0	65	0	0	0	65		0	1,582
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	1,003	0	0	0	1,003	2006年撮影分を計上	0	23,908
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	1,187	0	0	0	1,187	2006年撮影分を計上	0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	2,560	0	0	0	0	選定後に受入予定	0	11,155
微小生物動画ファイル	0	731	0	0	0	731	過去の未整理資料を含む	0	753
小 計	0	5,611	0	0	0	3,051		0	66,416

水族資料 (生体)	2011年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	12,539	2,283	714	5,770	3,772	12,539		16,872	16,872
内 訳	魚類	12,519	2,264	713	5,770	3,772	12,519	16,834	16,834
	両生類	19	19	0	0	0	19	8	8
	爬虫類	0	0	0	0	0	0	23	23
	鳥類	1	0	1	0	0	1	7	7
無脊椎動物	1,255	285	0	729	125	1,255		876	876
内 訳	昆虫類	125	0	0	0	125	125	136	136
	貝類	741	12	0	729	0	741	606	606
	甲殻類	389	273	116	0	0	389	134	134
	環形動物	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	13,794	2,568	830	6,499	3,897	13,794		17,748	17,748

考古資料	2011年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
遺跡遺物 (舟、瓦を除く)	0	0		0	1,313(箱 )と 320
丸木船	0	0		0	5
瓦	0	0		0	22(箱)
灯籠	0	0		0	3
貝塚剥ぎ取り資料	0	0		0	6
展示関係 (ガリラヤ湖関係含む)	0	0		0	11(箱)
湖底遺跡移管資料	0	0		0	2(箱)と 9
小 計	0	0		0	1,348 箱と 343 点

歴史資料	2011年度					累 積		
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	292	0	0	0	0	居初家文書Ⅰ(147号)215点、 居初家文書Ⅱ(150号)77点、目録完成、web 上で公開	2	161
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	36
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	292	1	0	0	1		2	205



民俗資料	2011年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,588	2,589
二次資料(木造船模型)	0	0	0		0	41
小 計	0	0	0		6,721	6,770

環境資料	2011年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0		0	72
生活用具類	0	0	0		0	25
民具類	0	0	0		0	22箱と619
二次資料(レプリカなど)	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0		0	4
小 計	0	0	0		0	45箱と745

図書資料	2011年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	4,071	74	3,489	3,563	開架図書9,620冊、雑誌260件の整備、書籍ワケレス、コピーサービス(有料)、蔵書点検48,000点、ニューズターの整理、図書装備3,800冊	69,411	77,396
文献	6,476	0	6,476	6,476		47,144	50,047
雑誌	230	57タイトル	173タイトル	230タイトル		2,892タイトル	
小 計	10,547と230タイトル	74と57タイトル	9,965と173タイトル	10,039と230タイトル		116,555と2,892タイトル	127,443

映像資料	2011年度							累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	大橋氏フィルム整理、スキャン	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	8,769
小 計	0	0	0	0	0	0		75,766	101,700

(2) 寄贈者および提供者 敬称省略(点数)

【地学資料】

化石標本および岩石・鉱物標本：北村 浩(12) 長澤芳樹(7,440) 川北泰助(10) 岡村喜明(3)

堆積物標本：関西国際空港甲地造成株式会社(456)

【植物標本】

さく葉標本：西田 謙二(200) 瀬野純一(1)

【動物標本】

哺乳類骨格標本：石田未基(1) 岡村喜明(1)

鳥類剥製標本：坂根 干・坂根隆治(296) 守山市(5)

鳥類卵殻標本：中条正英(15) 北野幹太(1)

魚類液浸標本：佐谷友貴(1) 川瀬成吾(1) 福永裕保(1) 酒井治己(10) 岡 隼人(1)

長田智生(1) 津田國史(1)

昆虫液浸標本：後藤宮子(8) 川口滉生(1) 多賀寛寿(1)

昆虫乾燥標本：石田未基(1) 柴栄康雄(12) 武田 滋(372) 中川 優(1,186) 遠藤真樹(669)

細井正史(12) 桐村信行(198) 高橋早智子(1) 田中正治郎(7) 西田貞二(39)  
春沢圭太郎(96) 横関秀行(1, 353)

貝類液浸標本：水資源機構(389)

昆虫と貝類以外の無脊椎動物標本(甲殻類・寄生虫など)：

西垣健太(1) 片山満秋(2) 佐藤拓哉(7) 山川栄樹(1) 大高明文(125)  
五十嵐敬司(4) 楊 樹森(1) Chiu Ming-Chung(10)  
「田んぼの生きもの調査」はしかけグループ(214)

【水族資料】

脊椎動物(魚類)：(独)水産総合研究センター(237) 千歳サケのふるさと館(379)

脊椎動物(鳥類)：京都市動物園(1)

【図書資料】

書籍：龍ヶ崎市歴史民俗資料館(3) 柴田望二(326) 甲賀市教育委員会(5) 上海科技館雑誌社(6)  
国立科学博物館(21) 放送大学教育振興会(1) 脇田雅彦(3) 上総掘りを記録する会(1)  
たねや近江文庫(3) 成田迪夫(1) エンデーバーズ(1) 科学技術振興機構(1) 岡村喜明(2)  
志岐常正(2) 高橋政宏(5) 矢野宏二(9) 川那部浩哉(879) 渡辺仁治(882) 大谷洋子(4)  
吉安克彦(1) 産業技術総合研究所 水野清秀(1) 布谷知夫(31) 西山保典(2) 畚野 剛(27)  
日本自然科学協会(3) 小沢晴司(1) 五味晴嘉(1) 橋本 章(1) 木村裕樹(1)

【その他資料】

拓本：長田清兵衛(1)

(3) 購入資料

資料分野	資料名	点数	資料形態	内容等
歴史資料	「花園院宸記 巻29(第二十回配本)」	1件(1点)	古文書 (レプリカ)	

(4) 水族繁殖生物

種名	学名	個体数
<b>日本産魚類</b>		
<b>コイ科</b>		
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	192
カワバタモロコ	<i>Hemigrammochypris rasborella</i>	100
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	200
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	85
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	43
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	115
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	78
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	160
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	50
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	56
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	327
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	20
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	119
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	226

種 名	学 名	個体数
<b>ドジョウ科</b>		
スジシマドジョウ大型種	<i>Cobitis</i> sp. L	174
アジメドジョウ	<i>Niwaella delicata</i>	6
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	100
<b>メダカ科</b>		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	185
<b>トゲウオ科</b>		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	322
ムサシトミヨ	<i>Pungitius</i> sp.	34
<b>ハゼ科</b>		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	69
<b>サケ科</b>		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou</i> subsp.	2,265
<b>外国産魚類</b>		
<b>コイ科</b>		
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	100
ローデウス・ファンギ	<i>Rhodeus fangi</i>	47
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	100
アケイログナトウス属の一種	<i>Acheilognathus</i> sp.	34
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	94
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	110
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	10
<b>サンフィッシュ科</b>		
パンプキンシード	<i>Lepomis gibbosus</i>	93
<b>メダカ科</b>		
ランプリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicanus</i>	47
<b>カワスズメ科</b>		
ネオランプロログス・オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	12
ジュリドクロミス・オルナータス	<i>Julidochromis ornatus</i>	98
クセノティラピア・フラビピンニス	<i>Xenotilapia flavipinnis</i>	36
<b>ケツギョ科</b>		
ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>	22
<b>昆虫類</b>		
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	20

#### (5) 資料情報の公開

2011 年度には電子図鑑「日本産環境指標ゴミムシ類データベース 里山のゴミムシ」、電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち」および資料目録「居初家文書Ⅰ」、「居初家文書Ⅱ」の公開を行った。

#### (6) 資料の活用

##### 1) 資料の貸出（研究依頼を含む）

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	7	福井県立恐竜博物館	「竜骨の図」部分 1点	新聞記事への利用（福井新聞コラム）
4	19	伊吹山文化資料館	写真パネル（大橋宇三郎コレクション） 51点	企画展で展示のため

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
5	6	長浜市立湯田小学校	オオセンチコガネ 3点	オオセンチコガネ学習のため
5	23	岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」	シロイシガメ 1個体	特別展示のため
6	3	安土城考古博物館	唐橋遺跡写真(カラーポジ) 7点 唐橋遺跡資料(五銖銭1点、無文銀銭1点、和同開珎12点、須恵器平瓶1点、須恵器杯1点、須恵器瓦泉1点、土師器甕1点、土師器杯1点)計19点	第42回企画展・財団法人滋賀県文化財保護協会調査成果展『大国近江の壮麗な国府』にて展示のため
6	8	健康福祉部健康福祉政策課	写真パネル(大橋宇三郎コレクション) 4点	平和祈念館(仮称)開設に伴う資料調査のため
7	9	亀岡市文化資料館	アユモドキ 5個体	亀岡市文化資料館ロビー点での展示のため
7	21	「神仏います近江展」実行委員会	紙本着色日吉山王祭礼図屏風 六曲一隻	「神仏います近江」大津会場「日吉の神と祭」に展示のため
10	19	北九州市立自然史・歴史博物館 下村通誉	甲殻類、15点	総合研究の一環として
10	25	富山市科学博物館 布村昇	等脚類 4点、等脚類 192点、等脚類、18点	総合研究(分類学的研究) 学術論文の投稿
11	4	京都橋中学・高等学校	ヤママユ 4点	学校での授業で使用するため
11	18	岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」	ミナミトミヨ標本 3点	トゲウオ科をテーマとした企画展示開催のため
11	22	宮津エネルギー研究所水族館	アユモドキ 10個体	日本産希少淡水魚をテーマとした企画展示での展示のため
12	2	龍谷大学瀬田学舎	臼 1点、杵 1点	龍谷大学里山学術センター特別展示に使用
12	2	オサムシ研究会 八尋 由佳	滋賀県産オサムシ標本 200点、県外産オサムシ標本 100点	京都大学生態研セミナーでオサムシ研究会での共同研究の発表のため
12	14	みなくち子どもの森自然館	カワウ剥製 1点、ナマズ剥製 1点	みなくち子どもの森自然館内の展示(2011年度冬期特別展)
12	17	京都大学理学部 渡辺順也	キンクロハジロ、ホシハジロ、コガモ、スズガモの骨格標本 14点	修士論文執筆のため
1	3	近畿大学大学院 農学研究科	Parabotia maculosa 2点、Leptobotia gulilnensis 7点	アユモドキの分類学的位置決定のための研究に用いるため
1	3	石川県立自然史資料館	シフゾウの足型 1点、ゾウの足型 1点、ツルの足型 1点	第12回企画展「大桑層にわむっていたせきつい動物たち」の展示に使用
1	17	嶋津 武	二生類(Genarchopsis yaritanago)タイプ標本 3点	分類学的研究に用いるため
1	24	長浜市立湯田小学校	オオカミ頭骨標本 1点	食べ物と体の形態の関係の学習のため
2	29	福井県立恐竜博物館	古琵琶湖層群産コウヨウザン葉化石10点、狼煙フロラ植物化石2点	研究のため
3	7	弘前大学白神自然環境研究所	シリアゲムシ目昆虫標本 16点	学術研究(シリアゲムシ目の分類学的研究)のため
3	18	荒井紀子	昆虫乾燥標本(ゲンジボタル、ヘイケボタル等) 16点	ホテルの学校での標本展示のため

## 2) 資料の譲与

<水族>

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	3	福井県立大学	ハリヨ 3 個体	ハリヨの野生復帰事業に関わる研究のため
6	8	姫路市立水族館	アユモドキ 30 個体	展示および希少魚繁殖のため
6	23	姫路市立水族館	ビワコオオナマズ 2 個体 ビワヒガイ 20 個体 ハリヨ 100 個体	展示および希少魚繁殖のため
6	23	宮島水族館	ニッポンバラタナゴ 30 個体	希少淡水魚水槽での展示のため
6	25	(独)水産総合研究センター	ニゴロブナ精子 0.5ml	コイとの交配実験のため
8	3	山梨大学教育人間科学部	ウシモツゴ 3 個体	カマツカ類の遺伝的系統関係解析のため
11	18	岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」	ハリヨ 20 個体	トゲウオ科をテーマとした企画展示開催のため
1	3	下関市立しものせき水族館	カワバタモロコ 30 個体 ヒナモロコ 30 個体	日本産希少淡水魚繁殖検討委員会 20 周年記念事業での展示のため
1	4	天王寺動物園	カワバタモロコ 50 個体	展示のため
2	21	虹の森公園おさかな館	ニッポンバラタナゴ 50 個体 ミヤコタナゴ 50 個体	日本産希少淡水魚繁殖検討委員会 20 周年記念事業での展示のため
2	27	福井県立大学	ハリヨ 10 個体	ハリヨの野生復帰事業に関わる研究のため
3	22	日本電産(株)滋賀技術開発センター	ワタカ 20 個体	社内ビオトープでの飼育のため

## 3) 特別観覧

<映像資料>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
4	8	パナソニック株式会社 ホームブライアンス社 人事センター	アユ、ニゴロブナ、ビワマス、 ホンモロコ、オオクチバス、 ブルーギル 計 6 点	小学生を対象にした環境学習で提示資料として使用	静止画
4	28	八戸市教育委員会	松原内湖考古遺跡 計 10 点	是川縄文館 1 階常設展示に設置予定の「是川羅針盤」で使用	静止画
5	3	琵琶湖博物館名誉学芸員 中島 経夫	タモロコ 1 点	地球研プロジェクトの研究報告書 景観アトラスに掲載	静止画
5	11	株式会社エムピージェー	ヨドゼゼラ、アマゴ 計 2 点	2011 年 6 月発売、貴社刊「日本産淡水魚図鑑」に掲載	静止画
5	15	滋賀県立大学人間文化学部	漁労写真 沖すくい、地曳網 漁他 計 7 点	博物館実習(大学の講義)の展示に使用	静止画
5	31	滋賀県農政部水産課	大橋コレクション 3 点、漁労 写真 8 点 計 11 点	会議で過去の漁業の様子パネルに使用	静止画
6	4	滋賀県立大学非常勤講師	大橋コレクション 9 点	滋賀県立大学講義「近江のくらしと文化」にて講義資料として使用	静止画
6	4	毎日新聞大津支局	イサザ 1 点	2010 年版滋賀県レッドデータブックに関して新聞掲載	静止画

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
6	8	瀬田川流域観光協会	近江名所図屏風、湊はん志やう画卷、唐橋写真 計18点	(仮称)戦国武将瀬田唐橋展の展示に使用	静止画
6	20	神戸市立須磨海浜水族園	日本の希少淡水魚 18点	企画展希少淡水魚のパネル作成	静止画
6	22	(株)しちだ・教育研究所	ふれあい水槽写真 1点	教材(小学生プリント理科3年生)に掲載	静止画
7	10	米原市長	ビワマス成魚 1点	広報まいばら ビワマス関係記事に掲載	静止画
7	15	瀬田川流域観光協会	近江八景図「瀬田唐橋」 1点	(仮称)戦国武将瀬田唐橋展の展示に使用	静止画
7	22	小田自治会	災害画像(地震災害)53点 災害画像(風水害)6点	自治会文化祭「防災展」に使用	静止画
8	6	琵琶湖環境部環境政策課	ニゴロブナ 1点	滋賀の環境2011(平成23年版環境白書)への掲載	静止画
8	24	NHK大津放送局	ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ビワヒガイ、ホンモロコ、ビワマス他 計15点	番組「あさいち JAPA なび琵琶湖」に放映	
8	26	ゆめディア	前野コレクション 2点	滋賀県PR誌掲載のため	静止画
9	23	びわ湖放送株式会社	災害写真 2点	ニュース&情報番組「キラりん滋賀」内の防災企画コーナーで放送	静止画
10	1	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所	災害写真 2点	「水のめぐみ館 アクア琵琶」で展示パネルに使用	静止画
10	5	弘前学院大学地域総合文化研究所	松原内湖遺跡出土ヘラ状木製品 2点	「縄文琴一篋形木製品の研究」に掲載	静止画
10	7	株式会社 秀文堂	プランクトン 1点	高校生物資料集「生物図説」に掲載	静止画
10	16	竹生島カワウ対策事業推進協議会	企画展示図録 カワウ写真1点	カワウ対策学習会に伴う巡回パネル展示に使用	静止画
11	1	滋賀県環境保全協会	ニゴロブナ 1点	協会設立30周年記念誌への掲載	静止画
11	12	草津市役所 環境課	カイツブリ、カワウ、コハクチョウ、カルガモ、マガモ、コサギ、ユリカモメ他 計22点	「草津市冬の水鳥調査」にかかる調査員募集チラシおよび調査票に使用	静止画
11	16	日本産希少淡水魚繁殖検討委員会	ミヤコタナゴ、イタセンバラ、イチモンジタナゴ、ハリヨ、メダカ、カダヤシ他 21点	20周年記念事業でのポスター、チラシ作成	静止画
11	17	(株)ベネッセコーポレーション	植物プランクトン、セタシジミ 2点	2011年度進研ゼミ高1講座高1授業チャレンジ特別編生物I3月号に掲載	静止画
11	18	テレビ朝日「雑学王」	イワナ 1点	2011年11月19日テレビ朝日「雑学王」で放送	静止画
11	23	男女共同参画課長	前野コレクション 2枚	ファザーリング全国フォーラム inしがでパネル展示に使用	静止画
11	25	NPO法人たねや近江文庫	琵琶湖エリ 1点 前野コレクション 1点	NPO法人たねや近江文庫機関紙「近江から」に掲載	静止画

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
11	25	(株)アーツファクトリー	ヨシ群落 1点	(株)ベネッセコーポレーション発行「チャレンジ5年生」2月号に掲載	静止画
11	29	開出今町内会	災害写真 1点	町内会ホームページ 過去の風水害欄に掲載	静止画
12	2	財団法人自然環境研究センター	ミヤコタナゴ、ハリヨ、ハリヨの産卵、ハリヨとイトヨの交雑個体、イタセンパラ 計5点	生息域外保全の「基本方針」及び「野生復帰の考え方」パンフレット、ホームページ掲載に使用	静止画
12	4	京都新聞滋賀本社	マゴイ、ヤマトゴイ 計2点	琵琶湖の「マゴイ」に関する新聞掲載	静止画
12	7	氏本ロナルド智之	ワカサギ、ホンモロコ、ニゴロブナ 計3点	スーパーJチャンネルの報道企画内で放送	静止画
12	9	埼玉滋賀県人会	ニゴロブナ 1点	埼玉滋賀県人会第4号会報「彩のおうみ」に掲載	静止画
12	9	滋賀県防災危機管理局	姉川地震時の災害写真 1点	防災・防犯学習支援マニュアル制作のため	静止画
12	13	マルチメディアセンター	アユ、コイ、ニゴロブナ、ホンモロコ、ワタカ 計5点	地域活性化を目的とした市民制作映画「結い魂」で資料映像として使用	静止画
12	16	(株)地域環境計画	ミヤコタナゴ 1点	「東京都の保護上重要な野生生物種」(本土部)解説版、パンフレット、ホームページに掲載	静止画
12	23	(株)日水コン 大阪支所 河川事業部	前野コレクション 2点 古谷コレクション 2点	国土交通省事業広報パンフレットへに掲載	静止画
12	23	成安造形大学	魚類琵琶湖固有種 16点	成安造形大学グラフィックデザイン実習授業課題、県庁への展示に使用	静止画
12	28	草津市環境課長	ホンモロコ、ニゴロブナ、ナガタニシ、セタシジミ、ネジレモ他 魚類8点、貝類2点、水草2点	環境学習貸出教材作成に使用	静止画
1	26	山崎川グリーンマップ	マゴイ、ヤマトゴイ、ドンコ 計2点	子どもたちによる昔の山崎川の聞き取り調査をまとめる冊子に掲載	静止画
1	26	滋賀県総合政策部企画調整課	ビワマス、ニゴロブナ、アブラヒガイ、ホンモロコ、ビワヨシノボリ、ビワコオオナマズ、イサザ 計7点 前野コレクション 1点	県広報誌「(仮称)琵琶湖の価値再発見ノート」に掲載	静止画
1	27	株式会社 童夢	ビワコオオナマズ、ナガタニシ 計2点	「日本全国ナンバーワン図鑑」に掲載	静止画
1	28	琵琶湖環境部自然環境保全課	ヨドゼゼラ、ビワコオオナマズ 計2点	生物多様性フォーラム知事発表資料に使用	静止画
1	28	琵琶湖環境部環境政策課	ビワコオオナマズ、ホンモロコ、ビワヒガイ、ビワマス 計4点	「琵琶湖ハンドブック改訂版」に掲載	静止画
1	29	NHK 天津放送局 放送部	琵琶湖 133「ワタカ水槽」 計2点	「おうみ発610」“クイズで知るびわ湖”で放送	動画

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
1	30	大阪産業大学人間環境学部	滋賀県写真帖 上巻 1点	竹生島の植生変遷を解析に使用	静止画
2	2	健康福祉部健康政策課	大橋コレクション 計3点	滋賀県平和祈念館事業における展示に使用	静止画
2	2	国立環境研究所	ハス、ムギツク、アブラボテ、イチモンジタナゴ、アカザ 計5点	福井県三方湖の自然再生協議会において使用	静止画
2	10	読売テレビ	ドウキョウオオサムシ、トンボ 計2点	テレビ番組に使用	静止画
2	17	京都大学生態学研究センター	イワトコナマズ、アブラヒガイ 計2点 前野コレクション 計4点	日本生態学会公開講演会にて使用	静止画
2	17	文一総合出版	前野コレクション 計1点	「エコロジー講座5」に掲載	静止画
2	17	虹の森公園おさかな館	ミヤコタナゴ 計2点	解説パネルに使用	静止画
2	17	須藤 護	鋤 計2点	龍谷大学里山学研究センター 企画展覧会図録への掲載のため	静止画
2	27	琵琶湖博物館うおの会	ウグイ、ヌママツ、カワムツ、アユモドキ、イチモンジタナゴ、イトモロコなど計30点	ホームページに使用	静止画
2	29	株式会社 谷尾	日吉山王祭礼図屏風	冊子表紙へ使用のため	静止画
2	29	草津市役所 環境課	ビワマス、ホンモロコ、スゴモロコ、ナガタニシ、ビワヒガイ、アブラヒガイ、ニゴロブナなど計30点	環境学習貸出教材作成のため	静止画
3	1	福井県立恐竜博物館	愛知川化石林写真 計1点	福井県立恐竜博物館ビデオライブラリーで使用	静止画
3	20	はしかけグループ「琵琶湖博物館うおの会」	魚類写真 計30点	琵琶湖博物館うおの会ホームページに使用	静止画
3	20	土木交通部流域治水政策室	水害写真 計2点 水害写真 計1点	滋賀県ホームページへの掲載	静止画
3	23	櫻井 信也	滋賀県管下近江国六郡物産図説	論文中において使用	静止画
3	27	(株)美和企画 かがくる編集部	ラップムシ、アメーバ、ゾウリムシ、ミドリムシ 計4点	週刊かがくるプラス改訂版10号にて使用	静止画
3	27	(株)文一総合出版	前野コレクション 計1点	書籍「エコロジー講座5」に使用	静止画
3	27	(株)風媒社	前野コレクション、藤村コレクションほか 計11点	書籍にて掲載	静止画
3	27	パナソニック(株)アプライアンス社	魚類写真 計6点	環境学習資料作成のため	静止画
3	28	(株)カザン 月刊食生活編集部	コイ科魚類写真 計12点	月刊食生活特集で使用	静止画
3	30	リバーポリシーネットワーク	水害写真 計3点	リバーポリシーネットワーク会報への掲載	静止画
3	31	教育委員会学校教育課	魚類写真、鳥類写真など 計78点	「琵琶湖と自然」六改訂版への掲載	静止画



<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	14	樋口広芳（東京大学農学生命科学研究科）	カイツブリ 2 個体	水中におけるカイツブリの採食行動の撮影
6	17	小島弘昭（東京農業大学農学部）	昆虫液浸標本・積翅目（河野光子コレクション）	未記載種の記載および修士論文作成
6	27	樋口広芳（東京大学農学生命科学研究科）	カイツブリ 2 個体	水中におけるカイツブリの採食行動の撮影
7	2	吉原正人	ハンボンガラス骨格標本 3 点、仮剥製標本 3 点	カラスの形態上の地域変異の調査
9	15	(株)新興出版社啓林館	水族展示 トンネル水槽写真 1 点	平成 24～27 年度中学校理科教科書（2 年）用及び、付随する教師用指導書
10	26	百原 新（千葉大学園芸学部）	琵琶湖西岸断層調査にともなって採取されたボーリングコア資料 67 点	過去の植生調査研究のために資料の記載および一部採取
12	9	川瀬成吾	ゼゼラ 全標本	滋賀県下におけるヨドゼゼラの分布状況把握のため
12	22	川端哲巳（滋賀県総合教育センター）	展示室 ゴウ頭部標本、オオミスジ、銅鏡、プランクトン、瀬田川橋脚基礎平面	小学 6 年生算数の教材作成のため
2	17	藤岡大拙（荒神谷博物館）	松原内湖遺跡出土 ヘラ状琴製品	特別展示に関わる資料調査のため

#### 4) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開しており、2010 年度までに、歴史資料、水族資料、環境資料、映像資料の 4 分野の公開を行っている。2011 年度には、歴史資料 1 件、映像資料 1 件の貸出状況の公開を行った。

資料分野	貸出先	資料内容	利用目的
映像資料	伊吹山文化資料館	写真パネル 大橋宇三郎コレクション 70 点	近江のくらしと子供たち —写真展 古きよき昭和、そして今— 4 月 23 日～6 月 5 日
歴史資料	大津市歴史博物館 （「神仏います近江展」 実行委員会）	紙本着色日吉山王祭礼図屏風（江戸時代） 六曲一隻	三館連携特別展 神仏います近江 大津会場 「日吉の神と祭」 10 月 8 日～11 月 23 日

#### 5) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。2011 年度は、論文による公表までには至らなかったが、ウシモツゴ、ハリヨなど水族生体標本を利用した遺伝学的系統解析の研究をはじめ、当館所蔵の甲殻類標本、等脚類標本、二生類標本、針葉樹葉化石標本、シリアゲムシ目昆虫標本において、博物館外の研究機関・研究者による研究が進められており、来年度以降に成果が出る予定である。

#### 6) 被災した自然史系標本救済活動と修復標本の展示

琵琶湖博物館では 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の津波で被災した、岩手県の陸前高田市立博物館の昆虫標本 10 箱を受け入れ、その修復作業を行った。作業にあたっては、昆虫担当学芸員の指示のもと昆虫標本

製作室で資料整理職員が担当し、泥をかぶった標本および標本ラベルを1点1点丁寧に刷毛で取り除く作業を半年間行った。

また、今回の活動を通して、被災標本の救済、社会における博物館の役割、地域の自然の記録を未来に残す意義を来館者に考えてもらう機会と捉え、2012年3月10日～25日まで博物館アトリウムにてトピック展示「東日本大震災で被災した昆虫標本のレスキュー活動」を開催した。被災標本の受け入れ経緯や標本の修復作業の手順をパネルで紹介するとともに、修復前の標本の写真と修復後の実物標本を展示した。このトピック展示は、テレビおよび新聞等のメディアでも取り上げられた（びわこ放送3月3日、中日新聞3月19日、毎日新聞・京都新聞3月10日、読売新聞3月13日、朝日新聞3月16日、産経新聞3月17日）。



## (7) 資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防かび対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査など、総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2011年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。また害虫に関しては、トラックヤード周辺の清掃実施、大型シャッター下部への隙間テープの貼り付けや側部への制御ブラシの取り付けなどにより、害虫侵入を防ぐ処置を行った。収蔵環境のモニタリングとしては、きめ細かな空気環境の把握を行うため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握なども行った。また、全館規模の空調設備のシステム更新工事に伴い、温湿度記録システムやデータ抽出方法の見直しと調整を行った。

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>時間ごとに計測し、全データを保存。</li> <li>温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。</li> </ul>
定期清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施</li> <li>収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施</li> </ul>
特別清掃	年4回の特別清掃の実施（トラックヤード、前室等、害虫の増加場所を対象とした）
生物環境調査	年3回の生物環境調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>2011年6月24日～7月8日 昆虫トラップ調査 244カ所（設置・回収・分析）</li> <li>2011年10月28日～11月11日 昆虫トラップ調査 244カ所（設置・回収・分析）</li> <li>2012年1月17日～1月31日 昆虫トラップ調査 244カ所（設置・回収・分析）</li> </ul> ＊当館のIPM基準値 <ul style="list-style-type: none"> <li>虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が1</li> </ul>



## 2 研究を進めて活かせる博物館

### 研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であればあるほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2011年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。

#### (1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の1件であった。

- ・琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明

代表者：高橋啓一，研究期間：2011～2015年度

#### (2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の10件であった。

- ・竹生島および鶴の山におけるカワウ営巣林の森林衰退一回復過程の解明

代表者：亀田佳代子，研究期間：2010～2011年度

- ・琵琶湖地域における堆積環境変化の広域性と古気候変化との関係

代表者：里口保文，研究期間：2011～2012年度

- ・山と湖をつなぐ地下水環境域

代表者：マーク ジョセフ グライガー，研究期間：2011～2012年度

- ・「ミュージアム・リテラシー」を軸とした戦略的博物館学への展開

代表者：秋山廣光，研究期間：2011～2013年度

- ・水田からみた環境負荷抑制に働く社会的総合作用の解明

代表者：楊 平，研究期間：2011～2013年度

- ・定期サンプリングによる湖内におけるピワマスの基礎的生態情報の取得

代表者：桑原雅之，研究期間：2011～2013年度

- ・レイク・モンスターなど湖や川の未確認生物の歴史と多様性、その生物学のおよび民俗学的検証に関する研究

代表者：芦谷美奈子，研究期間：2011～2014年度

- ・針葉樹トガサワラ属化石の系統と生育環境の解明

代表者：山川千代美，研究期間：2011～2013年度

- ・モンゴル北部森林被害（火災・蛾食害）跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進手法の開発

代表者：草加伸吾，研究期間：2011～2012年度

- ・侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究  
代表者：中井克樹，研究期間：2011～2013年度

### (3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとの区別している。

＜申請専門研究＞

- ・日本中世における内水面の環境史的研究—その環境と生業—（橋本道範）
- ・琵琶湖水系における古墳時代首長の領域と地域性（用田政晴）

＜専門研究＞

環境史研究担当

- ・多賀町に分布する石灰岩地域からの脊椎動物遺体の研究（高橋啓一）
- ・城陽礫層の層序と年代の解明（里口保文）
- ・メタセコイアとスイショウが優占する鮮新—更新世の湿地林環境（山川千代美）
- ・森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求（草加伸吾）
- ・河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの構築に関する研究（奥村浩匡）
- ・アジア・モンスーン地域の土地開発史（宮本真二）
- ・農村地域における水と生業に関する環境社会学的研究（楊 平）
- ・民俗学からみた景観研究—滋賀県がもつ景観と民俗学的研究視点の整理—（老 文子）

生態系研究担当

（基礎地域研究班）

- ・鯰脚類および顎脚類（甲殻類）の分類学、形態学に関する研究（マーク ジョセフ グライガー）
- ・琵琶湖およびその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究（八尋克郎）
- ・滋賀県内における淡水生貝類の分布調査および既存情報との比較（松田征也）
- ・南湖の沈水植物のモニタリングならびに研究成果のまとめ（芳賀芳樹）
- ・ヨシを含む水草の利用の形態、およびそれらを利用する人による生物学的認識の考察（芦谷美奈子）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ属*Dolichopus*の分類学的研究（榎永一宏）
- ・魚病の予防と治療（菅原和宏）

（応用地域研究班）

- ・琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究（桑原雅之）
- ・農業排水路における生態系保全・再生について（碓 登志之）
- ・鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討（亀田佳代子）
- ・*Apocarchesium* 属を中心としたツリガネムシ類の系統解析（楠岡 泰）
- ・魚類・貝類の保全に関する研究（中井克樹）
- ・日本の淡水カイミジンコの生態（ロビン ジェームス スミス）

博物館学研究担当

- ・里山と人の暮らしのつながり、薪の利用を通して（寺尾尚純）
- ・滋賀県の人と生き物の映像記録に関する研究、映像の博物館的な表現・伝達方法・利用に関する研究（秋山廣光）
- ・琵琶湖地域の湿地で珪藻群落の分布を規定する環境要因の検討（大塚泰介）
- ・琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携について～学習シートの開発～（大依久人）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・「昔の暮らし」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義（中藤容子）

- ・琵琶湖博物館を活用した学習プログラムの開発（藤橋和弘）
- ・水田利用魚類の生態と保全（金尾滋史）
- ・参加型調査による博物館活動と地域連携の発展について（澤邊久美子）

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 教授・施設長
三田村 緒佐武	滋賀県立大学環境科学部環境生態学科 教授
宮崎 信之	元・東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター 教授
西川 朗	滋賀県教育委員会事務局学校教育課 指導主事
西 源二郎	元・東海大学海洋科学博物館長 名誉教授
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
水本 邦彦	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部 教授
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
兼房 見喜男	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

#### (4) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/research/>) に掲載した。

#### 原著論文

- 岩瀬 彬・橋詰 潤・出穂雅実・高橋啓一・佐藤宏之 (2011) 日本列島における後期更新世後半の陸生大型哺乳動物の絶滅年代. *東京大学常呂実習施設研究報告*, 8 : 36-55.
- 岡村善明・高橋啓一・里口保文ほか4名 (2011) 古琵琶湖層群から初のサイの足跡化石. *化石研究会会誌*, 44(1) : 11-19.
- 橋本道範 (2011) 中世前期の堅田漁撈—『賀茂御祖皇太神宮諸国神戸記』所収 堅田関係史料の紹介—. *琵琶湖と人の環境史* : 125-149.
- Miyamoto, S., Ando, K., Deka, N., Bhagabati, A. K., Riba, T. (2011) Historical land development in Central and Eastern Himalayas. *Journal of Agroforestry and Environment*, 5 : 37-40.
- Makino, A., Yang, P. (2011) Analysis of the social conditions conducive to sustainable organic rice farming around Lake Biwa in Japan. *4th Asian Rural Sociology Association (ARSA) International Conference*, 2 : 284-296.
- Yang, P., Zhu, W., Tan, X. (2011) Comparative environmental analyses of paddy fields in two lake catchment areas : Lake Taihu, China and Lake Biwa, Japan. *Proceedings of 2011 International Symposium on Water Resources and Environmental Protection ISWREP*, 4 : 2597-2600.
- 楊 平 (2012) 環境資源としての水を生かした村の実践—琵琶湖からみた太湖との比較研究の試み—. *日中社会学研究*, 19 : 142-158.
- Shimazu, T., Urabe, M., Grygier, M. J. (2011) Digeneans (Trematoda) parasitic in freshwater fishes (Osteichthyes) of the Lake Biwa basin in Shiga Prefecture, central Honshu, Japan. *National Museum of Nature and Science Monographs*, 43 : 1-105.

- Blakemore, R. J., Grygier, M. J. (2011) Unraveling some Kinki worms (Annelida, Oligochaeta, Megadrili, Lumbricidae) - Part III. *Soil Organisms*, 83(2) : 265-278.
- Kunimune, Y., Mitsunaga, Y., Komeyama, K., Matsuda, M., Kobayashi, T., Takagi, T., Yamane, T. (2011) Seasonal distribution of adult crucian carp nigorobuna *Carassius auratus grandoculis* and gengoroubuna *Carassius cuvieri* in Lake Biwa, Japan. *Fisheries Science*, 77 : 521-532.
- 芳賀裕樹・石川可奈子 (2012) 2007年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量分布および2002年との比較. *陸水学雑誌*, 72 : 81-88.
- Sun, P., Clamp, J. C., Xu, D., Kusuoka, Y., Hori, M. (2011) Molecular phylogeny of the family Vorticellidae (Ciliophora, Peritrichia) using combined datasets with a special emphasis on the three morphologically similar genera *Carchesium*, *Epicarchesium* and *Apocarchesium*. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology*, 61 : 1001-1010.
- Sun, P., Clamp, J. C., Xu, D., Kusuoka, Y., Miao, W. (2012) *Vorticella* Linnaeus, 1767 (Ciliophora, Oligohymenophora, Peritrichia) is a grade not a clade: Redefinition of *Vorticella* and the families Vorticellidae and Astylozoidae using molecular characters derived from the gene coding for small subunit ribosomal RNA. *Protist*, 163 : 129-142.
- Masunaga, K., Evenhuis, N. L. (2012) Two new species of the genus *Cymatopus* Kertész from the Mariana Islands (Diptera : Dolichopodidae). *Zootaxa*, 3159 : 36-46.
- Sugahara, K., Eguchi, M. (2012) The use of warmed water treatment to induce protective immunity against the bacterial cold-water disease pathogen, *Flavobacterium psychrophilum* in ayu (*Plecoglossus altivelis*). *Fish & Shellfish Immunology*, 32 : 489-493.
- Sakai, H., Nakashima, N., Uno, T., Yonehara, M., Kitagawa, S., Kuwahara, M. (2011) A pelagic cyprinid of Lake Biwa *Gnathopogon caerulescens* and a brooklet-dwelling relative *G. elongatus* formed a hybrid swarm in a dammed reservoir Lake Ono. *Journal of National Fisheries University*, 60(1) : 43-50.
- Kuwahara, M., Takahashi, H., Kikko, T., Kurumi, S., Iguchi, K. (2012) Introgression of *Oncorhynchus masou* subsp. (Biwa salmon) genome into lake-run *O. m. ishikawae* (Amago salmon) introduced into Lake Biwa, Japan. *Ichthyological Research*, 59(3) .
- Mulder, C. P. H., Jones, H. P., Kameda, K., Palmborg, C., Schmidt, S., Eliis, J. C., Orrock, J. L., Wait, D. A., Waldle, D. A., Yang, L., Young, H., Croll, D. A., Vidal, E. (2011) Impacts of seabirds on plant and soil properties. *Seabird Islands : Ecology, Invasion, and Restoration* : 135-176.
- Smith, R. J., Janz, H., Okubo, I. (2011) Recent Cyprididae and Ilyocyprididae (Crustacea : Ostracoda) from Lake Biwa, Japan, including a summary of the lake's ostracod fauna. *Zootaxa*, 2874 : 1-37.
- Smith, R. J. (2011) Groundwater, spring and interstitial Ostracoda (Crustacea) from Shiga Prefecture, Japan, including descriptions of three new species and one new genus. *Zootaxa*, 3140 : 15-37.
- Chang, C. Y., Lee, J., Smith, R. J. (2012) Nonmarine ostracods (Crustacea) from South Korea, including a description of a new species of *Tanycypris* Triebel (Cyprididae, Cypricercinae). *Zootaxa*, 3161 : 1-19.
- 用田政晴 (2011) 前期小形前方後円墳の史的位罫. *琵琶湖と地域文化—林博通先生退任記念論集* : 33-40.
- 用田政晴 (2011) 太湖の家船と琵琶湖の「家船」. *淡海文化財論叢*, 3 : 254-259.
- 用田政晴 (2012) 民具資料の整理—考古民俗学的方法論の試み—. *民具研究*, 145, 日本民具学会 : 51-60.
- Nishimura, Y., Ohtsuka, T., Yoshiyama, K., Nakai, D., Shibahara, F., Maehata, M. (2011) Cascading effects of larval crucian carp introduction on phytoplankton and microbial communities in a paddy field : top-down and bottom-up controls. *Ecological Research*, 26(3) : 615-626.

- Park, J., Khim, J., Ohtsuka, T., Araki, H., Witkowski, A., Koh, C. (2012) Diatom assemblages on Nanaura mudflat, Ariake Sea, Japan : with reference to the biogeography of marine benthic diatoms in Northeast Asia. *Botanical Studies*, 53 : 105-124.
- 花崎勝司・三宅壽一・金尾滋史・小北智之 (2011) 津田川上流域 (大阪府岸和田市) で採集されたハリヨ。 *きしわだ自然資料館研究報告*, 3 : 1-4.
- 長田智生・金尾滋史 (2011) 滋賀県内の琵琶湖流入河川で確認されたナガレホトケドジョウ *Lefua* sp. について。 *関西自然保護機構会誌*, 33(2) : 109-112.

## 専門分野の著述

- 岩瀬 彬・出穂雅実・高橋啓一 (2011) 後期更新世の動物相関連文献(1)。 *東京大学常呂実習施設研究報告*, 8 : 56-69.
- 山川千代美・松本みどり (2012) 特集「植物化石研究と植物系統学の進展」巻頭言。 *化石研究会会誌*, 44 (2) : 45-46.
- 里口保文 (2011) 失われゆく資料の保存と利用法。 *博物館でまなぶ-利用と保存の資料論* : 61-84.
- 橋本道範 (2011) 資料情報のネットワーク化。 *博物館でまなぶ-利用と保存の資料論* : 99-113.
- 楊 平 (2012) 名水の里の魅力。 *近江から* 創刊号 : 58-59.
- 楊 平 (2012) 中国・太湖における暮らしと景観の保全。 *東アジア内海文化圏の景観史と環境 景観から未来へ*, 3, : 214-227.
- マーク ジョセフ グライガー・西野麻知子 (2011) ヒメカイエビ属の一種。 *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 566.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2267 (Case 3492) (その一部) . *Heliconius tristero* Brower, 1996 and *Heliconius melpomene mocoa* Brower, 1996 (Lepidoptera : NYMPHALIDAE) : suppression of *Heliconius melpomene bellula* Brown, 1979 not approved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(1) : 84-85.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2268 (Case 3473) (その一部) . *Conops testaceus* Linnaeus, 1767 (currently *Myopas testacea*; Insecta, Diptera) : specific name conserved by designation of a neotype. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(1) : 86-88.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2273 (Case 3497) (その一部) . *Cyphon palustris* Thomson, 1855 (Insecta, Coleoptera) : specific name conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(2) : 150-151.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2275 (Case 3491) (その一部) . *Podargus cornutus* Temminck, 1822 (currently *Batrachostomus cornutus*; Aves, PODARGIDAE) : specific name conserved by designation of a neotype. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(2) : 154-155.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2276 (Case 3479) (その一部) . *Cuvieronius* Osborne, 1923 (Mammalia, Proboscidea) : usage conserved by designation of a type species. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(2) : 156-158.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2277 (Case 3504) (その一部) . *Onthophagus rugulosus* Harold, 1866 (Coleoptera, SCARABAEIDAE) : specific name conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(3) : 218-219.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2283 (Case 3390) (その一部) . *Archaeoptery lithographica* von Mayer, 1861 (Aves) : conservation of usage by



- designation of a neotype. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(3) : 230-233.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2287 (Case 3513) (その一部). *Chaetosoma* Westwood, 1851, *Apodasya* Pascoe, 1863 and CHAETOSOMATIDAE Crowson, 1952 (Insecta, Coleoptera) : usage conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(4) : 303-305.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2011) (Grygier, M. J.) OPINION 2288 (Case 3517) (その一部). LATRIDIIDAE Erichson, 1842 (Insecta, Coleoptera) : precedence given over CORTICARIIDAE Curtis, 1829, and *Corticaria* Marsham, 1802 : usage conserved by designation of *Corticaria furruginea* Marsham, 1802 as the type species. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 68(4) : 306-308.
- International Commission on Zoological Nomenclature(2012) (M. J. Grygier) OPINION 2290 (Case 3523). *Callidea lateralis* Guérin-Méneville, 1838 (currently *Lamprocoris lateralis*; Insecta, Heteroptera) : specific name conserved. *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(1) : 66-68.
- International Commission on Zoological Nomenclature(2012) (M. J. Grygier) OPINION 2292 (Case 3521). *Megaselia abdita* Schmitz, 1959 (Diptera, PHORIDAE) : precedence given over *Aphiochaeta grisei pennis* Santos Abreu, 1921 (currently *Megaselia griseipennis*). *The Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(1) : 72-74.
- 八尋克郎 (2011) オオヒョウタンゴミムシ、コガタノゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキ、オオイチモンジシマゲンゴロウなど19種. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 384-385.
- 八尋克郎・吉田 真 (2011) 昆虫・クモ類の概要. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 380p.
- 八尋克郎 (2011) 変わりゆく滋賀県のチョウ類の分布. *湖国と文化*, 136 : 82-85.
- 八尋克郎 (2011) なぜ今博物館で資料論なのか. *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論* : 1-6.
- 八尋克郎 (2011) 博物館における資料研究のあゆみ. *博物館でまなぶ 利用と保存の資料論* : 35-40.
- 内田明彦・高石清治・八尋克郎 編 (2011) 滋賀県のチョウ類の分布. *琵琶湖博物館研究調査報告書*, 27 : 194p.
- 八尋克郎 (2011) 日本産環境指標ゴミムシ類データベースの公開. *地表性甲虫談話会会報*, 11 : 1.
- 松田征也・中井克樹 (2011) ナカセコカワニナ、ナンゴウカワニナ、クロカワニナ、タテジワカワニナなど36種. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 516-517.
- 松田征也・石田未基 (2011) 兵庫県内で採集された地下水棲微小巻貝について. *ちりぼたん (日本貝類学会研究連絡誌)*, 41 : 103-104.
- 松田征也 (2011) 淡水貝類の概要. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 512.
- 松田征也 (2012) イチモンジタナゴの野生復帰に向けて. *平成23年度イチモンジタナゴ交流会* : 1-3.
- 菅原和宏 (2011) 加温処理によるアユ冷水病の防除に関する研究. *滋賀県水産試験場研究報告*, 54 : 71-109.
- 亀田佳代子 (2011) ヨシゴイ、クイナ、トモエガモ、ヨシガモ、タマシギ、トウネンなど33種類. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 311-356.
- 中井克樹 (2011) カワヒバリガイの特集によせて一事の起こりから20年目を迎えてー. *矢作川研究*, 15: 43-44.
- 中井克樹 (2011) ニクイロシブキツボ、トノサマガゼルガイなど5種. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 537-551.
- 中井克樹 (2011) 陸産貝類の概要. *滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版)* : 536.
- 中井克樹・大谷ジャーメンウイリアム (2011) アズキガイ、オクガタギゼルガイ、トウカイヤマトガイなど

- 41種. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版) : 537-557.
- 中井克樹・金尾滋史・大谷ジャーメンウイリアム (2011) フトギセルガイモドキ. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版) : 545.
- 中井克樹 (2011) 生物多様性の考え方. におのうみ (日本野鳥の会滋賀), 26 : 14-15.
- 中井克樹 (2012) 滋賀県の動植物の特性と地域診断. 地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目 : 140-169.
- 中井克樹 (2012) 滋賀の水生物 1 「鳥類以外」～どんな話にしたものか～. におのうみ (日本野鳥の会滋賀), 28 : 20-21.
- 用田政晴 (2011) 民具を科学する. 民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図からみた近江の民具－ : 1.
- 用田政晴 (2011) 船の道具. 民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図からみた近江の民具－ : 18-21.
- 用田政晴 (2011) 民具研究の新しい試み. 民具を科学する－明治の絵図と現代の実測図からみた近江の民具－ : 24.
- 秋山廣光 (2011) 写真のある美術館・博物館・資料館 滋賀県立琵琶湖博物館. 日本写真学会誌, 74(2) : 43-44.
- 秋山廣光 (2011) アユモドキ、イチモンジタナゴ、ワタカ、アブラボテなど10種. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版) : 490-491.
- 大塚泰介 (2011) 琵琶湖をめぐる「はしかけ」活動. 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門 : 124-125.
- 大塚泰介 (2011) 琵琶湖博物館の交流活動. 文部科学時報, 1632 : 12-13.
- 中藤容子 (2011) 目に見えないものとともに生きる. 伝統食だより, 172 : 3.
- 金尾滋史 (2011) アブラヒガイ、ハリヨ、コバヤシミジンツボ、マツカサガイなど12種. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版) : 487-530.
- 金尾滋史・中井克樹 (2011) ヤコビマイマイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ナタネキバサナギガイなど7種. 滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県レッドデータブック2010年版) : 538-549.
- 金尾滋史・中西康介・田和康太 (2011) 滋賀県内の自然観察会で採集されたナガレホトケドジョウ *Lefua* sp. . 魚類自然史研究会会報 ボテジャコ, 16 : 3-6.
- 金尾滋史 (2011) 淡水魚の学名変換辞書ツールをつくりました. 魚類自然史研究会会報 ボテジャコ, 16 : 15-18.
- 金尾滋史・北村美香 (2011) 博物館スタッフ同士が技を学びあう場 博物館 技のレッドカーペット!! . ミュゼ, 99 : 30-32.
- 金尾滋史 (2011) 滋賀県におけるハタケノウオマオイの採集記録. 滋賀むしの会会報 *Came* 虫, 161 : 14.
- 金尾滋史 (2011) 多景島で採集されたクボタアリツカコオロギ. 滋賀むしの会会報 *Came* 虫, 165 : 14.
- 中峰早織・澤邊久美子・谷口真理 (2011) イシガメのアカミミガメに対する求愛行動について. 日本の淡水カメ記録 亀楽, 2 : 6.

## (5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものをあげた。

高橋啓一

- ・科学研究費補助金 (基盤B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者 (2010～2012年度)
- ・科学研究費補助金 (基盤C) 「日本列島におけるヒト出現期の人間－環境系復元」研究代表者 (2009～2011年度)

里口保文

- ・科学研究費補助金 (基盤C) 「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」研究代表者 (2010～2012年度)
- ・IODP乗船後研究委託 「Exp. 333 NanTroSEIZE インพุットサイトにおけるリファレンス層序研究」共同研究者 (2011年度)

草加伸吾

- ・科学研究費補助金（基盤B）「モンゴル北部森林火災再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」研究代表者（2011～2013年度）
- ・財団法人河川環境管理財団河川整備基金助成事業「森林渓流水の水質形成機構とノンポイント評価―特に大雨時流出の解析に関する研究」研究代表者（2011年度）

橋本道範

- ・科学研究費補助金（基盤C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」研究代表者（2011～2014年度）
- ・科学研究費補助金（基盤C）「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」研究分担者（2010～2012年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」メンバー（2005～2011年度）

宮本真二

- ・科学研究費補助金（若手B）「アジア・モンスーン地域における民族移動に伴う「土地開発史」の再検討」研究代表者（2009～2012年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「人間の生老病死と高所環境―「高地文明」における医学生理・生態・文化適応―」メンバー（2006～2012年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器と現代化：景観の形成史」メンバー（2006～2011年度）

楊 平

- ・科学研究費補助金（基盤C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究代表者（2010～2014年度）
- ・環境省環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案 水田地帯の生物多様性保全を効果的に進めるための社会的条件に関する研究」サブテーマリーダー（2009～2011年度）
- ・総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器と現代化：景観の形成史」メンバー（2006～2011年度）

老 文子

- ・科学研究費補助金（若手B）「複数絵図情報の統合による集落空間の民俗建築学的研究」研究代表者（2010～2013年度）
- ・科学研究費補助金（若手C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究分担者（2008～2011年度）

マーク ジョセフ グライガー

- ・科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の〈生命の賑わい〉総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者（2010～2012年度）
- ・環境省地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案. 2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」研究分担者（2009～2011年度）
- ・科学研究費補助金（基盤B）「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因―陰性環境の生物多様性に光を当てる―」研究分担者（2011～2015年度）
- ・（韓国）国立生物資源館「Discovery of Indigenous Species from Korea」助言委員会委員（2011年度～）

八尋克郎

- ・科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の〈生命の賑わい〉総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者（2010～2012年度）

松田征也

- ・(社)日本動物園水族館協会「環境省 生息域外保全モデル事業(動物)ハリヨ、イチモンジタナゴ野生復帰モデル事業」研究代表者(2011年度)

芦谷美奈子

- ・科学研究費補助金(基盤C)「学校標本の保存・整備を通じた博学連携促進に関する基礎的研究」研究分担者(2009~2011年度)

榊永一宏

- ・科学研究費補助金(基盤C)「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者(2011~2013年度)
- ・文部科学省「平成23年度学芸員等在外派遣研修」(2011年度)

亀田佳代子

- ・科学研究費補助金(基盤C)「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」研究代表者(2011~2013年度)

芳賀裕樹

- ・環境省環境研究総合推進費「魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究 水草の異常繁茂の状況把握とメカニズムの解明に関する研究」サブテーマリーダー(2010~2012年度)

楠岡 泰

- ・科学研究費補助金(基盤B)「わが国における原生動物の出現記録の整理と多様性保全のための分布基礎調査」研究分担者(2008~2011年度)
- ・科学研究費補助金(基盤 B)「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」研究分担者(2009~2012年度)

中井克樹

- ・環境省環境研究総合推進費「外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」分担者(サブテーマ「外来魚類の防除手法開発および防除体制強化」)(2011~2013年度)
- ・独立行政法人水産総合研究センター 健全な内水面生態系復元等推進委託事業「吊り下げ式人工産卵床を用いた繁殖抑制と蝸集現象を利用した捕獲に関する研究」研究代表者(2011年度)

ロビン ジェームス スミス

- ・科学研究費補助金(基盤C)「巨大精子の形態と化石資料を用いた琵琶湖地域のキプリス上科カイミジンコ類進化の解明」研究代表者(2010~2012年度)
- ・科学研究費補助金(基盤B)「進化のゆりかご日本海-「緑海ポンプ効果」モデルの新たな展開」研究分担者(2009~2013年度)

菅原和宏

- ・農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発研究」研究分担者(2011年度)

用田政晴

- ・科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」研究代表者(2008~2011年度)
- ・科学研究費補助金(基盤C)「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究分担者(2010~2014年度)
- ・科学研究費補助金(基盤B)「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の脈わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者(2010~2012年度)

大塚泰介

- ・科学研究費補助金（基盤C）「水田におけるニゴロブナ仔稚魚の成長と微小生物群集との相互作用の解明」研究代表者（2009～2011年度）
- ・環境省地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」サブテーマリーダー（2009～2011年度）

金尾滋史

- ・農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稲栽培技術の開発 水田及び周辺水域の生態系保全のための魚類増殖技術の開発」研究担当者（2009～2011年度）
- ・独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発事業「地域主導型科学者コミュニティの創生」研究分担者（2008～2011年度）

<研究調査業務受託>

- ・独立行政法人水産総合研究センター 健全な内水面生態系復元等推進委託事業 吊り下げ式人工産卵床を用いた繁殖抑制と蝸集現象を利用した捕獲に関する研究（2011年度）
- ・名古屋大学 環境省地球環境研究総合推進費 水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案（2009～2011年度）
- ・社団法人日本動物園水族館協会 環境省生息域外保全モデル事業（動物）ハリヨ、イチモンジタナゴ、野生復帰モデル事業（2011年度）
- ・滋賀県水産試験場 環境省環境研究総合推進費 魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究（2010～2012年度）
- ・滋賀県水産試験場 農林水産省新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稲栽培技術の開発研究（2011年度）

## (6) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。この研究成果発信の一環として2008年度から3年にわたって開催した、「新琵琶湖学入門セミナー」「新琵琶湖学専門セミナー」「新琵琶湖学創造セミナー」が好評を得たため、2011年度からも引き続き同形式の「新琵琶湖学セミナー」を開催することになった。

今年度は「時空を超えて湖と人の関係性をみる」をテーマとして掲げ、当館学芸員を中心に、県内外の研究機関等に所属する講師が、湖とひとの関わりを歴史的な視点から探求し、その有様を時間軸に沿って見つめ直し、現在や将来を考える話題を提供した。

各回ともに多くの参加者があり、延べ328名の参加者があった。

開講日 : 2012年2月4日・11日・18日・25日・3月3日の土曜日（計5日間）

開講時間 : 1日2講演（13:30～14:30／14:45～15:45）

会場 : 琵琶湖博物館セミナー室

第1回 2月4日（土） 参加者 71名

「エリとヤナの漁業史」

植田文雄（琵琶湖博物館・佛教大学）

「縄文時代の琵琶湖における居住戦略」

瀬口真司（滋賀県文化財保護協会）

第2回 2月11日（土） 参加者 67名

「都市消費から見た中世の琵琶湖漁撈」

橋本道範（琵琶湖博物館）

「塩津港遺跡出土の木簡と中世湖上交通」	濱 修 (滋賀県文化財保護協会)
第3回 2月18日 (土) 参加者 47名	
「佐和山城と信長の大船の意義」	用田政晴 (琵琶湖博物館)
「安土城築城期における大中の湖の湖沼環境変化」	小関大樹 (京都女子大学)
第4回 2月25日 (土) 参加者 69名	
「滋賀県の生活文化史－俳句に見る魚－」	篠原 徹 (琵琶湖博物館)
「忘れられた琵琶湖の丸船－丸船と丸子船をめぐって」	杉江 進 (大津市教育委員会)
第5回 3月3日 (日) 参加者 74名	
「農具から近江の地域性をさぐる」	辻川智代 (琵琶湖博物館)
「古写真からみた琵琶湖の変化」	秋山廣光 (琵琶湖博物館)

## (7) 特別研究セミナー

2011年度は以下の特別研究セミナーを開催した。

- 第 61 回 2011 年 7 月 24 日 (日) 13:30～16:00 (場所：琵琶湖博物館 セミナー室)  
 テーマ：琵琶湖にすむビワマスの生態に迫る!!
- ・ 湖内におけるビワマス生態調査の可能性 桑原雅之 (琵琶湖博物館)
  - ・ 琵琶湖でビワマス大追跡!  
 光永 靖 (近畿大学農学部水産学科 講師)、神村裕之 (近畿大学農学部水産学科 修士課程)
  - ・ ビワマスの母川回帰性～耳石の安定同位体比と微量元素組成による検討～  
 大竹二雄 (東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター センター長)、  
 天野洋典 (東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 博士課程)
- 第 62 回 2012 年 2 月 21 日 (火) 13:30～16:50 (場所：琵琶湖博物館 セミナー室)  
 テーマ：人は博物館でどう癒されるのか
- ・ 利用者、心理学者の立場から：鈴木康明 (東京福祉大学)
  - ・ 学芸員の立場から：秋山廣光 (琵琶湖博物館)

## (8) 研究セミナー

毎月第 3 金曜日 13:15～15:15 に以下の研究セミナーを開催した。(場所：琵琶湖博物館会議室)

- 第1回 2011年4月15日 (金) 参加者30名
- 篠原 徹 里山をめぐる諸問題  
 天野一葉 水鳥によるアオコ原因藍藻類 *Microcystis aeruginosa* の検出  
 宮本真二 地理学からみた環境史研究－人間の環境としての自然の研究－
- 第2回 2011年5月20日 (金) 参加者33名
- 用田政晴 小谷城の体系的構造と史的評価－NHK大河ドラマ「江」によせて－  
 老 文子 民俗景観を分析・表現する－滋賀県彦根市肥田町を事例として－  
 金尾滋史 琵琶湖周辺における水田利用魚類の現在・過去・未来
- 第3回 2011年6月17日 (金) 参加者38名
- 草加伸吾 モンゴル北部フブスグル湖流域における倒木遮蔽更新仮説の検証－土壤水分環境に及ぼす倒木の影響－  
 楊 平 家船生活に及ぼす湖の開発とその対応

- 高橋啓一 新たな標本がもたらした“不都合な真実”―襟裳岬マンモスゾウの年代測定結果を考える―
- 第4回 2011年7月15日(金) 参加者24名  
 芦谷美奈子 展示(プログラム)評価の手法と得られる情報の再検討  
 マーク ジョセフ グライガー 動物命名法国際審議会に提出された案件(Case)に対するグライガー委員の投票と意見  
 大塚泰介 水田珪藻研究の過去・現在・未来
- 第5回 2011年8月19日(金) 参加者29名  
 戸田 孝 琵琶湖博物館における博物館学の方向性  
 秋山廣光 映像資料は役立ったか―博物館における映像資料の収集と利用についての可能性―  
 中藤容子 「昔くらし体験」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義(3)
- 第6回 2010年9月16日(金) 参加者25名  
 桑原雅之 琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの関係  
 松田征也 滋賀県で分布拡大している2種の貝類について  
 山川千代美 シガゾウがいた頃の古植生復元―滋賀県高島市安曇川河床の古琵琶湖層群産足跡化石に伴う植物化石から―
- 第7回 2010年10月21日(金) 参加者29名  
 里口保文 琵琶湖堆積物で検討する洪水履歴  
 菅原和宏 アユの冷水病について―加温処理によるアユ冷水病の防除―  
 朱 偉 *Microcystis*群体形成・浮上によるアオコ発生のメカニズム研究
- 第8回 2010年11月18日(金) 参加者35名  
 芳賀裕樹 南湖の水草増加要因の再検証 2  
 八尋克郎 カワウの巣の昆虫相  
 亀田佳代子 カワウコロニーでの森林回復に対するグアノ採取の効果
- 第9回 2010年12月16日(金) 参加者27名  
 楠岡 泰 ツリガネムシ類(原生動物・繊毛虫)の系統解析  
 橋本道範 日本中世における年中行事と生業の構造―琵琶湖のフナ属の生態を基軸として―  
 碓登志之 中流域におけるゆりかご水路の検証について
- 第10回 2011年1月20日(金) 参加者26名  
 寺尾尚純 里山と人のくらしのつながり―ナラ枯れと木質バイオマス利用―  
 中井克樹 外来魚との知恵比べ:2011年シーズンの結果
- 第11回 2011年2月17日(金) 参加者30名  
 奥村浩匡 竹によるゼロエミッション型地域モデル構築の検討について―伐採竹のパウダー化による家畜敷料としての利用実験について(2011)―  
 大依久人 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして―新しい学習シートの開発―
- 第12回 2011年3月16日(金) 参加者29名  
 榊永一宏 大英自然史博物館での研修報告  
 中井大介 STEP分けした自然観察会の実施(都市公園湖岸緑地での取り組み)  
 藤橋和弘 琵琶湖博物館と学校のよりよい連携をめざして―中学校・高校・大学・特別支援学校の体験学習の傾向と対策―

## (9) 研究員の受け入れ

- ・中井大介 2010年5月1日～2011年4月30日, 2011年5月1日～2012年4月30日  
 テーマ: 河川における珪藻群落と水質の関係

- ・朱 偉 2010年9月1日～2011年8月31日, 2011年9月1日～2012年8月31日  
テーマ: 藍藻細胞群集化現象に基づくアオコ発生メカニズムの解明
- ・北村美香 2011年1月13日～2012年1月12日, 2012年1月13日～2013年1月12日  
テーマ: 利用者から見た日本のミュージアム活用についての研究
- ・柏尾珠紀 2011年2月20日～2012年2月19日, 2012年2月20日～2013年2月19日  
テーマ: 琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・中野正俊 2009年5月1日～2012年3月31日  
テーマ: 児童生徒の理科離れに対応した理科・環境学習モデルの構築と評価
- ・黒岩啓子 2010年4月1日～2012年3月31日  
テーマ: 博物館におけるコミュニケーションと学びについて: もの、情報、人との相互関係に関する研究
- ・鈴木隆仁 2011年4月1日～2012年3月31日  
テーマ: 琵琶湖、水田およびその周辺地域における淡水腹毛動物の分布調査
- ・天野一葉 2011年4月1日～2012年3月31日  
テーマ: 琵琶湖集水域における水鳥の分布と生息環境の関係
- ・辻川智代 2011年4月1日～2012年3月31日  
テーマ: 考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・林 博通 2011年4月1日～2012年3月31日  
テーマ: 琵琶湖湖底遺跡の研究
- ・植田文雄 2011年1月10日～2013年3月31日  
テーマ: 琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究—考古資料と民俗資料の比較検討を中心に—
- ・布谷知夫 2009年4月1日～2014年3月31日  
テーマ: 住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2010年4月1日～2015年3月31日  
テーマ: 博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2010年4月1日～2015年3月31日  
テーマ: コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・前畑政善 2011年4月1日～2016年3月31日  
テーマ: 水田魚類の研究
- ・牧野厚史 2011年4月1日～2012年3月31日  
テーマ: 琵琶湖湖岸域および森林の近現代における環境変遷についての環境社会学的研究

## (10) 海外交流活動

### 1) 研究に関する国際用務

用田政晴

2011年7月21日～7月24日, 大韓民国ソウル特別市, 博物館調査

2011年9月17日～9月22日, 中華人民共和国湖南省・湖北省, 中国における博物館調査および現地資料  
実態調査

マーク ジョセフ グライガー

2011年6月29日～7月5日, 大韓民国ソウル特別市 (ハンヤン大学)・慶尚北道 (テグ大学)・慶尚南道,  
研究セミナー発表・ワークショップ開催・水田生物現地調査

2011年9月6日～9月12日, 中華民国台北市, 「第7回国際大型鰓足類動物検討会」参加・発表

草加伸吾

2011年6月22日～7月6日, モンゴル人民共和国, 現地調査



2011年9月15日～10月2日, モンゴル人民共和国, 現地調査

宮本真二

2011年6月30日～7月4日, タイ王国, 研究打合せ

2011年8月7日～8月17日, インド共和国, 現地調査

2011年8月28日～9月15日, ブータン王国, 現地調査

2011年11月8日～11月23日, バングラデシュ人民共和国, 現地調査

2012年2月12日～2月21日, ミャンマー連邦, 学会発表・現地調査

楊 平

2011年5月21日～5月30日, 中華人民共和国陝西省西安・江蘇省太湖周辺, 学会(IEEE PRESS 2011 International Symposium on Water Resource and Environmental Protection)参加・発表および現地調査

2011年7月2日～7月10日, 中華人民共和国江蘇省太湖周辺, 現地調査および情報収集

2011年9月21日～9月30日, 中華人民共和国江蘇省太湖周辺, 現地調査および情報収集

2011年10月30日～11月6日, アメリカ合衆国テキサス州オースティン市, 「第14回世界湖沼会議」参加・発表

2012年3月5日～3月9日, 中華人民共和国江蘇省太湖周辺, 現地調査および情報収集

ロビン ジェームス スミス

2011年7月23日～7月31日, ドイツ・ミュンヘンおよびオーストリア・グラーツ, 研究打合せおよび第7回 ヨーロッパカイミジンコモミティンク参加・発表

中井克樹

2011年10月31日～11月10日, アメリカ合衆国テキサス州オースティン市, 「第14回世界湖沼会議」参加・発表

柘永一宏

2011年11月19日～2012年2月6日, イギリス・ロンドン, 大英自然史博物館, 文部科学省平成23年度学芸員等在外派遣研修

### 3 新たな参加と発見ができる博物館

#### 展示活動

##### (1) 常設展示の主な更新

###### 1) 全体

水族展示・企画展示室を除く各展示室において、スポットライトのほとんどをミニハロゲンからLEDに交換した。

###### 2) A 展示室

地域の人々による展示コーナー

「湖国の鉱物・鉱山」 展示：福井龍幸氏

期間：2010年6月～2011年7月

「鮎河層群産 クジラ化石」 展示：長澤芳佑氏・大西浩吉氏

期間：2011年7月～2012年1月

「古琵琶湖の初期にできた化石」 展示：川口 貢氏・飯村 強氏

期間：2012年1月31日(火)～

###### 3) B 展示室

収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。

「収蔵庫をのぞいてみよう！－歴史展示の舞台裏－」

3月15日(火)～4月24日(日) 近江八景 栗津晴嵐 他5点

4月26日(火)～5月29日(日) 近江国図 他4点

5月31日(火)～7月3日(日) 愛知川上之手御普請所并川形見取絵図 他5点

7月5日(火)～7月31日(日) 野洲郡第八区洲本村絵図 他4点

10月18日(火)～11月20日(日) 廻船寶富久呂 他4点

11月22日(火)～12月23日(金) 農具便利論 他5点

2月7日(火)～4月15日(日) トピック展示 ありがとう15周年 『屏風まつり(ミニ)』

第1期 描かれた琵琶湖の姿を楽しむ：2月7日(火)～3月11日(日)

近江名所図屏風六曲一隻 江戸時代中期・18世紀／本館蔵 (初公開)

大日本国図屏風 六曲一隻 江戸時代前期・17世紀／本館蔵

第2期 描かれた祭の様子を楽しむ：3月13日(火)～4月15日(日)

日吉山王祭礼図屏風 六曲一隻 江戸時代前期・17世紀／本館蔵

日吉山王祭礼図屏風 六曲一双のうち一隻 江戸時代中期・18世紀／本館蔵

###### 4) C 展示室

展示更新等なし

###### 5) 水族展示室

展示更新等なし

## 6) 屋外展示

本館アトリウムから琵琶湖が見えるように屋外植栽の一部を剪定した。

## 7) ディスカバリールーム

- ①音のへや      南米の楽器      4月1日～4月11日  
                  アジアの楽器      4月12日～11月2日  
                  アフリカの楽器      11月3日～3月31日

### ②おばあちゃんの台所

春バージョン (4月1日～6月8日) / 夏バージョン① (6月9日～8月7日) /  
夏バージョン② (8月8日～9月3日) / 秋バージョン (9月4日～11月28日) /  
冬バージョン (11月29日～2月12日) / 春バージョン (2月13日～3月31日)  
こどもの日    4月16日～5月29日  
七夕            6月14日～7月7日  
お月見        9月4日～9月12日  
お正月        1月3日～1月15日  
節分           2月2日～2月3日  
ひな祭り      2月19日～3月3日

### ③ディスカバリーコーナー

BOX「恐竜パズル」リニューアル      8月25日更新  
竜巻をつくろう！                      1月3日～1月31日

### ④ブックコーナー

春バージョン (4月1日～6月1日) / 夏バージョン (6月2日～8月31日) /  
秋バージョン (9月1日～1月11日) / 冬・春バージョン (1月12日～3月31日)

### ⑤石の下/水の中

春バージョン (4月3日～6月29日) / 夏バージョン (6月30日～9月3日) /  
秋バージョン (9月4日～11月28日) / 冬バージョン (11月29日～3月31日)  
春バージョン (3月8日～3月31日)

### ⑥人形劇場

春バージョン (4月1日～8月3日) / 夏バージョン (8月4日～9月19日) /  
秋冬バージョン (9月20日～2月22日) / 春バージョン (2月23日～3月31日)

### ⑦ディスカバリーカウンター (生きものの展示)

ヒバカリ                              4月1日～3月31日  
クビキリギス (ピンク色)          4月1日～8月25日  
ナマズ (幼魚)                        5月29日～7月29日  
ナミコギセルガイ                    6月1日～3月31日  
カイエビ                              6月2日～6月12日  
ハウネンエビ                        6月3日～6月11日  
アジアカブトエビ                    6月3日～6月4日  
カイコ                                 6月12日～8月6日  
ヒメボタル                            6月15日～6月22日  
ノコギリクワガタ                    7月6日～3月31日  
キリギリス                            7月30日～10月19日  
コクワガタ                            8月14日～3月31日

カネタタキ	9月30日～11月8日
サトクダマキモドキ	10月13日～10月18日
マミズクラゲ	10月15日～11月20日
アブラコウモリ	10月15日
トゲナナフシ	11月4日～11月6日
キリギリス	11月19日～12月8日
クビキリギス	11月19日～3月31日
アカハライモリの卵	3月7日～3月

## (2) 企画展示

### 第19回企画展示「こまった！カワウー生きものとのつきあい方」

#### 1) 概要

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

期間：2011年7月16日（土）～11月23日（水・祝）

場所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料：小・中学生 100円（80円） 高・大学生 160円（120円） 一般 200円（160円）

（（ ）内は20名以上の団体料金）

観覧者数：29,256人

展示製作：主担当 亀田佳代子

副担当 松田征也、奥村浩匡、牧野厚史（現熊本大学）

製作 瀬川也寸子、高田千都子、谷川真紀

展示施工：株式会社 日展

標本輸送：東京内田科学社

ビデオ製作：エアロビデオ

展示協力：秋山廣光、天木嘉義、猪狩敦史、生嶋巖雄、井口恵一朗、石井達也、石田 朗、石田未基、伊藤元裕、井上亜木、井上裕紀子、卯田宗平、江崎保男、大崎卓夫、岡村喜明、籠 洋、加藤ななえ、木田幹夫、北村美香、草加伸吾、小島好昭、木庭啓介、齋藤宏一、齋藤泰造、杉野由佳、鈴木康子、須藤明子、高石清司、高木憲太郎、高橋晃周、高橋和征、谷川友美、出口武洋、鳥塚五十三、中島省三、夏原浩子、野一色麻人、橋本道範、廣澤嘉成、藤井弘章、藤岡大毅、藤岡千裕、藤岡正博、古谷桂信、細井正史、前迫ゆり、松田裕之、峰 覚雄、八尋克郎、山本 芳、八代田千鶴、渡邊潤子、綿貫 豊、Rodolfo Beltrán Bravo（ペルー共和国農業省 AGRORURAL 長官）、Luis Alfaro（ペルー共和国環境省 SERNANP 長官）、Felipe Adrianzén Reyes、José Aguirre Loayza、Melchor Llica Dávila、Rodolfo Lara Barboza、Víctor Donayle Miranda、愛知県環境部自然環境課、愛知県公文書館、愛知県知多郡美浜町教育委員会、愛知県美浜町上野間区、愛知県美浜町立上野間小学校、我孫子市鳥の博物館、NPO 法人バードリサーチ、大阪市天王寺動植物公園事務所、(株) イーグレットオフィス、環境省自然環境局野生生物課、関東カワウ広域協議会、群馬県水産試験場、国立科学博物館、(財) 天野博物館、(財) 山階鳥類研究所、滋賀県湖北森林整備事務所、滋賀県農政水産部水産課、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、滋賀森林管理署、千歳サケのふるさと館、長浜市産業経済部農政課、

日本福祉大学知多半島総合研究所、ペルー環境省、  
ペルー国立考古学・人類学・民俗学博物館、ペルー農業省、  
Bird Research Northwest

## 2) 内容

カワウは、湖沼や河川で魚を捕り、森林で集団繁殖を行うことにより、湖から森へと物を運ぶ働きを持っている。一方カワウは日本の在来種であり、人間にとっては昔から身近な存在であった。そのため、カワウは水域と陸域のさまざまな生物や水域－陸域間の物質循環に影響を与えると同時に、人との間にもさまざまな関係を持ちながら暮らしてきた。本企画展示では、カワウを軸に、物質輸送という鳥のもつはたらきと、それにまつわる人と野生生物との多様な関係のありようを、国内外の事例と研究の成果をまじえて紹介する。また、県内においてカワウがもたらしているさまざまな悪影響（繁殖によって森林が衰退している竹生島、深刻な漁業被害など）についても展示する。このことによって、身近に生息する野生生物と人との「共存・共生」について、来場者に考えてもらう材料を提供することを目的とした。

## 3) 展示項目

- 1 はじめに
- 2 カワウってどんな鳥？  
河鵜博士の研究室／カワウとその仲間たち／カワウの一生
- 3 カワウの移・食・住  
移：動くカワウ／食：水中のカワウ／住：森のカワウ
- 4 モノをはこぶカワウ  
カワウが森を変える？／モノをはこぶ生きものたち
- 5 増えた！こまった！琵琶湖のカワウ  
なぜカワウは増えたのか／カワウコロニーの変遷  
木が枯れる！竹生島の森からのSOS／魚が食べられる！悩む琵琶湖の漁師さんたち  
琵琶湖のカワウへの処方箋
- 6 ウと人とのかかわり  
日本－鵜の山の糞採取／世界－グアノ採取と鵜飼い
- 7 世界水鳥サミット  
サミット概要／サミット出席鳥の紹介／各国代表による話題提供
- 8 体験コーナー  
水鳥グッズ／水鳥を描こう！／鳴き声当て・あしあとクイズ

## 4) 関連事業

- ①内覧会 7月15日（金）13:30～ 県内関係者およびマスコミを招いて実施
- ②オープニングセレモニー 7月16日（土）9:30～  
テープカット：鳥塚五十三（滋賀県漁業協同組合連合会会長）、牧野厚史（熊本大学）、  
藤岡大毅・石井達也（展示製作協力）、篠原 徹（琵琶湖博物館長）
- ③企画展示関連シンポジウム  
「こまった！カワウ わかった？！カワウ －カワウと人の過去・現在・未来－」  
日時：2011年11月13日（日）13:30～16:30  
主催：滋賀県立琵琶湖博物館  
場所：琵琶湖博物館 ホール

参加人数：83名

内容：琵琶湖をはじめとする日本各地で、カワウは内水面漁業や森林に影響をおよぼすが、琵琶湖では、ここ2年の大規模個体数管理により、個体数は大幅に減少してきた。その結果、竹生島などでは植生回復の兆しが見えつつある。しかし、対岸の葛籠尾崎（つづらおざき）に新たなコロニーができるなど、今後のカワウの動きと被害がどのように変化していくのかは、まだまだ未知の部分がたくさんある。本シンポジウムでは、カワウとカワウをめぐる「こまった」現状について紹介するとともに、過去のカワウ、漁業、森林の状況、カワウと人とのかかわりについても紹介する。今後のカワウとのつきあい方を、少しでも「わかった」「みえた」状態へと変えていくためにはなにが必要なのか、参加者の方々と一緒に考えることを試みた。

#### プログラム

◆開会のあいさつ 篠原 徹（琵琶湖博物館館長）

◆基調講演

松田裕之（横浜国立大学大学院環境情報研究院）

「琵琶湖でのカワウの被害と対策 ～野生動物管理の視点から～」

◆講演

亀田佳代子（琵琶湖博物館）

「カワウの生態と機能、生息状況の変遷」

井口恵一朗（（独）水産総合研究センター増養殖研究所）

「近頃のアユを介したヒト-カワウ模様」

前迫ゆり（大阪産業大学大学院人間環境学研究所）

「竹生島の森林変遷と森林保全の視点」

藤井弘章（近畿大学文芸学部）

「民俗学からみたカワウの営巣地管理 ～滋賀県竹生島と愛知県鶯の山～」

◆パネルディスカッション

「琵琶湖のカワウ、漁業、森林のこれから」

パネリスト：松田裕之、井口恵一朗、前迫ゆり、藤井弘章、亀田佳代子

コーディネーター：牧野厚史（熊本大学文学部）

#### ④企画展示室での交流事業

○企画展示担当者によるフロアトーク「企画展解説ツアー」

2011年7月23日（土）、8月23日（火）、9月29日（木）、11月2日（水）

いずれも11:00～11:20

○フロアトーク「鶯飼いの話」（篠原 徹）

2011年9月23日（金）11:00～11:20、11月12日（土）11:00～11:20、14:00～14:20

○琵琶湖博物館はしかけ『びわたん』ワークショップ 「カワウのことを調べてみよう！」

2011年8月24日（水）13:30～、2011年10月1日（土）13:30～、14:30～

#### ⑤企画展示室以外の交流事業

○観察会「漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう」（桑原・菅原・亀田）

2011年7月30日（土）6:00～12:00

○観察会「アユの産卵用人工河川を見てみませんか」（菅原・桑原）

2011年9月17日（土）10:00～12:00 →悪天候のため中止

○指導者のための博物館活用講座第3回「琵琶湖の鳥たちを見てみよう」（亀田・大依・藤橋）

2011年11月17日（木）13:30～16:30

## ⑥常設展示室での関連事業

○B 展示室収蔵資料展示（橋本・渡邊）

「企画展示関連企画Ⅰ 深緑の竹生島」 2011年8月2日（火）～9月11日（日）

「企画展示関連企画Ⅱ 鶺鴒－鶺鴒と人の歴史－」 2011年9月13日（火）～10月16日（日）

## ⑦その他関連事業

琵琶湖博物館はしかけ『びわたん』作成のワークシートの設置（岩西・北村・肥山）3種類用意し、一日1種のワークシートを受付に設置し、自由に使えるようにした。

## 5) 企画展示解説書

「こまった！ カワウー生きものとのつきあい方」

価格：340円 サイズ：B5版 61ページ

発行：平成23(2011)年7月

## 6) 広報

### ①広告、催し物案内の掲載

びいめ〜る（企画展案内）	6月1日
れいかる湖国文化情報（催しもの案内）	6月・8月・10月
全科協ニュース（催しもの案内）	7月1日・9月1日・11月1日
でんごんばん（催しもの案内）	7月1日・9月1日
朝日新聞（企画展紹介）	7月13日・9月14日
博物館研究（催しもの案内）	7月・8月・9月・10月・11月
子供の科学（企画展紹介）	7月・8月・9月・10月・11月
電車&ウォーク（企画展紹介）	
滋賀プラスワン 新聞版（企画展紹介）	7月31日
ハーヴェストタイムズ（博物館と企画展紹介）	8月
AUTUMN 滋賀たび（博物館紹介と催しもの案内）	
SHIGA-ICHI!!（博物館と企画展紹介）	9月15日
にゅーすもりやま（企画展シンポジウム紹介）	11月1日

### ②新聞記事の掲載

6月4日	中日新聞	コラム「湖岸より 変化する鳥とのつき合い方」
7月16日	京都新聞	「こまったカワウテーマに企画展」
7月21日	毎日新聞	コラム「ここだけの湖の話 企画展 鳥と人“つきあい方”を模索」
7月22日	毎日新聞	「大量繁殖や森林破壊 カワウの害知って 琵琶湖博物館」
8月20日	中日新聞	コラム「湖岸より 鳥と人の多様な関わり」
9月4日	京都新聞	「害鳥・カワウ」姿知って 琵琶湖博物館で企画展
9月8日	毎日新聞	（オー！ミー） 「琵琶湖博物館 こまった！カワウー生きものとのつきあい方展」
9月22日	毎日新聞	コラム「ここだけの湖の話 カワウ 11月13日、シンポで報告」

### ③ラジオ・テレビでの放映

10月13日（木）	KBS 京都ラジオ	「森谷威夫のお世話になります」
11月9日（水）	KBS 京都ラジオ	「羽川英樹の京・奈良・近江☆みつけ旅」

### ④インターネット配信

10月28日（金）	滋賀県庁ムービーチャンネル	「滋賀県立琵琶湖博物館」
-----------	---------------	--------------

### ⑤館外での展示・講演

7月15日～8月31日 イオンモール草津での展示

8月12日(金) 大津プリンスホテル「琵琶湖の鳥のお話とヨシ笛作り体験」

### ⑥その他

のぼりの設置：鳥丸半島入口付近、草津駅など

オリジナル缶バッジの配布

① 夏休み特別企画「鳥といっしょに早起きしよう！」

・開館より先着50名(中学生以下)

・期間：2011年8月20日(土)～8月31日(水)

② シンポジウム開催企画「世界のウの仲間たち」

・開館より先着100名

・開催日：2011年11月13日(日)(企画展示関連シンポジウム開催日)

### 7) ショップ・レストランとの連携

ショップにて、企画展示オリジナルグッズとして、陶器のカワウの置物を販売

### 8) 展示解説の対応

石部高校ミュージアムスクール 7月27日(水)

滋賀県農業農村振興事務所長会議 7月29日(金)

自然調査ゼミナール 8月2日(火)

関西博物館研究会企画展示交流会 10月13日(木)

JICA研修事業「生物多様性保全のための野生動物問題解決手法コース」10月27日(木)

立命館守山中学校 10月29日(土)

内部向け解説：展示交流員モーニングレクチャー 7月19、20、22、23日



カワウってどんな鳥？



シンポジウムパネルディスカッション

### (3) 水族企画展示

#### 1) 第24回水族企画展示「レッドリストの魚たち」

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

後援：滋賀県自然環境保全課

場所：琵琶湖博物館水族企画展示室

展示担当：松田征也・中井克樹・水族飼育員

開催期間：2011年4月29日(金・祝)～9月4日(日)

開催趣旨：滋賀県ではこれまでに、外来種を含め淡水魚類78種、淡水貝類67種が記録されている。こ



のように多くの種類が生息していることは、琵琶湖が悠久の歴史をもつ古代湖であり、複雑で多様な自然環境が存在するからだと考えられる。しかし、近年、さまざまな開発行為がもたらす環境変化や、他の地域から持ち込まれた外来生物の影響などにより、在来の生き物たちをとりまく環境は、どんどん悪化している。残念ながら、淡水魚では2種が、滋賀県内からすでに姿を消している。そして、それ以外にも多くの淡水魚・淡水貝が絶滅の危機に瀕しているのが現状である。

この水族企画展示は、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課が2000年から5年おきに見直しを行っている『滋賀県で大切にすべき野生生物』の2010年版に掲載された淡水魚・淡水貝を展示し、生き物たちがおかれている現状を紹介するとともに、これらの生き物たちが将来にわたって生き残るために、自然環境を保全することの重要性を考える機会を提供することを目的に開催した。展示内容：滋賀県で大切にすべき野生生物 2010年版に掲載された魚種および淡水生貝類のうち次の生物を展示紹介した。

魚類：(生体展示) (魚類 23種 約350個体)

絶滅危惧種	ギギ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、カワバタモロコ、スジシマドジョウ大型種、ワタカ、アブラヒガイ、ハリヨ、アユモドキ
絶滅危機増大種	イトモロコ、イワトコナマズ、ホンモロコ、カネヒラ、アブラボテ、ズナガニゴイ、ホトケドジョウ、ヤリタナゴ、メダカ
希少種	スゴモロコ、ビワヒガイ、モツゴ、ニゴロブナ
2010年新種記載種	ヨドゼゼラ

淡水貝類：(標本展示) (淡水貝類 35種 約50個体)

絶滅危惧種	カワネジガイ、オオウラカワニナ、フトマキカワニナ、イケチョウガイ、ニセマツカサガイ、カタハガイ、オグラヌマガイ
絶滅危機増大種	ナカセコカワニナ、マツカサガイ、オバエボシガイ、オトコタテボシガイ、セタシジミ、マシジミ
希少種	ナガタニシ、マルタニシ、イボカワニナ、モリカワニナ、クロダカワニナ、メンカラスガイ、マルドブガイ
要注目種	オオタニシ、ヒラマキガイモドキ、ヒラマキミズマイマイ、ドブシジミ、マメシジミ、ヒダリマキモノアラガイ
分布上重要種	タテヒダカワニナ、ハベカワニナ、ヤマトカワニナ、カゴメカワニナ、カドヒラマキガイ、オウミガイ、タテボシガイ、ササノハガイ、ビワコドブシジミ

展示パネル：

- ・水族企画展示「レッドリストの魚たち」の開催にあたって
- ・滋賀県版レッドデータブック ・魚類のいま ・淡水貝類のいま
- ・特別に注意すべき外来種
- ・国(環境省)と滋賀県におけるレッドリストのカテゴリー
- ・レッドリスト掲載種の一覧表

#### (4) ギャラリー展示

##### 1) 古琵琶湖の化石 奥山茂美コレクション寄贈記念 「化石が語る350万年前の生きものたち」

場所：企画展示室

期間：2011年4月29日(金・祝)～6月12日(日)

担当：高橋啓一、山川千代美、里口保文

内容：約350万年前の古琵琶湖層の化石を長年にわたり採集してきた(故)奥山茂美氏の標本

が琵琶湖博物館に寄贈されたことを記念して行った。寄贈された標本は約8,500点におよび、この中には巨大なミエゾウの歯や日本最古のウサギ化石をはじめ、琵琶湖が誕生した初期の様子を解き明かす貴重な動植物化石が多く含まれていた。これらの展示をすることで、来館者に琵琶湖誕生期の様子を知ってもらい、琵琶湖のおいたちに興味を持ってもらうことを目的とした。あわせて、展示会ではほぼ同じ時代の他の地域から発見された動植物化石や、その頃の琵琶湖の様子を描いたブライアン・ウィリアムズさんの復元画も展示し、350万年前の世界を楽しめる企画とした。

## 2) 民具を科学するー明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具ー

場所：企画展示室

期間：2012年1月7日(土)～3月11日(日)

担当：用田政晴、老 文子、辻川智代、國分政子、細川真理子

内容：琵琶湖博物館では、保管する約6500点の民具資料をもとにし、これまでの資料整理法を援用した新しい民具の分類・整理・保管方法を確立するため、科学研究費補助金事業を4年間にわたって行ってきた。今回はその成果を利用して古代から近代までの物質文化に基づく通史的視座によるいくつかのテーマについて生活・生業史を復元した。

『近江六郡物産図説』『近江水産図譜』などの明治期絵図を元に、民具の展示を構成しながら、詳細実測図作成・観察法などを紹介し、それらの新しい科学的な分析法により民具を歴史資料化して明らかになった研究成果を紹介した。

展示項目：考古民俗学的方法論／米をつくる道具（鋤、鍬、犁、唐箕、万石）／  
茶をつくる道具（蒸器、焙炉、茶壺）／魚をとる道具（刺網、筌）／  
船の道具（舵、櫓、碇、塗取り）／桶風呂／明治時代の農具絵図／  
現代の実測図／動画資料（筌の製作、桶風呂の製作）

## 3) 水族ギャラリー展示「湖国の鳴く虫たちー庭の小さな音楽家ー」

場所：水族企画展示室

期間：2011年9月17日(土)～11月6日(日)

協力：NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク、日本直翅類学会

\*NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク事業「鳴く虫巡回展」の協力を得て開催

担当：秋山廣光、金尾滋史

内容：昔から日本人は鳴く虫に親しみ、特別な思いで歌に詠んだりしてきた。このギャラリー展示では、なかなか目にすることができない鳴く虫たちを、俳句とともに紹介した

展示：スズムシ、マツムシ、エンマコオロギ、クサヒバリ、カネタタキ、ヒロバネカントン、キリギリスなど約20種類 150点の生体・標本・写真・解説パネルなど

関連イベント：①鳴く虫を題材にした俳句を募集し、入賞作品をアトリウムに展示した

募集期間 8月2日(火)～9月30日(金)

選考委員 金子兜太・茨木和生・西村和子・黒田杏子（敬称略）

②草津市水生植物公演みずの森と共催で、投句会を開催した

開催日 9月23日(金・祝) 会場 みずの森

## (5) その他の展示

### 1) アトリウム

①琵琶湖の日 30周年パネル展

期間：7月1日（金）～10日（日）

②ギャラリー展示「湖国の鳴く虫たち」関連展示『秋の鳴く虫』投句会入賞作品の発表

期間：10月25日（火）～12月25日（日）

③お正月トピック展示 辰・龍・竜

期間：2012年1月3日（火）～1月22日（日）

## 2) 実習室など

「夏休みお天気広場 2011」

期間：7月29日（金）・30日（土）

会場：琵琶湖博物館 実習室

主催：彦根地方気象台

共催：琵琶湖博物館

内容：気象測器やパネル等の展示、気象の実験、来場者が自分でできる実験、ビデオの上映、夏休みのお天気相談など

## 3) 水族展示

①トピック展示（ふれあい体験室前）

タンガニーカ湖のシクリッド	4月4日（月）～24日（日）
産卵期を迎えている「ニッポンバラタナゴ」	4月26日（火）～5月15日（日）
ハリヨの稚魚	5月17日（火）～6月5日（日）
ホトケドジョウの稚魚	6月7日（火）～6月26日（日）
天然記念物「イタセンパラ」の稚魚	6月28日（火）～7月31日（日）
アブラヒガイの未成魚	8月2日（火）～9月4日（日）
スジシマドジョウ大型種の幼魚	9月21日（水）～10月30日（日）
滋賀県内で初めて発見されたナガレホトケドジョウ	11月1日（火）～12月18日（日）
ビワマスの卵	12月20日（火）～2月18日（土）
ビワマスの稚魚	2月19日（日）～3月18日（日）
イサザ（琵琶湖固有種）	3月20日（火）～4月15日（日）

②旬の魚たち（水族企画展示室前）

ヒウオ	12月13日（火）～2月19日（日）
ヒワラ（寒鮒）	2月21日（火）～4月8日（日）

③パネル展示

1月7日（土）～4月8日（日）

「明日へつなぐ日本の自然—よみがえれ、日本の希少淡水魚—」

（日本産希少淡水魚繁殖検討委員会 20周年記念事業）

## (6) 集う・使う・創る 新空間

2011年度は8件の利用があった。

①ふるさとの川でいきいき活動する子どもたち！～ホテルの学校 9周年～

期間：2011年4月9日（土）～5月8日（日）

主催：ホテルの学校

②びわ湖と人々の暮らしを支える森づくり、人づくり

～遠くの森のことにも思いをはせて、近くの森で私たちに出来ること～

期間：2011年5月10日（火）～7月31日（日）

主催：滋賀県森林センター

③「木の魚」展

期間：2011年8月2日(火)～9月4日(日)

主催：前田正敏氏

④冬の使者「コハクチョウと仲間たち」環境展

～びわ湖を美しく いつまでも残したい良い環境～

期間：2011年9月10日(土)～10月30日(日)

主催：環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会

⑤命の水を顕彰する 蝸牛(かぎゅう)会テント絵展

期間：2011年11月8日(火)～2012年1月8日(日)

主催：高宮町蝸牛(かぎゅう)会

⑥平成23年度「ごみ減量化と環境美化に関する標語・ポスター図案」入選作品展

期間：2012年1月11日(水)～1月20日(金)

主催：琵琶湖環境部循環社会推進課

⑦日本の石橋展

期間：2012年2月3日(金)～3月8日(木)

主催：森野秀三氏

(7) ディスカバリールームのイベント

紙芝居 ゲンタのたんじょうものがたり	5月2日(参加者：48名)
七夕☆短冊に願いをかこう！	6月14日～7月7日
光と影であそぼう☆	7月2日
くるりん☆かぎぐるま	7月3日
おちゃめなカボチャ2011	9月10日～25日までの土日(参加者：172名)
とんぼ・トンボ	9月19日(参加者：25名)
大学生のお兄さん・お姉さんがつくったディスカバリーボックス	11月1日～20日
どんぐりぼうしでストラップをつくろう！	12月4日、11日(参加者：37名)
むかしの遊び「お手玉」をつくろう！	3月4日、20日(参加者：24名)

展示交流事業

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、昨年度に引き続き、「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業を実施するに際しては、展示交流員が各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行った。

本事業は、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力した。展示交流員は各自のテーマに沿って、展示だけの交流ではなく、資料に触ってもらう・自作の資料を見ってもらう等、来館者の興味を引き出す工夫も行った。

本事業の詳細は以下のとおりである。

1. 実施期間：2011年12月1日(火)～2012年3月31日(日)  
(期間内で各自のシフトにより実施)

2. 実施人数：展示交流員 25名

3. 実施回数：「通常業務の延長線上に各々のテーマがある」という主旨のもとに実施した為、回数・人数等は確認せず

展示室	氏名	実施テーマ	実施コーナー
A	増馬 由佳	隕石	コレクションギャラリー
	斉藤 文子	信楽焼と古琵琶湖	自然史研究室
	柳原 徳子	地球 46 億年の長さ	コレクションギャラリー
B	井出 範子	明治時代の水害	治水・利水への取り組み
	近藤志津子	古文書ってなに？	収蔵庫をのぞいてみよう
	木村美枝	田上山から木を考える	治水・利水への取り組み
	岩見 勉	輸送の主役 丸子船	輸送の主役 丸子船
C	芦田 弘美	見なおされる里山の暮らし	くらしとむすびついた自然
	奥村 恵子	あの雑誌が創刊されたころ…	私たちのくらし 50 年
	愛須 美由起	冬の琵琶湖のプランクトンをみてみませんか	ミクロの世界
	本田 幸子	ミミズ	水をはぐくむ森林
	前川 桂子	おいしく感じる水の味	水をはぐくむ森林
	木下 睦司	琵琶湖が支えた下流の発展とその変遷	水利用の変遷
	荒井 紀子	ホテルが住む水辺環境	ホテルと人と環境
	竹中美里	ニゴロブナとフナ寿司	水をはぐくむ森林
横江富士子	琵琶湖西岸断層帯について	空から見た琵琶湖	
水族	森 智美	オオサンショウウオ	川の中流の生き物
	奥村 千尋	ザリガニについて	ふれあい体験室
	杉本 和子	カイツブリとユリカモメ	水辺の鳥
	林 克子	琵琶湖で一番おいしいビワマス	ビワマス水槽
	中江 美知子	カイツブリ	水辺の鳥
	荒川千尋	外国から来た魚たち	外来生物水槽
	森 幸恵	オオサンショウウオの生態について	川の中流の生き物
ディスカバリー ルーム	北田 昌子	ザリガニの紙フィギュアをつくろう	ディスカバリーBOX カウンター

## 4 体験と交流を促す博物館

### 一般利用者へのサービス事業

#### (1) 観察会・見学会等

2011年度は、博物館周辺や県内各地で行う博物館観察会等12件の事業を企画した。ただ、雨天の影響により2件中止せざるを得なくなり、10件の実施となったが、他団体と協働できた観察会・見学会は11件(92%)となり、昨年度と同等の協働率を確保することができた。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

	開催日		曜日	事業名	定員 (名)	参加者 (名)	共催関係
	月	日					
1	5	7	日	朽木で春を見つけよう	30	31	麻生里山センター
2	6	18	土	魚のゆりかご水田観察会	25	61	須原魚のゆりかご水田協議会
3	6	18	土	自然豊かな田んぼで生き物観察	20	43	朽木いきものふれあいの里
4	7	2	日	希望が丘自然観察会(昆虫)	25	40	(財)滋賀県文化振興事業団 〈滋賀県希望が丘文化公園〉
5	7	23	土	身近な川の魚を調べてみよう	30	36	うおの会
6	7	30	土	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	20	24	朝日漁業協同組合
7	9	17	土	アユの産卵用人工河川を見てみませんか	20	中止	(財)水産振興協会・水産課
8	10	16	日	化石の観察会	30	中止	湖国もぐらの会
9	10	29	日	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	20	26	百瀬漁協
10	11	5	土	秋の里山を歩こう	30	32	カワセミ自然の会
11	12	18	日	からすま半島の水鳥を観察してみよう	30	53	日本野鳥の会滋賀支部、 はしかけグループびわたん
12	3	25	日	川虫探検	30	21	

#### (2) 講座

講座は、研究部が主体となって実施する講座(研究部の講座)、学芸員が専門テーマについて解説する講座(入門・専門講座)、教員や地域の指導者等を対象とした講座(指導者向け講座)、子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座等に区分できる。

2011度に開催した講座の実績を以下に記した。

##### 1) 入門・専門講座

2011年度は、以下に示した3件の事業を実施した。

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	講 師
1	魚の寄生虫を調べよう!	5月14日	土	20	10	マーク J. グライガー
2	回転実験室で水槽実験を!	8月9日	火	20	中止	戸田 孝
3	新琵琶湖学セミナー	1月22日～ 3月12日	土	各回50		

○魚の寄生虫を調べよう！

琵琶湖とその集水域にすむ魚の寄生虫について学習し、その標本を観察するとともに実際に魚を解剖して寄生虫を見つけた。あわせて、普段食べている海の魚介類を持ってきていただき、その魚介類に寄生している寄生虫についても観察した。

○回転実験室で水槽実験を！

本館C展示室の回転実験室で、準備に時間を要するため日常の展示室運営では実施できない、水槽を使った実験を行う予定であったが、回転実験室が故障したため、やむなく中止にした。

○新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」

詳細は研究調査活動(6)新琵琶湖学セミナー (p. 28) の項を参照

2) 指導者向け講座

2011年度は3件の指導者のための博物館活用講座を開催した。

開催日	内 容	受講者数	担当者	共催・後援
8月4日	生き物飼い方講座	13	秋山・中井 大依・飯住	滋賀県総合教育センター
11月10日	簡易プランクトンネットの作製	16	楠岡 大依・飯住	滋賀県総合教育センター
11月17日	琵琶湖の鳥たちを見てみよう	20	亀田 大依・飯住	滋賀県総合教育センター



3) 夏休み自由研究講座 (担当：上田康之・大塚泰介)

小学校3年生から6年生までの子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない7月下旬に自由研究のテーマの決め方や研究の進め方、標本の作り方などについて指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。本年度は初回から数えて10回目となった。日程、参加者数、講師等は下表のとおり。地学・化石コース、昆虫コースで定員を上回る応募者数の合計で104名の応募があり、抽選により83名の参加者を決定した。当日の参加者数は79名だった。

開催日	コース名	開催時刻	定員	参加者数	会場	講師
7月31日 (日)	地学	10:00~12:00	各コース 約30名	27	実習室2	福井龍幸*・高橋・里口
	昆虫	10:00~15:00		29	実習室1	武田 滋*・南 尊演* 八尋・榊永・高橋和征
	植物	10:00~15:00		23	生活実験工房	草加

\* は外部講師

### (3) 体験教室

2011 年度も、昨年同様に野洲市大篠原の里山林周辺で里山体験教室を開催した。

○里山体験教室（担当：寺尾尚純・楠岡 泰）

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない。子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ったことがない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年 4 回実施している。参加者は、家族単位での参加がほとんどで、子どもたちの体験の機会として応募されているが熱心なのは保護者の方という場合も多い。

春は、里山を歩き、春の息吹が感じられるよう植物を中心に観察した。食べられる植物を紹介しながら、身近な草花への興味を促した。野草や木の芽のテンプレを楽しんだ。また、伐採された丸太を伐り、ノコギリの使い方を学んだ。夏は、夏の里山遊びの王道「虫とり」や草遊び、草笛づくりを午前中楽しんだ。午後は、里山の中でシートを利用した簡単お手軽「ハンモック」づくりをし、みんなで里山の昼寝を楽しんだ。秋は、彩りの季節。林道を歩いて色々な秋さがしをした。秋と言えばキノコだろうということであったが、雨がほとんど降っていないため期待するほどの量のキノコの収穫はなかったが、それでも多くのキノコを観察することができた。午後は里山整備として、枯れマツを引き倒し、伐採班と落ち葉かき班に分かれて里山の手入れをした。わずか1時間足らずであったが、お寺の庭のようにすっきりとした里山景観になった。冬といえば、「たき火」。「はしかけ里山の会」のプロデュースにより、火を使った楽しみとして、参加者が里山の粗朶や枝などで火おこしを体験した。その火床を作って、たき火陶芸、焼きマッシュマロ、焼きいもなどを楽しんだ。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4 月 17 日	里山の春をさがそう	48	寺尾、楠岡
2	7 月 17 日	里山の夏を楽しもう	25	寺尾、楠岡
3	10 月 16 日	秋の彩りと里山林の手入れ	28	寺尾、楠岡
4	1 月 15 日	里山の冬あそび	34	寺尾、楠岡

<里山の四季>



春：野草のテンプレ



夏：ハンモックでお昼寝



秋：里山の手入れ



冬：参加者集合



## 学校連携事業および体験学習

### (1) 学校団体の受け入れ（担当：大依久人、藤橋和弘、上田康之、上西智之、児玉佳代子）

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。今年度は新学習指導要領への移行期にあたり、教科学習の時数確保が強く打ち出され、琵琶湖博物館に学校行事として校外学習で来館する学校が減り、入館児童生徒数は前年度比 5.8%減となった。

来館する学校が充実した見学ができるよう、下見や電話での引率者との打ち合わせの中で博物館の利活用について説明している。

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H22 年度	今年度	増減	H22 年度	今年度	増減
県内	小学校	188	183	-5	12,797	13,026	229
	中学校	31	23	-8	3,028	2,053	-975
	高等学校	25	27	2	1,147	834	-313
	特別支援学校	27	17	-10	444	272	-172
	大学など	7	6	-1	280	284	4
	合計	278	256	-22	17,696	16,469	-1,227
県外	小学校	280	266	-14	25,540	24,000	-1,540
	中学校	109	112	3	16,778	16,083	-695
	高等学校	31	24	-7	3,115	2,809	-306
	特別支援学校	23	26	3	593	724	131
	大学など	28	33	5	1,823	1,623	-180
	合計	471	461	-10	47,849	45,259	-2,590
総合計		749	717	-32	65,545	61,728	-3,817

### (2) 教職員等研修（担当：大依久人、藤橋和弘、寺尾尚純）

館外への出前講座、県総合教育センターなどと連携した講座、各地の教育委員会や教育研究所からの依頼を受けた研修講座など多岐にわたった。結果として、760名の受講があった。引き続き、受講者である教員や地域で活躍する環境保全リーダーの求めるものと、学芸職員一人ひとりの専門性をつなぐ講座を実施していきたい。

月	日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
5	8	日	立命館大学教員研修	36	
5	27	金	滋賀県中学校理科教育研究委員研修会	10	滋賀県中学校教育研究会理科部会
6	7	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
6	9	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
6	9	木	滋賀県小学校環境教育協議会	30	滋賀県小学校教育研究会環境教育部会
6	14	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
6	16	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
6	19	日	西日本原生生物コロキウム	36	
6	21	火	滋賀県中学校理科教育研究委員研修会	10	滋賀県中学校教育研究会理科部会
6	28	火	県中学校教育研究会環境教育部会研修会	20	県中学校教育研究会環境教育部会
7	22	金	米原市立醒井小学校教員研修	13	

月	日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
7	25	月	滋賀県中学校理科教育研究委員研修会	10	滋賀県中学校教育研究会理科部会
7	27	水	徳島県中学校理科教員研修	20	徳島県中学校理科教育研究会
8	8	月	伊丹市立総合教育センター研修	15	伊丹市立総合教育センター
8	9	火	滋賀県小学校理科教育研究委員研修会	21	滋賀県小学校教育研究会理科部会
8	10	水	近畿小学校理科教育研究委員研修会	10	近畿小学校教育研究会理科部会
8	11	木	滋賀県環境教育研究協議会	170	滋賀県教育委員会
8	16	火	門真市小学校教育研究会	11	門真市小学校教育研究会
8	18	木	滋賀県中学校理科教育研究委員研修会	10	滋賀県中学校教育研究会理科部会
10	19	水	米原市立醒井小学校教員研修	13	
11	19	土	滋賀の教師塾	141	滋賀県教育委員会
11	30	金	米原市立醒井小学校教員研修	13	
1	27	金	文部科学省・県指定研究事業交流発表会 「環境教育に関する取組を活用した調査研究」分科会	10	滋賀県教育委員会
2	10	金	守山市環境教育小中合同実践部会	17	守山市教育委員会
合計				760	

初任者研修の様様



### (3) 学校団体向け体験学習 (担当：大依久人、藤橋和弘、上田康之、上西智之、児玉佳代子)

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った見学への対応のほか、各種体験学習等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

また、展示見学学習を支援する「サポートシート（現行モノクロ版 12 種類と旧カラー版 19 種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。

校種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等）、よし笛作り、化石のレプリカ、プランクトン採集と観察、昔のくらし体験（石臼、脱穀、手押しポンプ）、琵琶湖の富栄養化問題、魚の解剖、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等）、よし笛作り、化石のレプリカ、水質検査、プランクトンの採集と観察、頭骨模型作り、わら細工、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、野外観察（ヨシ群落）、野外植物観察、水の汚れの測定、貝の観察、火山灰の観察、大地のつくり、3D琵琶湖、琵琶湖の富栄養化問題、学芸員の仕事体験、質問対応

校 種	主 な 活 動 内 容
高等学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について等）、プランクトンの採集と観察、プランクトンネットの作製、魚の採集（釣り）と解剖、水質調査、湖岸調査（地形、植生他）、昆虫の生態観察、火山灰の観察、野外植物観察、大地のつくり、展示利用学習、課題研究、質問対応

#### 体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	29	2,030	32	2,390	61	4,420
中学校	16	2,178	7	978	23	3,156
高等学校	15	238	2	81	17	319
特別支援学校	1	22	2	58	3	80
合 計	61	4,468	43	3,507	104	7,925

#### サポートシートダウンロード数

	内 容	ダウ ン ロ ー ド 数
学習シート	今と昔の暮らし	2,938
	むかしの道具と生活	745
	森林の働き	1,288
	琵琶湖の水・川の水	1,500
	大地のつくり	801
	琵琶湖のおいたちをさぐる	502
発見シート	小学校3年生	613
	小学校4年生	826
	小学校5年生	939
	小学校6年生	653
ナマズ博士の挑戦状	全館コース1問	757
	全館コース2問	505

#### 体験学習のようす



#### (4) 一般団体向け体験学習（担当：大依久人、藤橋和弘、上田康之、上西智之、児玉佳代子）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、障害者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
16 団体 (370 名)	講義 (琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物)、ヨシ笛、外来魚調理、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 等



(5) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊 (体験学習の日)」の活動 (担当: 大依久人、藤橋和弘、大塚泰介)

当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2・第4土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。参加者からは各回大変好評であった。年間417名の参加者があった。

回	月日	館内の事業	内容	参加者数
1	4	9	春の草花でしおりをつくろう 館外で採取した好きな草花をラミネートして、オリジナルのしおりを作ります	17
2	4	23		18
3	5	14	プラぱら プランクトンのぱら ぱらまんが プランクトンを観察して、ミクロの世界の息づかいをぱらぱらまんがで表現します	16
4	5	28		26
5	6	11	琵琶湖の模型をつくろう プラスチック樹脂を使って、琵琶湖の湖底模型を作ります	22
6	6	25		31
7	9	10	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～ 日光写真の原理を使って水草の写真をとります	27
8	9	24		15
9	10	8	秋の色を探してみよう 秋色美しい屋外展示の森で、たくさん色を集めます	15
10	10	22		18
11	11	12	木の実で遊ぼう 博物館周辺の木の実を拾ってクラフト作品を作ります	13
12	11	26		23
13	12	10	水鳥を観察しよう ～色とりどりの冬の鳥たち～ 琵琶湖を訪れる水鳥たちを観察して、色とりどりの発見ブックを作ります。	14
14	1	14	博物館でスゴロクをしよう ～生活実験工房を中心に～ スゴロクをしながら博物館の展示を探検し、普段とは違う楽しみかたを紹介します	33
15	1	28		45
16	2	11	縄文コースターを作ろう 縄文土器にふれてじっくり観察。土器の文様をまねっこした後は、紙粘土でオリジナルコースターを作ります	18
17	2	25		24
18	3	10	コラージュ作品をつくろう 日光写真や折り紙・包装紙などの切り抜きを組み合わせ、コラージュ作品を作ります	17
19	3	24		24



(6) サテライト博物館事業 (担当：大依久人、藤橋和弘、碓 登志之)

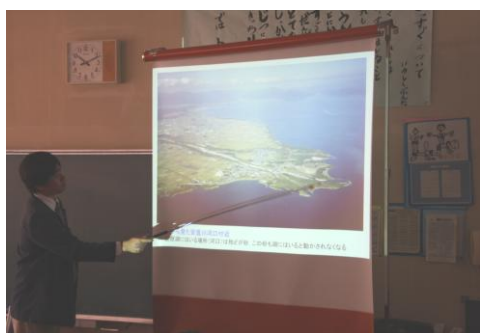
2007年度から始まった学校サテライト博物館事業は、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化するため、学校に限らず、地域の公民館等にも展開していく方向性を持って、サテライト博物館事業と名称を変更して取り組んでいる。

本年度は、昨年度からつづく長浜市立永原小学校での事業展開の継続に加え、高島市立青柳小学校から彦根市立若葉小学校への移設を行った。

公民館や合併で廃校となった校舎にサテライト博物館が設置できるかをいくつか打診したが、良い反応は得られていない。今後、企画調整課が始めた移動博物館との連携調整も課題である。

実施日	曜日	出前授業	児童数
6月30日	木	高島市立青柳小学校3年生	13
10月4日	火	高島市立青柳小学校5年生	34
10月4日	火	高島市立青柳小学校6年生	34
10月31日	月	彦根市立若葉小学校オープンセレモニー	281
合計			362

実施日	曜日	教員研修	受講者数	共催・後援
8月17日	水	高島市教員研修	13	高島市教育委員会
8月17日	水	長浜市教員研修	12	長浜市教育委員会
2月8日	水	彦根市立若葉小サテライト博物館教員研修	18	
合計			43	



学芸員の出前授業のようす (高島市立青柳小学校)





児童による展示見学の様子（彦根市立若葉小学校）



学校教員向けの研修会（高島市立青柳小学校・長浜市立永原小学校）

(7) ミュージアムスクールの運営（担当：大依久人、藤橋和弘、裕 登志之、老 文子）

立命館守山中学校と滋賀県立石部高等学校の2校を受け入れた。

立命館守山中学校

1年生167名が参加し、13回にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、グループ別課題研究に取り組んだ。課題研究では個々のグループに学芸員がアドバイスを与え、学習の成果を発表会で交流した。

①2011年6月4日（土）

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」（大依）：ホール
- ・10:45～11:45 常設展示見学

②2011年6月18日（土）

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の生き物とその調査法」（中井）：ホール
- ・10:45～11:45 常設展示見学 → 自分が興味を持ったテーマや調べてみたい疑問点をワークシートに抽出

③2011年7月9日（土）

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の生き物とその調査法」（里口）：ホール
- ・10:45～11:45 講義「民家の歴史とその調査法」（老）：ホール

④2011年10月1日（土）

- ・9:40～10:40 講義「問題解決へのアプローチの方法」（八尋）：ホール
- ・10:45～11:45 班ごとのテーマに合わせて展示見学

■9月末までを目安に…調べ学習の班決定→班ごとのテーマ、担当教員決定→担当学芸員調整

⑤2011年10月29日（土）

- ・体験学習「化石レプリカ作り 琵琶湖の模型作り プランクトン観察」（交流担当）
- ：実習室・生活実験工房
- ・常設展示および企画展示（「こまったカワウ」）見学（亀田）

⑥2011年11月12日（土）：学校で行う

- ・班での調べ学習 学校図書室での資料検索
- ⑦2011年11月26日(土):学校で行う
  - ・中間発表会 学級単位での発表会 学芸員への質問事項抽出
- ⑧2011年12月3日(土):博物館で行う(学芸員対応)
  - ・班での調べ学習(質問事項に対する指導・助言・展示見学):セミナー室他
  - 各班の担当教員…12月11日までに担当学芸員と打ち合わせ
- ⑨2011年12月10日(土):学校で行う
  - ・班での調べ学習 学校図書室での資料検索 学芸員への質問事項抽出
  - ・各班の担当教員…1月21日までに担当学芸員に必要な資料・準備物など連絡
- ⑩2012年1月21日(土):博物館で行う(学芸員対応)
  - ・班での調べ学習(質問事項に対する指導・助言・展示見学):セミナー室他
- ⑪2012年1月28日(土):学校で行う
  - ・班での発表準備
- ⑫2012年2月4日(土):学校で行う
  - ・発表学習リハーサル(立命館守山中学校メディアホール)
- ⑬2012年2月18日(土)
  - ・琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評(楠岡・藤橋)

#### 滋賀県立石部高等学校

3年生9名が参加し、5日間にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、個別課題研究に取り組んだ。

- ①7月21日(木)
  - ・9:30~10:45 博物館のつくられ方(高橋)
  - ・10:45~12:00 展示見学
  - ・13:00~14:10 琵琶湖の生い立ち(里口)
  - ・14:20~15:30 生活と水の関わり(楊)
- ②7月25日(月)
  - ・9:30~12:00 琵琶湖の水質(芳賀)
  - ・12:30~15:30 プランクトンの観察(大塚)
- ③7月26日(火)
  - ・9:30~15:30 外来魚の採集・解剖・調理(秋山)
- ④7月27日(水)
  - ・9:30~10:30 企画展示見学(亀田)
  - ・10:30~15:30 課題研究(秋山・金尾)
- ⑤7月28日(木)
  - ・9:30~15:30 課題研究(桑原・金尾)



(8) 自然調査ゼミナール (担当：大依久人、藤橋和弘)

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきたが、2010年度は安全管理や制度上の問題で夜の部の活動が出来なかったため、2011年度から主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。中学生68名、教員21名、博物館実習生14名が参加した。学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールでそれぞれの班が発表した。

①期日 2011年8月2日 (火)

②日程および内容

昼の部		夜の部	
9:40～10:00	受付	17:00～17:20	諸注意等 (ホール)
10:00～10:10	開講式、刈エンタージョン	17:30～18:20	企画展示見学
10:10～11:45	班別調査	18:30～19:20	夕食・交流会
11:45～12:30	昼食、自由交歓	19:30～21:50	ワークショップ、水族・
12:30～14:00	班別調査	22:00～	昆虫・星空観察
14:00～15:00	調査のまとめ		就寝準備・就寝
15:00～16:15	各班発表 (ホール)	6:30～7:00	生物の観察
16:20～16:30	閉講式 (昼の部)	7:20～7:50	朝食・解散 (セミナー室)
16:54	草津駅行きバス	8:27	草津駅行きバス

③昼の部班別テーマ

班	テーマ	学芸員	生徒数	教員数
昆虫班	博物館周辺で昆虫採集をしよう	八尋克郎	9	2
魚類A班	魚の体のしくみを調べよう	菅原和宏	12	3
魚類B班	琵琶湖の魚を食してみよう	秋山廣光	18	3
貝類班	琵琶湖の貝を調べよう	松田征也	7	3
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンを調べよう	楠岡 泰	14	3
植物班	博物館周辺の植物を調べよう	草加伸吾	8	3

④夜の部

活動	担当
企画展示見学	亀田佳代子
ワークショップ「ホネにさわってみよう」	びわたん
水族展示探検	秋山廣光・松田征也
昆虫観察	金尾滋史
星空観察	藤橋和弘

(9) 職場体験実習 (担当：大依久人、藤橋和弘)

今年度は草津市立新堂中2年生4名を受け入れた。中学校が設定している5日間のうち、休館日を除いた火～金曜日で実施した。

月日	体験内容	担当職員
11月15日	体験学習補助、工房作業	大依、野間、上西、藤橋
11月16日	水族バックヤード作業、液浸標本作業	桑原、水族委託職員、出口、山川、上西、藤橋



月日	体験内容	担当職員
11月17日	ヨシ笛・化石レプリカ・簡易プランクトンネットの材料準備、博物館活用講座準備・補助	亀田、大依、上西、藤橋
11月18日	学芸員の仕事・博物館の仕事についての講義、ディスカバリールームでの活動、実習準備	金尾、澤邊、藤岡、芳賀、楊、藤橋

(10) 視察対応 (担当：大依久人、藤橋和弘)

2011年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計4件40名であった。

月日	研修	人数
7月21日	JICA 研修	10
7月28日	川崎市青少年科学館	2
8月25日	デジタルズビューロー	27
2月19日	文部科学省	1

(11) 博物館実習 (期間：2011年7月30日(土)～8月6日(土)；ただし8月1日は休み)

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内9大学、14名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それにもとづく交流、資料整備、展示などの活動について、講義および実習を行った。交流事業の体験では、中学生を対象とした自然調査ゼミナールへ実習スタッフとして参加したり、展示作業の体験として1週間を通してグループでディスカバリーボックスの計画および試作品の製作を行い、最終日にプランの発表を行った。発表会では博物館職員との意見交換も行われた。

月日(曜日)	内容(午前)	内容(午後)
7月30日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体オリエンテーション</li> <li>講義「琵琶湖博物館の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の研究活動」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「常設展示室の概要」</li> <li>見学「常設展示室の見学」</li> <li>実習「展示交流とは」</li> </ul>
7月31日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「ディスカバリールームの説明、ディスカバリーボックスの説明」</li> <li>実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」</li> <li>見学「企画展の見学」</li> </ul>
8月1日(月)	＜休 み＞	
8月2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館における交流事業」</li> <li>講義「自然調査ゼミナールのガイダンス」</li> <li>実習「自然調査ゼミナール」にスタッフとして参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「自然調査ゼミナール」にスタッフとして参加</li> </ul>
8月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「博物館の資料と整理(データベース)について」DVD視聴含む</li> <li>講義「IPMについて」</li> <li>見学「収蔵庫空間見学」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習 各資料に分かれて実習</li> </ul>
8月4日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「企画調整課の概要」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の広報戦略」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の電子情報」</li> <li>実習「博物館への質問と回答作り」ガイダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「博物館への質問と回答作り」</li> </ul>
8月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックスの作成」</li> </ul>	
8月6日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習「ディスカバリーボックス・プレゼンテーション準備」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習成果発表会</li> <li>修了式</li> </ul>

実習生：9 大学，14 名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
成安造形大学	2	京都府立大学	2
滋賀県立大学	2	京都文教大学	2
神戸大学	1	信州大学	1
東京女子大学	1	北海道大学	1
龍谷大学	2		

## 国際交流活動

### (1) 「JICA 博物館学集中コース」の実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館と共に「博物館学集中コース」と題する研修を実施した。国立民族学博物館が事務局を持ち、当館は運営委員2名と専門委員1名を出して、全体の運営にかかわると共に、6カ国の博物館施設から計10名の研修員を受け入れ、当館で1週間の一般研修プログラムを実施し、また期間後半の個別研修「博物館と地域コミュニティー」は、10名中8名の研修員が参加し、好評を博した。

なお、このJICAの研修は、当初10年間にわたり国立民族学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、当館が地域連携に係わる部分を分担する形で研修生を受け入れて協力し始めたことに端を発する。このコースは、2004年度から名称を「博物館学集中コース」とし、それに応じて研修内容を変更して国立民族学博物館と共催してきたもので、今年度が最終年度となった。

#### 1) 研修員

- アルメニア MANUKYAN Zhanna（マルティロス・サリアン記念博物館）
- ヨルダン AL MARSИ Ibrahim Abdel Karim Ali（観光遺跡省バルカ局サルト歴史資料館）
- ヨルダン SWEIDAN Najd Sami（ヨルダン博物館）
- モーリタニア KANE Brahim Mahmoud（国立博物館室）
- モンゴル TSANJID Oyunkhishig（モンゴル国立博物館）
- モンゴル GENDENKHUU Yalalt（モンゴル国立現代美術館）
- モンゴル DALKHAA Narantuya（文化遺産センター）
- スリランカ WIDYARANTHNE Sanjeewani Upaka（文化・国家遺産省コロombo国立博物館）
- タイ THEP THEPA Nopparat（国立科学博物館）
- タイ PICHITNARONGCHAI Duangjai（文化省美術局国立博物館室）

#### 2) スケジュール

- 2011年6月12日 来日
- 6月15日 開講式（国立民族学博物館）
- 6月16日 ミュージアムレポート（琵琶湖博物館）
- 9月8日 修了式
- 9月9日 閉講式
- 9月9日 帰国

#### 3) 琵琶湖博物館での一般研修

本研修コースの研修員10名全員が参加した。

・研修期間：7月20日～26日（25日休み）

・プログラム

- 7月20日 琵琶湖博物館の概要および設立経緯（中井）  
博物館と研究（八尋）  
展示見学（中井、芦谷）
- 7月21日 展示の計画および作製（乃村工藝社・鮫島）  
交流事業の考え方（楠岡）  
学校との連携（大依、藤橋）  
環境学習センターの役割（加藤）
- 7月22日 資料整理と利用（中藤）  
体験学習見学（大依）  
ディスカバリールームの考え方と運営（芦谷）  
各国博物館における教育プログラム（JICA 研修員）
- 7月23日 琵琶湖の外来魚フルコース（中井）  
フィールドレポーターおよびはしかけとの話し合い（楠岡）
- 7月24日 地域活動の見学：伯母Q五郎（楠岡、中井、芦谷）  
地域の方々との意見交換（楠岡、中井、芦谷）  
琵琶湖博物館スタッフとの交流
- 7月25日 休
- 7月26日 地域博物館の運営（三重県立博物館・布谷）  
展示評価（Learning Innovation Network 黒岩、布谷、楠岡、芦谷、中井）  
情報の利用とそのための施設（戸田）  
展示評価の実践と総合討論（黒岩、布谷、楠岡、芦谷、中井）

#### 4) 琵琶湖博物館での個別研修「博物館と地域コミュニティー」

研修員10名のうち、8名が琵琶湖博物館で研修した。

- MANUKYAN Zhanna（アルメニア）
- SWEIDAN Najd Sami（ヨルダン）
- KANE Brahim Mahmoud（モーリタニア）
- TSANJID Oyunkhishig（モンゴル）
- DALKHAA Narantuya（モンゴル）
- WIDYARANTHNE Sanjeewani Upaka（スリランカ）
- THEPHEPA Nopparat（タイ）
- PICHITNARONGCHAI Duangjai（タイ）

・研修期間 2011年8月22日～26日

・プログラム

- 8月21日 かかし作りの体験（裕、楠岡、中井）  
はしかけグループ活動の解説（中藤、楠岡、中井）  
インターナショナルコーナーの案作り（楠岡、中井）
- 8月22日 講義「博物館と地域の交流」（布谷）  
プランクトンの模型作り（楠岡、池田、中井）
- 8月23日 MIHO Museumの見学（芦谷、中井）  
滋賀県立陶芸の森の見学（芦谷、中井）

- 8月24日 オムロン野洲事業所での博物館連携活動の視察（中井、楠岡、芦谷）  
東近江市立能登川博物館の見学（芦谷、楠岡、中井）  
彦根城博物館の見学（楠岡、芦谷）
- 8月25日 フォトセラピー：古写真を使っての人生の振り返り（秋山、中井）  
研修員によるインターナショナルコーナー案発表（楠岡、芦谷、中井）  
総合討論（楠岡、芦谷、中井）

## (2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度も 24 件に対応した。

月	日	団体名	依頼者	人数	担当
4	13	国連環境計画早期警告評価局 (UNEP-DEWA) Peter Gilruth 局長一行	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課（表敬訪問）	4	篠原・中井
5	10	第 5 回関西領事館会合「滋賀視察ツアー」	外務省大阪分室および関西大使（全権特命大使）	22	篠原・グライガー・中井
5	11	ミャンマー文化省考古・博物館・図書館局長	国立民族学博物館	2	篠原・楠岡
6	23	21 世紀東アジア青少年大交流計画メコン 5 カ国若手外交関係者一行	(財)日本国際協力センター	55	便宜供与のみ
7	8	NGO「Corazón de la Tierra」Alejandro Juárez Aguilar 代表	(財)国際湖沼環境委員会	3	芦谷
7	25	中国湖南省「土地開発整備日本視察団」	滋賀県農政水産部	16	楊
7	26	中国農業部規劃設計研究院「日本農産品生産環境保護技術考察団」	滋賀県農政水産部	4	碓
7	28	JICA グアテマラ国別研修「湖沼環境保全のための総合的湖沼流域管理 B コース」	(財)国際湖沼環境委員会	5	楠岡
8	2	レイクスペリオル州立大学 Sally Childs 教授一行	滋賀県立大学環境共生システム研究センター	2	金尾
8	26	JICA 地域別研修「アジア水環境ガバナンス強化ワークショップ」	(財)地球環境戦略研究機関	10	中井
9	10	JICA 集団研修「水環境を主題とする環境教育」コース	(財)国際湖沼環境委員会	3	楠岡
10	12	JICA 集団研修「水環境モニタリング」	(財)日本環境衛生センター	11	中井
10	13	カセサート大学研修	京都大学国際交流センター	20	スミス
10	18	中国環境観光キーパーソンファームツアー	滋賀県商工観光労働部観光交流局	8	楊
10	27	JICA 研修事業「生物多様性保全のための野生動物問題解決手法コース」	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所	6	亀田
11	10	ミシガン州友好親善使節団	滋賀県商工観光労働部観光交流局国際室	15	グライガー
11	16	JICA 研修「中東地域持続可能な観光開発研修」	公益財団法人太平洋人材交流センター	8	楠岡
11	22	JICA 研修「沿岸域・内湾およびその集水域における総合的水環境管理研修」	(財)国際絵メックスセンター	11	スミス
11	22	中華民国国家科学委員会清風副主任委員一行		2	篠原・中井
11	25	JICA 研修「生活排水対策」コース	(財)北九州国際技術協力協会	7	中井

月	日	団体名	依頼者	人数	担当
12	7	JICA 研修「(第1回) 産業排水処理技術(A)」コース	(財)北九州国際技術協力協会	7	グライガー
1	19	JICA 研修「(第7回) 湖沼環境保全のための統合的流域管理」コース	(財)国際湖沼環境委員会	5	楠岡
3	14	中国修学旅行視察代表团	滋賀県商工観光労働部観光交流局	12	楊
3	15	ジンバブエ地域統合・国際協力省 Tadeous Tafirenyika Chifamba 次官		1	グライガー

## 地域発見！参加型移動博物館

2011年度、「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して、集水域の地誌や歴史、自然環境などに関する移動型の展示キット（12件）を製作した。琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で展示を展開し、併せて学芸員や交流員によるワークショップを開催することで、滋賀県や琵琶湖に対する興味と関心を持ってもらうことにより、琵琶湖博物館や滋賀県への誘客を図ることを目的としている。

### (1) 展示キット概要



#### 【プロローグ】

遠くから目につくような看板を設置し、そのうち大きなものは「顔出し看板」にして、来場者に愉しんでいただく。

#### 【1. 大昔の巨大ゾウの謎】

##### 《足跡の正体はだれだ》

大昔のさまざまな動物の足跡の型を低反発クッションに押し当てて足跡を作り、かつての琵琶湖の環境を考えてもらう。

##### 《ゾウが生きた環境》

琵琶湖地域にゾウが生息していた過去からの環境の変化を、来場者の操作に従って進んだり戻ったりする映像で見ることができる。

##### 《歯形の正体はだれだ》

ゾウの歯のレプリカを、いろいろな動物の絵と見比べ、何の歯なのかを考えてもらう。

##### 《化石に触ろう》

化石と風景との絵合わせを通して、各々がどのような環境に生息していた生物の化石なのかを考えてもらう。



《顕微鏡をのぞいてみよう》

顕微鏡で植物の種などいろいろなものを観察してみることができる。

## 【2. 豊かな琵琶湖の恵みと景色】

《琵琶湖水運の旅》

かつて物流の主要ルートだった琵琶湖で活躍していた丸子船の模型の前で、船で物資を運ぶ商人になりきる「すごろく」で遊びながら、琵琶湖の水運の様子を感じてもらう。

《古今の名所比べ》

江戸時代に描かれた「近江名所図屏風」のレプリカを見ながら、琵琶湖が昔から観光地として栄えてきたことを感じてもらう。屏風に描かれている地点のうちいくつかについては、現在そこがどうなっているかを写真で見比べることもできる。

《古今の物産比べ》

明治時代に描かれた「滋賀県物産図説」から選んだレプリカを見ながら、近江の伝統的な「ものづくり」の様子を見てもらう。各々が現在ではどうなっているかを写真で見比べることもできる。

## 【3. 湖は命のゆりかご】

《水辺の生き物探し》

水辺（里山・田んぼ・芦原）にすむ生き物たちについて解説するパネルの前で主な動物の模型や剥製を見たり触れたりすることができる。

[当初準備する模型等]

拡大模形：ホタル・タマミジンコ・ナビキュラ（珪藻）

等寸模型：ダルマガエル・ニゴロブナ

剥製：カイツブリ（透明ケースに収納（別の模型等に入替えることを想定）

## 【4. 地域へ、博物館へ】

《地域発信ステージ》

展示全体を載せる「ステージ」として航空写真を印刷したゴム製シートを床面に展開し、琵琶湖の地理的位置や地形状況を理解していただく。



《博物館なんでも瓦版》

琵琶湖博物館からの、あるいは琵琶湖博物館へのメッセージを伝えるボードを置き、最近の活動報告や、展示開催地ゆかりの活動を紹介するなど、こまめに更新できる新鮮な情報を発信する。また、琵琶湖博物館を紹介する無声映像（必要に応じてBGMを流すことができる）を新たに製作して、メッセージボードの前でエンドレス放映する。

## (2) 展示物の特徴

今回作成した展示キットは、来場者がただ見るだけでなく、実際に触って体験することにより、興味を引き出しやすくするように工夫している。

各展示キットの多くは、トランク型のパッケージに納まるように設計されており、そのまま公用車で運搬したり宅配便で輸送したりできるようになっている。展示場所ではパッケージ自体も展示台として利用できる構造とし、運搬に要する費用を低減させると共に、組み立てやすさにも配慮した。

また、会場の条件に応じて、展示キットの中からいくつかを選択して展開することもできる。

## (3) 展示実績

- ・ 2012年1月10日（火）県庁広報室  
（知事の定例記者会見による記者発表）
- ・ 2012年1月14日（土）ピアザ淡海ピアザホール  
（第10回地球研地域連携セミナーSHIGA「水辺の保全と琵琶湖の未来可能性」会場）
- ・ 2012年2月12日（日）兵庫県公館  
（第3回生物多様性協働フォーラム 会場）
- ・ 2012年2月15日（水）～19日（日）イオンモール草津イオンホール  
（ミュージアム活性化事業（淡海まるごと博物館 地域だれでもどこでも博物館））
- ・ 2012年2月28日（火）～3月13日（火）県立図書館  
（サロン展示）
- ・ 2012年3月14日（水）～25日（日）ビバシティ彦根  
（ミュージアム活性化事業（淡海まるごと博物館 地域だれでもどこでも博物館））
- ・ 2012年3月26日（月）～4月6日（金）甲賀合同庁舎  
（ロビーギャラリー展示）



## 5 対話と応援ができる博物館

### 利用者主体の事業

#### (1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、地域の方が滋賀県内の自然とくらし・文化について、自分たちの住む身近な地域の調査をしてもらい、そこから得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす制度である。これら活動の他に、交流会、観察会の開催によって、参加者が地域の自然や環境に関心を持ち、興味を広げる活動の場も提供している。本調査は、博物館に申し込みをすれば、誰でも参加できる市民参加型調査である。主な活動としては、月2回（原則第1、3土曜日）の定例会の開催、2種類の調査とその結果をまとめた報告書の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、会員同士の交流会、館内外で開催される交流会・イベントなどへの参加がある。調査は、毎回決まったテーマに従って行う「アンケート型調査」と、自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」を実施している。

2011年度の自由交流型調査は、8月に夏気温の低いびわこバレイ蓬莱山頂付近で過ごすアキアカネにマーキングし、その個体数を調査する「アキアカネふるさと探し」を行い、そのマーキングしたアキアカネを里山で確認する「アキアカネ里山観察会」を10月に実施した。またアンケート型調査は、7月から9月にかけて「滋賀の天然水と水神さま」、11月から2月にかけて「ミノムシ調査」を実施した。その調査結果は、フィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」年2回と「揭示版」年4回として発行し、博物館ウェブサイト上でPDFを公開している。また、琵琶湖博物館C展示室のフィールドレポーターのコーナーにおいて、調査内容をパネルにして展示（年2回更新）を行っている。

5月21日に実施したフィールドレポーター交流会では、「イチョウウキゴケを探そう」、「お正月あそび」の調査報告を行い、活発な質問や意見が出た。午後からは、昔あそび体験で昔懐かしいコマ廻しやたこ揚げをし、会員間の交流や親睦を図った。7月2日、琵琶湖博物館で開催された「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう～はしかけオープンハウス～」では、パネル展示と「葉っぱで遊ぼう」に出展し、数多くの方が訪れ、葉っぱを使った懐かしい遊びを楽しんだ。また、館外において12月13日、高島地域の地域活動団体と交流することで、会員数の少ない高島地域に活動の輪が広がった。

なお、登録者数は95名（2011年度）である。

フィールドレポーターの調査内容等一覧（2011年度）

内 容	実施期間	報告(件)
1) アキアカネふるさと探し 調査	8月6日	595頭
2) 滋賀の天然水と水の神さま 調査	7月～9月	107件
3) アキアカネ里山観察会	10月1日	186頭
4) ミノムシ 調査	11～2月	
5) 自由形調査(揭示板)	通年	通巻63-66号



←←フィールドレポーター交流会

アキアカネのふるさと探し →→





フィールドレポーターの活動の記録 (2011 年度)

月日	曜日	内 容
4月2日	土	定例会：だより「お正月だより」の印刷・発送
4月16日	土	定例会：「滋賀の天然水と水の神さま」調査検討、パネル更新検討
5月7日	土	定例会：C展のパネル「イチョウウキゴケ」に更新
5月20日	金	交流会の準備
5月21日	土	フィールドレポーター交流会(24名参加)
6月4日	土	定例会：掲示版(2011.1号)の印刷・発送
6月18日	土	定例会：「滋賀の天然水と水の神さま」調査内容の検討
6月29日	水	「はしかけオープンハウス」出展準備
7月2日	土	「はしかけオープンハウス」に葉っぱで遊ぼうとパネル展示出展
7月16日	土	定例会：「滋賀の天然水と水の神さま」の調査票の印刷・発送
7月17日	日	はしかけ登録講座に参加、発表
8月6日	土	「アキアカネを探そう」自由型調査(14名参加)於：びわ湖バレイ
8月20日	土	定例会：館外イベント参加検討、「ミノムシ」調査検討
9月3日	土	定例会：掲示版(2011.2号)の印刷・発送、「アキアカネ里山観察会」調査の検討
10月1日	土	「アキアカネ里山観察会」自由型調査(13名参加)於：大津市木戸、高島市宮野
10月15日	土	定例会：「ミノムシ」調査の内容検討、更新時アンケート結果の報告
10月29日	土	定例会：館外での交流会検討、「滋賀の天然水と水の神さま」集計結果の検討
11月19日	土	定例会：「ミノムシ」調査の調査票の印刷・発送
12月3日	土	定例会：掲示版(2011.3号)の印刷・発送、「滋賀の天然水と水の神さま」集計結果の検討
12月13日	火	高島地域みずすまし推進協議会との交流会(6名参加)
12月17日	土	定例会：来年度の行事内容を検討
2012年 1月14日	土	定例会：だより「滋賀の天然水と水の神さま」の印刷・発送、中長期計画の確認
2月4日	土	定例会：はしかけオープンハウス「葉っぱで遊ぼう」の報告書検討、来年度の調査内容を検討
2月18日	土	定例会：来年度の調査内容を検討、葉書づくりの練習
3月3日	土	定例会：「スクミリンゴガイ」調査内容の検討
3月4日	日	はしかけ登録講座に参加、発表
3月17日	土	定例会：掲示版(2011.4号)の印刷・発送

## (2) はしかけ制度

「はしかけ」制度は、琵琶湖博物館の理念に共感し、ともに活動を進めていこうとする人たちのための登録制度として、2000年8月に発足した。はしかけに登録することによって、博物館の事業・研究に様々な形でかかわることができ、さらには新しい活動を発想・展開することも可能になる。

「はしかけ」会員になるためには、博物館の理念およびはしかけ活動の概要を理解するための登録講座を受講し、ボランティア保険に加入する必要がある。また活動の継続のためには、年度ごとに更新手続きと保険料の納入が必要となる。今年度は登録講座を7月17日、11月6日、3月4日の3回実施し、それぞれ33名、9名、40名の新規登録者があった。2011年度末の時点での登録者は、更新分も含めて340名だった(3月の登録者は2012年度からの登録となる)。

「はしかけ」活動は主として、個別のテーマをもつグループの活動に参加する形で行われる。2011年度には

計 15 のグループが活動を行った。活動内容は後述のようにきわめて多岐にわたる。

「はしかけ」活動の場は、博物館内やその周辺ばかりならず県内の各地域にまで広がり、博物館と地域あるいは地域に住む人たちとの間の、文字通り「はしかけ」となっている。このことは琵琶湖博物館の中長期基本計画に掲げられた「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となっている。

はしかけ 10 周年記念事業「はしかけオープンハウス」を、2011 年 7 月 1 日～3 日の「あさ・ひる・ばん 博物館を楽しもう」に合わせて、博物館内の随所で開催した。本事業は 2011 年度のはしかけ発表会・交流会としても位置付けられており、各グループが活動紹介やワークショップなどを行った。

「はしかけオープンハウス」が発表会を兼ねていたことは、必ずしも全てのはしかけグループに周知されていなかった。そのためいくつかのグループは、年度末に発表会があるものとして準備を進めていた。そこで急遽、3 月 4 日に「はしかけ “はみだし” 発表会」と題して、有志グループによる発表会を開催した。

## 各グループの活動

### ○うおの会

会長：村上靖昭 担当：松田征也 会員数：67 名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000 年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を 21 世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 2000 年の発足から 2004 年 5 月までは、滋賀県内の魚類分布調査や、法竜川での定点調査などの調査と分析を行ってきた（成果報告は、琵琶湖博物館研究調査報告第 23 号「みんなで楽しんだうおの会ー身近な環境の魚たち」にまとめられている）。

2005 年度より、琵琶湖流域を対象に、NPO、団体、機関、学校、企業や個人をつなぐ「琵琶湖お魚ネットワーク」の活動を展開、流域各地で分布調査や地域の観察会で指導を行ってきた。2007 年 2 月には、その成果として「琵琶湖お魚ネットワーク報告書」を発行した。地域に活動の拠点が構築されたことから、琵琶湖お魚ネットワークの活動を終え、2008 年度から「だれでも・どこでも琵琶湖お魚調査隊」の活動を展開している。この活動では、琵琶湖淀川流域の魚の分布調査を行っている。会員の調査活動として、会員同士の交流やスキルアップのための月 1 回の定例調査を琵琶湖流域各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。うおの会では、魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全に役立てたいと願っている。なお今年度は、中島経夫・うおの会編著で『「魚つかみ」を楽しむ～魚と人の新しいかかわり方』を出版することができた。

この他、琵琶湖外来魚駆除の日、守山市湖岸振興会外来魚駆除大会、環境と科学のフェスティバルなどへの参加・協賛を行っている。

### 「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4 月 3 日	運営会議	9 名
4 月 17 日	第 77 回定例調査 彦根市南部地域周辺調査	25 名
5 月 8 日	運営会議	10 名
5 月 15 日	第 78 回定例調査 南湖東岸周辺調査	12 名
5 月 15 日	運営会議	7 名
6 月 5 日	運営会議	8 名
6 月 19 日	第 79 回定例調査 今津町周辺調査	18 名

活動日	内 容	参加者数
7月1・2・3日	あさ・ひる・ばん 博物館を楽しもう！ はしかけオープンハウス	12名
7月3日	運営会議	9名
7月9日	日本魚類学会公開シンポジウムでの活動紹介	2名
7月17日	はしかけ登録講座にてグループ紹介	1名
7月23日	琵琶湖博物館観察会協力「身近な川の魚を調べてみよう」守山市内	51名
8月7日	琵琶湖の魚を楽しむ会	12名
9月4日	運営会議	11名
9月18日	第80回定例調査 法竜川定点調査	14名
10月16日	第81回定例調査 外来魚駆除釣り大会への参加	20名
11月6日	運営会議	8名
11月6日	はしかけ登録講座にてグループ紹介	8名
11月20日	第82回定例調査 和邇川・喜撰川調査	19名
12月11日	運営会議	11名
12月18日	第83回定例調査 日野町周辺調査	18名
1月15日	運営会議	12名
1月15日	勉強会 淡水魚の写真撮影方法	28名
2月5日	運営会議	10名
2月19日	運営会議	8名
2月19日	勉強会 2011年度のまとめ会	17名
3月4日	はしかけ「はみだし」発表会	3名
3月4日	はしかけ登録講座にてグループ紹介	1名
3月25日	運営会議	12名
3月25日	うおの会総会	20名

#### ○淡海湧き水の会

代表：青木豊明、 担当学芸員：芳賀裕樹

会員数：15名

[設立の趣旨]

琵琶湖の周りの地域の湧き水の水質の簡易調査をおこない、比較する。また、地域における湧き水の水文化・伝統についても検討する。

[活動の概要]

春夏秋冬の四季に一度、湧水の水質、水草などの調査をおこなっている。また、同時に湧水に由来する水文化・伝統についても一部検討している。

「淡海湧き水の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
5月22日	春の探索会 白鬚神社の手水舎(湧水)と琵琶湖水の簡易水質調査と昼食会	白鬚神社(高島市)	7名
8月7日	夏の探索会 醒ヶ井の湧水の簡易水質調査と昼食会	醒ヶ井(米原市)	10名
8月21日	「環境と科学のフェスティバル」に参加	ビバシティ彦根(彦根市)	5名
11月20日	秋の探索会 日吉大社の湧水の簡易水質調査と昼食会	日吉大社(大津市)	11名
12月9日	忘年会	山科(京都市)	9名
2月19日	冬の探索会 若宮の湧水の簡易水質調査と昼食会	若宮(近江八幡市)	10名

○近江はたおり探検隊

担当：中藤容子 運営・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月13日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	6名
4月30日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	8名
5月11日	はたおり探検（苧績みを習う）	米原市甲津原	6名
5月14日	織姫の会（試作の綿繰機で綿繰り）	生活実験工房	10名
5月25日	織姫の会（試作綿繰機の検証）	生活実験工房	6名
6月4日	織姫の会（綿繰り、麻の苧績み・撚りかけ）	生活実験工房	9名
6月8日	はたおり探検（機製作工房見学）	吉田機料（京都市）	10名
6月22日	織姫の会（苧麻の苧びき）	生活実験工房	11名
7月2日	織姫の会（藍の生葉染め体験）	生活実験工房	9名
7月20日	織姫の会（ハスからの糸づくり）	生活実験工房	6名
9月21日	織姫の会（糸紡ぎ）	生活実験工房	3名
10月15日	織姫の会（綿繰り・糸紡ぎ）	生活実験工房	6名
11月13日	織姫の会（綿繰り・糸紡ぎ）	生活実験工房	7名
11月23日	織姫の会（綿繰り・糸紡ぎ）	生活実験工房	9名
12月3日	織姫の会（綿繰り・糸紡ぎ、原始機の千切巻）	生活実験工房	10名
12月21日	織姫の会（韓国のポシャギについて）	生活実験工房	5名
1月18日	織姫の会（原始機の製作）	生活実験工房	10名
2月4日	織姫の会	生活実験工房	5名
2月22日	織姫の会	生活実験工房	7名
3月7日	織姫の会	生活実験工房	11名
2月26日	はたおり探検（日本竹箴技術保存会「試作竹箴による織布展」見学）	瑞穂市総合センター（岐阜県）	4名
3月16日	はたおり探検（月ヶ瀬奈良晒保存会見学）	奈良市月ヶ瀬	5名

○近江昔くらし倶楽部

担当：中藤容子 会員数：15名

[設立の趣旨] 常設展示「農村のくらし」など近江の伝統的な暮らしぶりから学ぶ“小地域循環的な暮らし”を、実際に屋外展示の森・田畑・工房の中で実験的に創造していくことを目標にしている。近江はたおり探検隊で行っていた「衣」の活動を「衣食住」すべてに広げるべく、2009年1月に設立された。

[活動の概要] 年間を通じ、月1回の「工房の田んぼ行事」への協力と屋外展示・生活実験工房を拠点とする昔くらし体験の活動を行っている。平成23年度は、雑穀カフェや滋賀の食事文化研究会との共催活動も行うことができた。

「近江昔暮らし倶楽部」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月16日	工房の田んぼ行事（苗代づくり）	生活実験工房	18名
5月15日	工房の田んぼ行事（田植え、綿の苗植え）	生活実験工房	15名
5月17日	工房を楽しもう！（茶つみ・製茶）	生活実験工房	3名
6月25日	旬の味をわかちあう会（田んぼの生き物観察、豆団子づくり）	生活実験工房	10名
7月1・2・3日	あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう！ 「富江家の暮らし案内ツアー」	常設展示室	5名
7月13日	古民家暮らし体験（繕い物、ヨシ笛、布草履、箸づくり）	葛川かや葺きの家（大津市）	5名
7月20日	工房を楽しもう！（本格的なカレーづくり）	生活実験工房	2名
7月24日	旬の味をわかちあう会（竹細工、シソジュース、手打ちうどんづくり）	生活実験工房	12名
8月21日	工房の田んぼ行事（かかし作り、カレー&ナン）	生活実験工房	18名
9月6日	古民家暮らし体験（お馬と畑）	奥加河荘（大津市）	2名
9月8日	古民家暮らし体験（繕い物、ヨシ笛づくり）	葛川かや葺きの家（大津市）	4名
9月14日	学びあいの会「雑穀を使った料理づくり」	生活実験工房	共催：雑穀カフェ 参加者：6名
10月5日	古民家暮らし体験（鶏小屋の修理など）	奥加河荘（大津市）	3名
10月18日	古民家暮らし体験（綿の種とり、糸紡ぎなど）	葛川かや葺きの家（大津市）	4名
11月8日	古民家暮らし体験（お馬と畑）	奥加河荘（大津市）	3名
11月13日	工房の田んぼ行事（収穫祭）	生活実験工房	18名
11月15日	古民家暮らし体験（繕い物、地元のおばあちゃんとのお話し）	葛川かや葺きの家（大津市）	10名
12月6日	古民家暮らし体験（布草履づくり）	葛川かや葺きの家（大津市）	5名
12月8日	古民家暮らし体験（お馬と畑）	奥加河荘（大津市）	5名
12月21日	工房を楽しもう！（手仕事、甘酒）	生活実験工房	6名
12月23日	工房の田んぼ行事（もちつき）	生活実験工房	30名
1月14・15日	わくわく探検隊「博物館でスゴロクをしよう」	生活実験工房	15名
1月15日	工房の田んぼ行事（どんど焼き、漬物づくり）	生活実験工房	25名
1月18日	工房を楽しもう！（手仕事、甘酒）	生活実験工房	6名
2月4日	工房を楽しもう！	生活実験工房	2名
2月12日	工房の田んぼ行事（わら草履づくり）	生活実験工房	13名
2月18日	学びあいの会「野菜の乾物を使った料理」	生活実験工房	共催：滋賀の食事文化研究会 参加者：28名
2月22日	工房を楽しもう！	生活実験工房	3名
3月6日	古民家暮らし体験（暦を学ぶ）	葛川かや葺きの家（大津市）	7名
3月7日	工房を楽しもう！	生活実験工房	3名
3月13日	古民家暮らし体験（お馬と畑、薪割り）	奥加河荘（大津市）	3名
3月10日	京都大学アカデミックデイ・ポスター展示	京都大学百周年時計台記念館（京都市）	
3月18日	工房の田んぼ行事（一年の振り返り、大掃除）	生活実験工房	15名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：秋山廣光

会員数：26名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。

生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。

感動的に、そして美しく。

時の流れと共に変化するこの世界の一瞬を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] 撮影会と勉強会を開催。2011年度は主に烏丸半島の昆虫を撮影した。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月16日	撮影会（長浜の祭）	長浜	2名
5月28日	撮影会（屋外展示-雨にちなんで）	実験工房	4名
6月25日	7月展示の写真選考	会議室	3名
7月16日	撮影会（烏丸半島の昆虫-鳴く虫）	烏丸半島	4名
9月10日	撮影会（烏丸半島の昆虫-鳴く虫）	烏丸半島	3名
10月22日	勉強会	会議室	4名
11月26日	撮影会（烏丸半島）	烏丸半島	1名
1月28日	勉強会	会議室	3名
3月4日	総会	会議室	7名

○からすま通信局

会長：清水華子 担当学芸員：芳賀裕樹

会員数：3名

[設立の趣旨] 博物館の展示・研究などについて、利用者目線での情報提供をする事により、来場者の理解を深め、博物館での新しい楽しみ方を模索する事を目的としてグループを設立した。

[活動の概要] 今年度は博物館の活動を紹介することに重点を置き、「博物館のひとびと」というインタビュー記事を「はしかけニューズレター」に連載した。

「からすま通信局」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月28日	連載「博物館のひとびと」第2回 老文子（学芸員）の記事をはしかけニューズレター99号に掲載		
5月29日	編集会議	琵琶湖博物館	3名
6月4日	インタビュー取材（篠原館長）	琵琶湖博物館	3名
6月18日	編集会議	琵琶湖博物館	2名
7月1日～3日	「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」はしかけオープンハウスで壁新聞を掲示	琵琶湖博物館	
8月25日	連載「博物館のひとびと」第3回 篠原徹（館長）の記事と「ミュージアムショップの隠れた逸品」をはしかけニューズレター101号に掲載		
9月3日	インタビュー取材（亀田学芸員）	琵琶湖博物館	3名
9月25日	編集会議		
10月27日	連載「博物館のひとびと」第4回 亀田佳代子（学芸員）の記事をはしかけニューズレター102号に掲載		
12月3日	編集会議	琵琶湖博物館	2名

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当学芸員：老 文子 会員数：8名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざしている。

[活動の概要] 「びわこの旅」の紙芝居を見てくれる子ども達の年齢が年々低くなっているような気がします。いつも紙芝居を始める前に子ども達と話をしていますが、「びわこ」と言ってもなかなか通じない年齢ですので、何とか絵と「生きている琵琶湖」のリズムだけでも思い出になるように心掛けて話しかけるようにしています。はしかけオープンハウスでは、ヨシ笛グループに協力をいただき、子ども達と楽しく合唱や演奏ができました。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月10日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
6月12日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
7月2日	あさひるばん博物館を楽しもう！はしかけオープンハウス 紙芝居「びわこの旅」上演・ヨシ笛演奏・「生きている琵琶湖」合唱	琵琶湖博物館会議室
10月2日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
11月27日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
1月22日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
2月27日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：芦谷美奈子、藤岡千裕、山田陽子、会員数：5名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 「ザ！ディスカバはしかけ」は2005年度の秋に発足した団体である。これまでは個人ごとの活動が中心となり、イラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修を中心に活動した。そして、展示室のイベントで他のはしかけさんにも協力していただき、今後の目標でもある“ディスカバリーをもっと楽しくするイベント”にも挑戦できた。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5月2日	イベント「ゲンタの誕生物語」紙芝居の上演	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
5月15日	第3回 ザ！ディスカバはしかけ交流会	大津市馬場
7月2日	イベント「光と影であそぼう☆」運営の補助	琵琶湖博物館 (ホール前)
7月3日	イベント「くるりん☆かざぐるま」運営の補助	琵琶湖博物館 (交流室)
7月17日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館 (セミナー室)
8月4日	水の中の生きもの「貝のスポンジ」修繕	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
9月18日	イベント「トンボ・とんぼ」紙芝居の上演	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
10月22日	ホワイトボード「紅葉のペーパークラフト」展示制作	
10月27日	「お絵描きノート」考案と制作	
11月16日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館 (会議室)
11月24日	はしかけ会議	琵琶湖博物館 (会議室)

活動日	内 容	場 所
11月27日 12月4日 12月11日	イベント「どんぐりぼうしでストラップをつくろう！」考案とストラップの制作指導	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
1月17日	おばあちゃんの台所「座布団カバー」展示制作	
2月15日	おばあちゃんの台所「障子の張り替え」	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
2月23日	本棚コーナー「お手玉」展示制作	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
2月29日	イベントの準備補助	
2月15日 3月4日 3月20日	イベント「昔のあそび、お手玉をつくろう」お手玉の制作指導	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
3月4日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館 (セミナー室)
3月19日	第2回 ザ! ディスカバはしかけ総会	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)

### ○里山の会

世話役：飯田俊宏、桑垣 瑞、前田博美、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、吉井 隆

担当：寺尾尚純、楠岡 泰

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初、このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯れアカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であった。数年にわたる手入れにより、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。伐採した木々は、里山の燃料として利用され、参加者は里山の燃料を使うことから里山の恵みを感じることができた。

また、このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動の認知度が地域で高まってきている。

### 「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月9日	里山体験教室(春) 下見	野洲市大篠原
4月17日	里山体験教室(春) 本番「里山の春をさがそう」	野洲市大篠原
4月24日	博物館周辺の山菜探し、味の違いを確かめる会	琵琶湖博物館
6月4日	永源寺新緑探索と川遊び	東近江市君ヶ畑
6月13日	はしかけ10周年記念イベント準備(ハンモック)	琵琶湖博物館
6月19日	はしかけ10周年記念イベント準備(ペンダントづくり)	琵琶湖博物館
7月2日	はしかけ10周年記念イベント(ハンモック&ペンダント)	琵琶湖博物館
7月9日	里山体験教室(夏) 下見	野洲市大篠原
7月17日	里山体験教室(夏) 本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原
9月10日	そば種まき	琵琶湖博物館
10月2日	どんぐり拾い	大津市なぎさ公園



活動日	内 容	場 所
10月 8 日	里山体験教室（秋）下見	野洲市大篠原
10月 9 日	どんぐりクッキング、鳥笛づくり	琵琶湖博物館生活実験工房
10月 16日	里山体験教室（秋）本番「秋の彩りと里山林の手入れ」	野洲市大篠原
10月 22日	JETsとの共同針江地区見学会	高島市新旭町針江
10月 29日	里山観察会 下見	大津市上仰木
11月 13日	里山観察会 本番	大津市上仰木
12月 17日	そば感謝祭	琵琶湖博物館生活実験工房
1 月 7日	里山体験教室（冬）下見	野洲市大篠原
1 月 15日	里山体験教室（冬）本番「里山の冬あそび」 （里山の会によるプロデュース）	野洲市大篠原
2 月 11日	第7回人づくり・地域づくりフォーラムin山口 準備	琵琶湖博物館
2 月 18日	第7回人づくり・地域づくりフォーラムin山口 本番	山口市山口県セミナーパーク
3 月 4日	はしかけ登録講座・世話人会	琵琶湖博物館
3 月 17日	総会	琵琶湖博物館生活実験工房

### ○植物観察の会

代表者：不在 担当者：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：名簿なし

〔設立の趣旨〕 2004 年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」の準備中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。会として名簿を作成しておらず、はしかけ登録者であれば誰でも観察会に参加していただけるようにしており、専門知識がなくても楽しく植物について学ぶことができる場と位置付けている。

〔活動の概要〕 ニュースレターの発行に合わせて、野外での植物観察会を継続してきた。博物館での主催行事とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに里山を歩き、目についた植物について観察をするという形式で行った。また、7月2日には「あさ・ひる・ばん 博物館を楽しもう」の鉦しかけオープンハウスの一環として、館の屋外展示でミニ観察会を実施した。

#### 「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月 28日	観察会	上桐生（大津市）	雨天中止
7月 2日	はしかけオープンハウスでのミニ観察会（午前・午後、各1回）	琵琶湖博物館屋外展示	午前：3名 午後：12名
9月 24日	観察会	雪野山（竜王町）	7名
12月 10日	観察会	愛知川河辺林・河辺いきものの森（東近江市）	8名
3月 4日	観察会	石部（東近江市）	10名

### ○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当学芸員：大塚泰介

会員数：21名

〔設立の趣旨〕 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

〔活動の概要〕 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈される。

会全体として、2011年度は以下の3つのテーマに取り組んだ。(1) 2012年8月12日～9月2日に「集う・使う・創る新空間」で開催するミニ展示「あら！こんなところに珪藻が」の準備を進めた。(2) 滋賀県南部の湧水湿地の珪藻を調査した。(3) 鳥取県湖山池の珪藻植生を調査するための前段階として、珪藻の写真撮影と種ごとの整理を進めた。

また個人研究として、珪藻の殻の模様の幾何学的検討、スズキケイソウの培養による形態変異の検討なども進めている。

今年度は研究論文を出版することができなかったが、この2年間で蓄積したデータをもとにいくつかの報告を準備中である。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月3日	たんさいぼうの会第30回総会	琵琶湖博物館	担当：石井千津 参加者：10名
6月11日・12日	「あら！こんなところに珪藻が」ビデオ撮影	草津市内各地	担当：大塚泰介 参加者：10名
6月19日	「第2回 西日本原生生物コロキウムで」で研究発表	琵琶湖博物館	発表者：有田重彦・大塚泰介
7月1日～3日	「はしかけオープンハウス」でポスター展示、顕微鏡観察体験、「珪藻マスターリターンズ」、「珪藻福笑い/美人コンテスト」を行う	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：12名
7月3日	たんさいぼうの会第31回総会	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：11名
7月17日	臨時新人研修	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：3名
8月21日	「環境と科学のフェスティバル」で顕微鏡コーナーを担当	ビバシティ彦根(彦根市)	担当：大塚泰介 参加者：5名
10月9日	たんさいぼうの小さな旅 XIII 甲賀の湧水湿地	甲賀市一帯の湧水湿地	担当：片山慈敏 参加者：13名
10月26日	たんさいぼうの小さな旅 追加調査	野洲市の湧水湿地	担当：大塚泰介 参加者：4名
11月7日	たんさいぼうの小さな旅 追加調査	甲賀市の湧水湿地	担当：片山慈敏 参加者：5名
11月12日	たんさいぼうの会第32回総会	琵琶湖博物館	担当：三村武士 参加者：9名
1月9日	たんさいぼうの会第33回総会・新年会	琵琶湖博物館	担当：田邊純子 参加者：10名

○田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡 泰、マーク J. グライガー、 会員数：20名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 当グループは、フィールドレポーターが行った田んぼの生き物調査に興味を持った有志で結成された。水田に生息する生物、特に大型鰓脚類（カブトエビやホウネンエビ、カイエビなど）の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。大型鰓脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため、水温や水質、冬期の土壌水分量などのデータの比較を行っている。はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査も行っている。2011年度は合同調査として夏に長浜市周辺で水田エビ類調査を実施した。

冬の雪が多い時期に同じ田の土壤水分含有量調査を行う予定であったが、大雪のため合同調査を中止し、一部の有志による個別調査を行った。

9月11日(日)台湾、台北市で開かれた国際大型鰓脚類学会で以下のポスター発表を行った。

Masako Maeda, Yasushi Kusuoka, Mark J. Grygier, and the Lake Biwa Museum Hashikake Rice Field Organisms Survey Group. Evaluation of the effect of winter soil moisture on the distribution of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan (冬季水田土壤水分含有量が大型鰓脚類の滋賀県内の分布に与える影響評価)

「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月9日	2010年度調査報告会 2011年度調査検討会 田んぼの生き物調査研修会	琵琶湖博物館	8名
5月28日	アジアカブトエビを中心とした田んぼのエビ類調査	大津市瀬田、石山 周辺	11名
6月5日	冬に土壤の水分含有量調査を行った田んぼでエビ類の定量調査を行った	長浜市周辺	9名
6月10日	「はしかけオープンハウス」の準備		6名
6月11日	長浜で6月5日に調査した田んぼで再度調査を行った	長浜市周辺	6名
7月2日	あさ、ひる、ばん！博物館を楽しもう！「はしかけオープンハウス」に参加した。生きた田んぼのエビ類の展示のほか、田んぼのエビに関するパズルやクイズも実施した	琵琶湖博物館	10名
9月3日	2011年度調査で採集した標本をもとに、アメリカカブトエビとアジアカブトエビの違いや、カイエビとトゲカイエビの違いなどを全員で確認した後、それぞれの標本を同定した	琵琶湖博物館	8名
9月11日	国際大型鰓脚類学会で近江八幡周辺で行った冬季土壤水分とエビ類の分布に関する調査結果を発表した	台湾大学(台湾、 台北市)	学芸員が代 理発表
2月22日	冬の田んぼ土壤調査	長浜市周辺	1名
通 年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	それぞれが 随時調査
12月～2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	それぞれが 随時調査

〇びわたん

担当 大依久人・藤橋和弘 会員数：20名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、概ね第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、他の博物館や学校、地域に出かけて体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。

そして、2004年度から毎年1月に行っている「琵琶湖博物館わくわく探検隊・博物館でスゴロクをしよう」のプログラム8年分を、「博物館を100倍楽しむ!ーびわたんのスゴロクプログラムー」として冊子にまとめた。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	担 当
4月9日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
4月23日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
5月14日	プラばら プラクトンのばらばらまんが	企画・運営・実施
5月28日	プラばら プラクトンのばらばらまんが	企画・運営・実施
6月11日	琵琶湖の模型をつくろう	企画・運営・実施
6月25日	琵琶湖の模型をつくろう	企画・運営・実施
9月10日	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～	企画・運営・実施
9月24日	光とかげで写真をとろう ～水の中の植物編～	企画・運営・実施
10月8日	秋の色を探してみよう	企画・運営・実施
10月22日	秋の色を探してみよう	企画・運営・実施
11月12日	木の実で遊ぼう	企画・運営・実施
11月26日	木の実で遊ぼう	企画・運営・実施
12月10日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	企画・運営・実施
1月14日	博物館でスゴロクをしよう～生活実験工房を中心に～	企画・運営・実施
1月15日	博物館でスゴロクをしよう～生活実験工房を中心に～	企画・運営・実施
2月11日	縄文コースターを作ろう	企画・運営・実施
2月25日	縄文コースターを作ろう	企画・運営・実施
3月10日	コラージュ作品をつくろう	企画・運営・実施
3月24日	コラージュ作品をつくろう	企画・運営・実施

館外・博物館イベント

活動日	内 容	場 所	担 当
7月3日	はしかけオープンハウス 「琵琶湖の模型をつくろう」 「くるくる☆カラフルたねとぼし」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
7月17日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
7月22日	長浜市社協サマーホリデー	長浜市長浜六角館	企画・運営・実施
8月2日	自然調査ゼミナール 「ホネにさわってみよう」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
8月21日	環境と科学のフェスティバル 「空から見た琵琶湖」	彦根ビバシティ	実行委員会 企画・運営・実施
8月24日	企画展関連イベント 「カワウのことを調べてみよう！」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
10月1日	企画展関連イベント 「カワウのことを調べてみよう！」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
11月6日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
11月19・ 25・27日	びわたん対話型鑑賞 「気分は名探偵～おしゃべりで発見」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
12月18日	琵琶湖博物館観察会 「からすま半島の水鳥を観察してみよう」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
3月4日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施

○ほねほねくらぶ

会長：山中裕子 副会長：菅原 広報担当：日田、人見 担当学芸員：高橋啓一

会員数：大人14名 子ども2名 計16名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。

2011年度は、大阪自然史博物館で開催されたホネホネサミット2011や琵琶湖博物館で開催されたはしかけオープンハウスにて骨の展示や交流をおこなった。また骨格標本つくりのほか紙粘土によるレプリカ制作や剥製制作、骨のスケッチなどにも挑戦した。また2010年より試験的に使っていた水付け水槽も本格的に運用開始。皮剥ぎ、解剖、除肉が終わった資料を匂いなどのトラブルなく骨にすることができるようになった。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	10日 ワニガメ手足・東部除肉、ツキノワグマ骨整理	琵琶湖博物館
	23日 ワニガメ除肉	
5月例会	7日 ウサギ(沙羅)持ち込み、組立用ツキノワグマ接着ボンド外し除肉済みツキノワグマを水浸け、冷凍庫の資料整理	琵琶湖博物館
	23日 動物標本製作室の模様替え、ツキノワグマ頭部除肉、シカ骨洗い	
6月例会	12日 はしかけオープンハウスワークショップパネルほか準備、シカの全身骨格並べ勉強(新しいメンバー)	琵琶湖博物館
	25日 はしかけオープンハウス展示準備：クリーニング済みのワニガメ組立、ワニガメ甲板並べ、ウサギ組立	
7月例会	2日 はしかけオープンハウスにて交流	琵琶湖博物館
	3日 博物館来館者とツキノワグマの全身骨格組立とシカの骨並べ	
17日 ツキノワグマの骨洗い、チョッパー(ヤギ)・クマ頭骨水付け、ウサギ組立		
8月例会	21日 チョッパー(ヤギ)頭部除肉、イタチ皮剥ぎ、ウサギとイタチ剥製用に皮剥ぎ	琵琶湖博物館
9月例会	18日 ヤギ骨洗い、イタチ除肉、ドブネズミ除肉、タヌキ四肢の組立見本づくり(学習用)、ノロジカ頭骨レプリカづくりA(紙粘土)	琵琶湖博物館
	24日 イタチ除肉と水付け、アライグマ除肉、タヌキ皮剥ぎ	
10月例会	18日 ほねほねサミット2011出展、ワークショップ(カエル骨格標本づくり他)参加	大阪市立自然史博物館
11月例会	13日 ヤギ骨洗い、アライグマ・タヌキ解剖と除肉、タヌキとウサギの骨組立	琵琶湖博物館
	27日 ウサギ組立、新空間での展示検討	
12月例会	18日 魚類の骨の整理とラベル付け、ビワコオオナマズ下顎骨洗い	琵琶湖博物館
	25日 イタチ・タヌキ・キツネ・ビワコオオナマズ骨洗い、イタチ皮剥ぎ続き、イタチ洗い終わった骨の脊椎骨並べ	
1月例会	15日 新空間展示内容検討、ミニブタ修理、簡易組立したツキノワグマのボンド外し解体。ヤギ骨並べ、タヌキ手骨スケッチしながら骨洗い	琵琶湖博物館
	21日 ミニブタ後肢組立直し、タヌキ組立、タヌキ骨洗い、魚骨洗い	
2月例会	5日 アライグマ手・足根骨並びスケッチしながらクリーニング。ウサギ組立。ミニブタ修理	琵琶湖博物館
	18日 ヤギの展示台づくり、ミニブタ修理完了、タヌキ後肢組立完成	

活動日		内 容	場 所
3月例会	4日	はしかけ登録講座活動紹介、アライグマ骨洗い、ヌートリア・シカ頭部レプリカさくせい、ウサギスケッチ	琵琶湖博物館
	31日	キツネ骨洗い、イタチ骨洗い	

### ○緑のくすり箱

担当学芸員：草加伸吾 世話役：長澤京子 会員数：16名

[設立の趣旨] メンバーの約半数8名が、アロマセラピーと関わっており、アロマ精油について、基となる植物について、詳しく知りたいと思い、グループをつくった。琵琶湖博物館には、伊吹山の植物研究で知られる村瀬先生の植物標本などもあり、薬草研究に興味をもったことが琵琶湖博物館で、研究したいと思ったきっかけである。アロマセラピーは、ヨーロッパで広まった自然療法だが、身土不二の考え方で、私たちの生活の場（日本・滋賀県）にある、身近な植物を健康生活に活かしていきたいと活動を始めた。

[活動の概要] 毎年、恒例となっている、高島市にある森林公園「くつきの森」での自然観察会で、1年の活動がスタートした。あいにく今年度は、予定していた「アミガサタケ」や「ハンカチの木」は、気温が例年より低く、見られなかった。代わりに「クロモジ」の枝と葉をお茶として飲んだり、日本の植物で抽出した精油（杉・ヒノキ・柚子・ラベンダー・翌檜）を使った「アロマオイル・マッサージ」を体験していたりした。

また、ブナ林の見学と紅葉狩り、空気の乾燥している冬に七草粥と廃油石鹸作りなど、旬の植物を、日常生活の衣・食・住に活用し、実践した。ただ、イベント中心の活動になってしまい、グループの研究テーマが確立できていない現状だが、メンバーが皆、共通して興味をもっているのが「食」の面で、薬草をいかに調理するか、また、使った薬草に、どのような効能があるかを調べるのが、研究テーマの方向性として、固まりつつある。



### 「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月7日	自然観察会とヒマラヤ奥地での交流体験講演と和のアロマオイル・マッサージ	高島市森林公園 「くつきの森」	13名
10月22日, 23日	伊吹山「和ハーブ塾」参加	岐阜県揖斐川市春日村	2名
11月23日	生杉「ブナ林」見学と花梨のハンドジェル作り	高島市生杉・「くつきの森」	9名
1月7日	七草粥と廃油石鹸作り	琵琶湖博物館	9名
3月4日	年間反省と平成24年度 年間計画立案	琵琶湖博物館	7名

### 地域交流活動への支援事業

#### (1) 地域活動の支援（博物館内対応：講座・実習・ワークショップ・博物館ガイダンス・視察対応など）

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容
5	8	日	立命館大学 BKC 教職支援センター	40	琵琶湖の環境
5	11	水	社会保険センター浜松	35	博物館の見どころ（魚を中心に）
5	22	日	金沢市味噌蔵町民館	44	博物館の概要説明
5	28	土	若鮎保育園	28	琵琶湖にまつわる食体験保育
6	11	土	ダイニックスアストロパーク天究館	22	体験学習「プランクトン観察」

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容
6	12	日	京都造形芸術大学	10	歴史遺産実習の講義、収蔵庫見学
6	19	日	神戸大学大学院	50	第2回西日本原生物コロキウム
6	19	日	日本野鳥の会滋賀支部	20	総会第1部講義「琵琶湖の外来種問題～生物多様性の考え方～」
6	22	水	滋賀県教育委員会	40	滋賀県の植生と暮らしの民俗・歴史
6	26	日	京都造形芸術大学	10	歴史遺産実習の講義、収蔵庫見学
6	28	火	近畿水士里ネット連合協議会	20	魚のゆりかご水田プロジェクト
7	13	水	神戸女学院大学大学院	8	展示案内、解説
7	16	土	乙訓の自然を守る会	20	ニゴロブナ保全活動、魚ゆりかごプロジェクト
7	19	火	社会保険センター浜松	45	展示案内（美術館めぐり講座）
7	23	土	淡海生涯カレッジ長浜校	40	琵琶湖の水の流れについて
7	25	月	ジャスベル株式会社	26	湖と人間の共存関係について
7	26	火	社会保険センター浜松	45	展示案内（美術館めぐり講座）
7	27	水	ジャスベル株式会社	26	湖と人間の共存関係について
7	28	木	川崎市民ミュージアム	5	ディスカバリールームについて（研修）
7	29	金	滋賀県農業農村振興事務所長、県庁農政水産部職員	15	企画展「こまった！カワウ」見学
7	30	土	全国カヤネズミ・ネットワーク	7	博物館の概要説明、バックヤード見学
7	31	日	国立民族学博物館	11	国立民族学博物館共同研究会コメンテーター
8	4	木	ジャスベル株式会社	28	湖と人間の共存関係について
8	6	土	京都国際マンガミュージアム	13	展示案内
8	9	火	愛媛県美術館、宇都宮美術館、東京国立近代美術館工芸館	2	聞き取り調査、収蔵状況見学
8	10	水	ホテルの学校	50	昆虫観察会と標本作製
8	12	金	南丹市教育委員会	28	特別学習会「アユモドキの学習」
8	18	木	ジャスベル株式会社	30	湖と人間の共存関係について
8	18	木	ジャスベル株式会社	30	湖と人間の共存関係について
8	18	木	滋賀県庁水産課	25	琵琶湖の魚介類の学習展示解説
8	19	金	滋賀県庁水産課	25	琵琶湖の魚介類の学習展示解説
8	20	土	ジャスベル株式会社	30	湖と人間の共存関係について
8	29	月	東北学院大学	88	琵琶湖博物館の交流活動（博物館実習）
9	1	木	大津市生涯学習センター	30	外来魚について
9	3	土	砺波市連合婦人会	30	琵琶湖の水環境の変化と私たちの生活
9	10	土	京都大学	15	博物館の概要、特に交流と研究
9	11	日	京都造形芸術大学	19	博物館の概要説明、民俗資料整理実習
9	20	火	京都府立大学	3	環境微生物学
9	21	火	京都府立大学	中止	環境微生物学
9	22	木	桃山学院大学	12	収蔵庫や展示の見学
9	25	日	京都女子大学	21	琵琶湖博物館の設置目的と交流活動（博物館実習）
10	12	水	大路市民センター	30	琵琶湖の水について

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容
10	12	水	大路市民センター	10	プランクトンの観察
10	19	水	高齢者大学	49	琵琶湖四方山話
10	25	火	KG-NET 関西圏地盤研究会	200	琵琶湖博物館における取組について
10	29	土	桐田機工株式会社	20	森林の利水作用
11	5	土	滋賀県ネイチャーゲーム協会	45	希少淡水魚の展示・増殖研究、解剖実習
11	12	土	シニア自然大学	15	京阪神の水瓶、淀川の源琵琶湖について
11	12	土	伊丹市中央公民館	30	桶風呂と環境
11	17	木	大阪私立中学校高等学校保護者会連合会	60	琵琶湖の外来魚問題：外来生物問題と生物多様性
11	18	金	シニア自然大学	63	琵琶湖の水生動物について
11	20	日	自然と緑第17期自然大学	70	水域のプランクトンについて
11	20	日	日本質量分析学会関西支部勉強会	12	研究概要：琵琶湖の外来魚問題
11	24	木	宮前クラブ	21	琵琶湖の舟運について
11	24	木	滋賀県立大学	46	博物館で働くことの職場・就業体験に関する講義
11	25	金	阪神シニアカレッジ国際10期生	31	博物館の見どころについて応答
11	26	土	豊田市自然観察の森	10	博物館に携わるボランティアの運営と博物館見学
12	4	日	NPO 法人瀬田川リバプレ隊	50	湖上セミナー「古代から中世の琵琶湖」「今の琵琶湖」
12	6	火	愛知学院大学	40	博物館施設の見学と学芸員の方による解説
12	13	火	NTT 労働組合西日本本部	10	地球温暖化と琵琶湖の関係
12	20	火	浜名湖クラブ	3	交流事業についての取り組み
1	5	木	びわこ学院大学	48	学外実習
1	14	土	京都橘大学 児童教育学科	175	博物館の意義と特徴
1	22	日	橿原市昆虫館	30	館内見学、体験学習
2	5	日	琵琶湖博物館・ぼてじゃこトラストほか	100	平成23年度イチモンジタナゴ交流会「イチモンジタナゴの保全活動を見つけてきて」
2	10	金	あいち海上の森センター	2	参加型活動の実施状況について
2	22	水	大阪動植物海洋専門学校	50	生物を使った教育活動や管理業務について
2	29	水	京都府職員研修・研究支援センター	2	博物館の運営について
3	15	木	東海自然学園	25	琵琶湖の魚について
3	18	日	淡海森林クラブ	50	淡海の森づくり
3	21	水	大阪シニア自然カレッジ	20	琵琶湖の環境と私たちの生活
3	25	日	ぼてじゃこトラスト	24	鳥の勉強会&水族展示室見学
3	27	火	京都市野生鳥獣保護協議会	20	カワウの被害対策

(2) 地域活動の支援（博物館外対応：講座、実習、ワークショップ、一般向け講義など）

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
4	6	水	堤青空ネットワーク	20	ゆりかご水路と堰上げ型排水路の特性について	野洲市堤自治会館
4	21	木	(株)オムロン野洲事業所ほか	30	イチモンジタナゴ放流式	(株)オムロン野洲事業所



月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
4	22	金	滋賀経済同友会湖南支部	25	湖南企業いきもの応援団 2011年度第1回調査会	日本ガラストロンクス(株) および草津市狼川流域
4	25	月	京都 YMCA グローバルアウト ドアクラブワイルドベリー チーム	5	5月体験プログラムに関する 助言および現地見	多賀町大君ヶ畑
5	15	日	ぼてじゃこトラスト	26	ぼてじゃこワシパク塾「メ ダカ&サツマイモ植え」	大津市瀬田3丁目 ぼて じゃこビオトープ
5	15	日	京都 YMCA グローバルアウト ドアクラブワイルドベリー チーム	30	「不思議なカラダの持ち主 カタツムリの生態を探れ!」 現地指導	多賀町大君ヶ畑
5	21	土	ホテルの学校	30	川の中の生きものしらべ	大津市南郷市民センター
5	24	火	近江八幡市小船木町老人ク ラブ	50	琵琶湖の魚の生態など身近 な話	小船木町老人憩いの家
6	4	土	矢倉市民センター	30	わんぱくプラザ矢倉っ子・ 草津川探検 水生生物の観 察調査	新草津川立木橋付近
6	4	土	東京六稜会	100	第54回総会講演「生物多様 性ってなに?」	学士会館(東京都)
6	5	日	ホテルの学校	150	ホテルの夕べ	大津市南郷市民センター
6	10	金	富之尾子供会、多賀町富之尾 区長	60	富之尾環境保全会、蛍の鑑 賞会	富之尾営農センター
6	11	土	大津市立真野北公民館	80	まのきたっ子ワクワク広場 ほたるの観察	大津市伊香立融神社
6	13	月	株式会社ブリヂストン	80	びわ湖生命の水プロジェク ト	ブリヂストン彦根工場 BS 社員アパート前
6	14	火	たきのみや保育園	55	ホテルの観察	富之尾集落内
6	16	木	瀬田南幼稚園	60	水族館で泳ぐ魚の解説、琵 琶湖の環境を守ることに ついて	瀬田南幼稚園
6	18	土	公益社団法人日本国際民間 協力会(NICCO)	38	NICCO ふゆみずたんぼ生き 物観察会	竜王町岡屋および山之上 ふゆみずたんぼ
6	19	日	愛西土地改良区	60	水土里ふれあい体験	愛西土地改良区
6	19	日	滋賀県農政水産部	30	東近江市栗見出在家 魚の ゆりかご水田	東近江市栗見出在家
6	22	水	竜田川環境浄化推進協議会	8	竜田川における環境保全イ ベントに関する助言	プリズムへぐり
6	23	木	社会福祉法人 洛和福祉会	30	職員研修「琵琶湖周辺に生 息する淡水魚の飼い方」	洛和福祉会
7	6	水	社団法人彦根青年会議所	30	7月度定例会「この地域の自 然環境の移り変わり」、ナ イトハイク	彦根市荒神山自然の家
7	7	木	草津市市民環境部環境課	100	草津エコフォーラム2011 「琵琶湖の水質と生物」	草津市役所
7	9	土	滋賀県健康福祉子ども・青少 年局	65	出会い発見! 青少年応援事 業 プロフェッショナルと の交流会	草津市立まちづくりセン ター
7	18	月	NPO 法人シニア自然大学校	65	淡水魚(分類と生態)	大阪市 NPO プラザ
7	19	火	NPO 法人シニア自然大学校	65	淡水魚(分類と生態)	大阪市 NPO プラザ
7	21	木	NPO 法人シニア自然大学校	65	淡水魚(分類と生態)	大阪市 NPO プラザ

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
7	22	金	長浜市社会福祉協議会	34	障害のある子供たち向けの体験プログラムの実施	長浜市六角館
7	23	土	ホテルの学校	30	千丈川生きものたんけん	大津市南郷市民センター
7	23	土	滋賀経済同友会湖南支部	30	湖南企業いきもの応援団2011年度第2回調査会	日本ガラストロンクス(株)および草津市狼川流域
7	28	木	オーパルオペテックス株式会社	50	幼児水辺体験活動「ビオトープ内の魚や周りにいる生き物解説」	大津市瀬田3丁目ぼてじゃこビオトープ
7	30	土	米原市伊吹山文化資料館	40	体験教室「伊吹まるかじり隊」水生生物の観察	油里川
7	30	土	水土里ネット日野川流域	40	日野川流域探検隊「田んぼや河川のプランクトン」	竜王町アグリパーク、竜王南部浄化池
7	30	土	ふるさとを守る会、木川若草子供会	20	お魚観察会	草津市木川長山寺川
7	31	日	公益社団法人日本国際民間協力会(NICCO)	30	NICCOふゆみずたんぼ生き物観察会「母親教室講師」	山之上ふゆみずたんぼ・アグリパーク竜王
7	31	日	公益社団法人日本国際民間協力会(NICCO)	30	NICCOふゆみずたんぼ生き物観察会「竜王内の不耕起冬期湛水田」	竜王町岡屋および山之上ふゆみずたんぼ
8	1	月	NPO法人シニア自然大学校	65	淡水魚(採取と同定)	大津市黒津(大戸川河川敷)
8	2	火	NPO法人シニア自然大学校	65	淡水魚(採取と同定)	大津市黒津(大戸川河川敷)
8	4	木	NPO法人シニア自然大学校	65	淡水魚(採取と同定)	大津市黒津(大戸川河川敷)
8	4	木	快適環境づくりをすすめる	40	川の生きもの観察会	犬上川南青柳橋
8	6	土	竜法師農地・水・環境を守る	30	川の生き物観察	甲賀市杉谷川
8	8	月	草津市市民環境部環境課	20	叔母川探検～川の生き物観察	草津市叔母川
8	12	金	大津プリンスホテル	40	琵琶湖のお話とヨシ笛作り体験「琵琶湖の環境・水鳥」	大津市プリンスホテル
8	25	木	立入が丘児童クラブ「あめんぼ」	30	身近な川の魚を調べてみよう	守山市立入町
9	11	日	ぼてじゃこトラスト	41	ぼてじゃこワンプク塾「雑魚&外来魚釣り大会」	ウォーターステーション琵琶
9	14	水	滋賀県農政水産部	10	豊かな生きものを育む水田に関する生きもの観察会	竜王町山之上集落
9	18	日	彦根城博物館	30	景観からみる肥田	肥田町公民館
9	30	土	多賀町役場企画課	550	第23回「星空の街・あおぞらの街」全国大会 in 多賀	多賀町立多賀中学校
10	1	日	多賀町役場企画課	550	第23回「星空の街・あおぞらの街」全国大会 in 多賀	多賀町立多賀中学校
10	3	月	ホテルの学校	30	川の中の生きものしらべ	大津市南郷市民センター
10	8	土	草津市環境課	21	アカトンボのを見つけ方見分け方	草津市ロクハ公園
10	15	土	おおつ環境フォーラム	20	おおつ市民環境塾11「外来魚を食べよう！」	大津市環境学習情報室
10	16	日	ぼてじゃこトラスト	40	ぼてじゃこワンプク塾「ぼてじゃこビオトープ池整備作業&サツマイモ掘り」	大津市瀬田3丁目ぼてじゃこビオトープ

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
10	22	土	志賀ブロック青少年育成学区民会議	150	チカラをあわせて地びき網	北小松水泳場
11	13	土	生物多様性保全ネットワーク新潟ほか	30	新潟県上越地域外来魚問題シンポジウム基調講演「トキだけじゃない、身近な宝物～地域の生物多様性を守る」	大池いこいの森ビジターセンター
11	17	木	一般社団法人比良里山クラブ	250	大津市立志賀中学校1年生環境学習「古民家や農具の解説、指導」	大津市南比良
11	23	祝	日本国際民間協力会	10	ふゆみずたんぼ生き物観察会	蒲生郡竜王町山之上
11	24	木	大津市子育て総合支援センター	40	自然探検、自然あそび	大津市小関町
12	4	日	竹町しぜんを守る会	5	ゆりかご水路講演	近江八幡市
12	4	日	NPO 法人瀬田川リパブレ隊	50	湖上セミナー「かつての琵琶湖、いまの琵琶湖」	琵琶湖上（観光船一番丸）・琵琶湖博物館
12	8	木	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター	50	博物館館長研修「住民が参画する博物館」	東京上野社会教育実習研究センター
1	8	日	京都学園大学バイオ環境学部	80	たんぼの生き物から地域環境を考える	京都学園大学バイオ環境館
1	16	月	酪農学園大学大学院	250	環境共生学概論「外来生物問題と生物多様性」	酪農学園大学
1	17	火	酪農学園大学（2回生）	100	動物生態学「外来生物問題の考え方～在来の生物多様性の大切さ」	酪農学園大学
2	5	日	草津市市民環境部	31	琵琶湖一斉水鳥調査	からすま半島
2	23	木	滋賀県立大学 BASSER'S	42	勉強会講義「全国の事例を基にした外来魚事情および学生団体の今後のあり方」	滋賀県立大学
2	24	金	大津市立逢坂小学校	10	エコスクール活動について	逢坂小学校
2	29	水	みずすまし専門部会（生態系保全部会）	16	ほ場整備された水田地帯の魚類再生について	県庁
3	10	土	京都大学	500	はしかけ「近江はたおり探検隊」「近江昔くらし倶楽部」の活動紹介	京都大学百年時計台記念館
3	11	日	NPO 法人子どもと川とまちのフォーラム	65	子どもと大人の寄りあい会議	百万遍知恩寺院内「瑞林院」
3	15	木	滋賀県湖北観光連盟	50	早崎ビオトープに生息する水棲生物の生態について解説	早崎ビオトープ、早崎公民館
3	24	土	草津市環境課	13	冬の水鳥調査座談会	草津市役所

### (3) 質問コーナー・フロアトーク

当館では“学芸員の顔が見える博物館”を目指している。その一環として情報センターの一角に「質問コーナー」を設置し、学芸職員が日替わりで担当し質問を受け付けるとともに、当日の来館者に展示室での「フロアトーク」を実施している。館長も、月一回程度、質問コーナーを担当している。当コーナーでは、利用者が自分で調べることを応援することに重点をおいている。質問には、その日の担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等の場合は、それぞれ専門の学芸員に回答を依頼した

り、後日、回答したりすることもある。また、電話等による相談にも応じている。受け付けた質問の件数および内訳は別表の通りである。

当コーナーでは、図書室入り口の壁に、担当学芸職員の予定を掲示している。担当者の予定を示すことにより、専門分野の担当者がある日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。

#### 質問コーナーにおける質問内容

期間	2011年4月1日～2012年3月31日	
総質問数	836 件	
質問形態	来訪による質問	649 件
	電話での質問	187 件
対応方法	担当学芸職員が対応	647 件
	専門学芸職員（または外部）に依頼	165 件
	その他	24 件

#### 滋賀県ミュージアム活性化推進事業

文化庁の助成事業である、平成 23 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業の助成を受け、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、博物館および文化財を観光資源として活用するため、観光関係機関に対する積極的な働きかけを行うことを目的として、以下の事業を実施した。

##### (1) 淡海まるごと博物館 地域だれでもどこでも博物館

(大型ショッピングモール等での出前博物館) の開催

不特定多数の人たちが集まる場所で、琵琶湖博物館、安土城考古博物館、滋賀県水産課が所蔵する資料を持ち寄り、琵琶湖と共生をテーマとした出前展示を行うとともに、両館の学芸員および展示交流員が展示品の説明や、展示品をとおしての交流活動を行った。

①期日 2012年2月15日(水)～19日(日)まで

場所 イオンモール草津

②期日 2012年3月14日(水)～25日(日)まで

場所 ビバシティ彦根

##### (2) 連携講座「琵琶湖 自然と文化」の開催

琵琶湖博物館と安土城考古博物館の学芸員および招聘講演者により、自然、環境、生活文化、歴史などを織り交ぜたコラボレーション講座を開催した。

###### 第1回「魚と人」

会場 安土城考古博物館

開催日 2011年12月25日(日)

講演 「漁師が見た琵琶湖と魚」 松沢松治 (びわ湖の水と地域の環境を守る会代表)

「琵琶湖の魚介類」 松田征也 (琵琶湖博物館総括学芸員)

「喰って獲る琵琶湖の魚」 大沼芳幸 (安土城考古博物館副館長兼学芸課長)

参加者 140名

###### 第2回「太古の人と動物が来た道」

会場 琵琶湖博物館

開催日 1012年1月21日(土)  
講演 「人類の来た道」海部陽介(国立科学博物館研究主幹)  
「マンモスとマンモスハンター」高橋啓一(琵琶湖博物館上席総括学芸員)  
「琵琶湖の周りにヒトが棲む」鈴木康二(安土城考古博物館学芸課主任)  
参加者 140名

### (3) 体験学習の連携開催

次世代を担う子どもたちを対象として、自然素材を使い、自らの力で「もの」を作り出す喜びを通して、人間が自然と共にある存在であることを伝えた。これまで、琵琶湖博物館と安土城考古博物館の両館が培ってきた体験学習メニューを相互に提供しあいその効果を高めた。

<開催状況>

琵琶湖博物館・・・・・・・・・・2回  
安土城考古博物館・・・・・・・・・・26回

### (4) 琵琶湖体験クルーズ「歴史体験クルーズ2011 琵琶湖の漁業1万年の歴史に挑戦！」の開催

親子を対象に、琵琶湖の自然と文化を学ぶ目的で、浜大津から沖島に向かう汽船の中では琵琶湖博物館と安土城考古博物館の学芸員から、琵琶湖のプランクトンや魚の話、そして湖魚と人との関係について学習した。沖島上陸後は、沖島の文化を学ぶと共に地曳網漁を体験した。

開催日 2012年8月11日(木)  
2012年8月18日(木)  
場 所 大津市浜大津から近江八幡市沖島までを周遊  
参加者 120名

## 琵琶湖博物館環境学習センター(担当:前畑政善、加藤 理、池田 勝)

### (1) 環境学習に関する相談対応、情報提供

自治会や子ども会などの地域団体や学校、企業や市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の活動の場づくりを応援した。

#### ①環境学習に関する相談対応等

相談件数 220件 教材貸出件数 133件

#### ②環境学習情報のホームページ「エコロレーが」の運用

アクセス数 185,908件

#### ③環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 計20回 登録者数 555人

#### ④ブース出展

7/23, 24 「第4回水辺の匠交流会」 参加者延593名 於:ウォーターステーション琵琶

2/4 「第11回草津市こども環境会議」 74団体、約500名参加 於:草津市役所

8/5 「学校支援メニューフェア」 72団体、約100名参加 於:ピアザ淡海

1/28 「第3回こなん水環境フォーラム」 34団体、152名参加

於:栗東市コミュニティセンター大宝東

## (2) 環境学習の交流の場づくり

### ①環境・ほっと・カフェ

地域団体等と協力して、環境活動を促進していくための活動交流会の場を設けた。

- ・2/4 水と自然を考えるこだわりの酒づくり体験交流会 参加者 20 名 於：岡村本家(豊郷町)
- ・3/20 越前大野の湧水文化再生計画に学ぶ環境まちづくり 参加者 34 名 於：福井県大野市

### ②環境と科学のフェスティバル

県内の自然系博物館等と共同して、体験・工作・観察コーナー、展示などを開催し、環境や自然科学について関心を高める機会を設けた。

- ・8/21 「博物館による環境と科学のフェスティバル」 参加者 750 名 於：ビバシティ彦根

### ③こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。(県内会員数 154 クラブ 計 6,255 人)

- ・12/4 「淡海こどもエコクラブ活動交流会」 9 クラブ、106 名参加 於：琵琶湖博物館
- ・3/25 「こどもエコクラブ全国フェスティバル 2012」 滋賀県代表 山内エコクラブ参加  
於：早稲田大学(東京)



環境と科学のフェスティバル 「お魚コーナー」



環境ほっとカフェ 「水と自然を考えるこだわりの酒づくり体験」

## あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！

博物館開館 15 周年、はしかけ制度制定 10 周年、および「びわ湖の日」制定 30 周年の記念に合わせて、博物館の展示や様々な体験交流プログラム等を通じて、身近な自然や自分達の暮らしについて感じ考える機会を多くの方に持ってもらうと、朝から晩まで開館し 35 プログラムの交流イベントを実施しました。

はしかけグループの方、フィールドレポーターの方、地域団体の方、外国人学校の方など、様々な人達の活動のご協力があって 3 日間で延べ 2 万人を超える方が来館されました。

	来館者数	時間帯別		階層別			
		～17時	17時～	未就学	小中	高大	一般
7/1 (金)	3,182 人 (14.2%)	1,600 人 50.2%	1,582 人 49.7%	674 人 21.1%	661 人 20.7%	31 人 0.9%	1,816 人 57.0%
7/2 (土)	7,809 人 (34.9%)	5,500 人 70.4%	2,309 人 29.5%	1,550 人 19.8%	1,650 人 21.1%	23 人 0.2%	4,586 人 58.7%
7/3 (日)	11,383 人 (50.8%)	10,054 人 88.3%	1,329 人 11.6%	2,053 人 18.0%	2,839 人 24.9%	75 人 0.6%	6,416 人 56.3%
計	22,374 人 (100%)	17,154 人 76.6%	5,220 人 23.3%	4,277 人 19.1%	5,150 人 23.0%	129 人 0.5%	12,818 人 57.2%





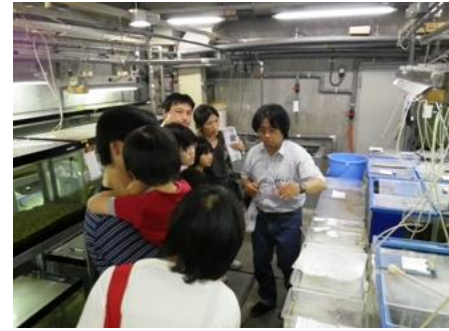
エフエム公開生放送後のコンサート



交流オープンハウス 紙芝居・合唱（湖をつなぐ会）



イブニングコンサート（音楽劇団てんでこ他）



水族展示バックヤードツアー



夜間の水族展示（ピロコオオナマズ）



交流オープンハウス クマの骨格標本づくり

実施プログラム

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
7/1 (金)	エフエム滋賀 RS360 公開生放送	14:00～19:00	琵琶湖博物館 15周年を記念して、テーマ「私の15年」で募集したリクエスト曲とエピソードを博物館内から生放送。 パーソナリティ：仙石幸一、碓井豊	アトリウム	エフエム滋賀
	生ライブ	19:05～19:45	アーティスト：碓井豊、佐合井マリ子、MC：仙石幸一 夕暮れをみながらお二人のしっとりとした歌声を活かしたアコースティックコンサート	アトリウム	エフエム滋賀
	光の限界に挑戦！～珪藻の殻を観察してみよう～	9:30～17:00	珪藻の顕微鏡写真撮影などの活動体験	交流室2	たんさいぼうの会
	富江家のくらし案内ツアー	14:00～14:20	S. 39. 5. 10 彦根市本庄町の富江家のくらしについて紹介	C展示室	近江昔くらし倶楽部

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
7/2 (土)	イブニングコンサート	17:30～19:30	①サンバ(ブラジル人学校コレジオサンターナの子ども達)、 ②リコーダー演奏(迫田浩一)、 ③混声アカペラ合唱 (WANNA-BE!)、④木管楽器・ 民族楽器・木彫彫刻を活かした 即興セッション(音景色ワーク ショップ)、⑤竹筒を使ったコ ンチク合奏(音楽劇団てんて こ、ほか)	アトリウム	
	みんなでクマの骨を組み立てよう	①10:00～12:00 ②13:00～15:00	クマの骨格標本を、一般来館者の方と一緒に組み立て、7/2-3の2日間で完成させます		ほねほねくらぶ
	紙芝居「びわこの旅」	①11:00～11:30 ②13:00～13:30 ③14:00～14:30	紙芝居「びわこの旅」上演、「生きている琵琶湖」の合唱、ヨシ笛演奏	会議室	湖をつなぐ会
	投網の投げ方教えます	15:00～16:00	魚の切り抜きを投網でつかまえてみましょう	受付：会議室	うおの会
	光の限界に挑戦！～珪藻の殻を観察してみよう～	9:30～12:00	珪藻の顕微鏡写真撮影などの活動体験	交流室2	たんさいぼうの会
	身近な水の水質は？	9:30～12:00	琵琶湖の北湖、南湖、湖西の湧き水、比良川の水の硬さ、COD, Ph, 電気伝導度を簡易調査	実習室2	淡海湧き水の会
	新 めがせ珪藻マスター ～珪藻ゲットだぜ～	13:00～17:00	数十種の珪藻の種ごとに分けきればカードがもらえる	実習室2	たんさいぼうの会
	葉っぱで遊ぼう	①10:00～11:30 ②15:30～16:30	いろんな葉っぱを使って、もののかたちを作って遊ぼう	実習室1	フィールドレポーター
	田んぼのエビ類を観察しよう	13:00～15:30	テレビカメラをつけた実体顕微鏡で生きた田んぼのエビ類を見てみよう	実習室1	田んぼの生きもの調査グループ
	光と影で遊ぼう	18:00～21:00	OHPを使用し、小さいきもの・色水・身近な素材・子ども達の描いた絵などを、ホール前の壁や天井に映し出し、光と影に親しむプログラム	ホール前	ザ！ディスカバはしかけ
	水族展示バックヤード・ミニ探検ツアー	13:00～15:00	ふだん見られない水族展示のバックヤードを案内(所要時間約20分間)	水族展示	
	富江家のくらし案内ツアー	14:00～14:20	S39.5.10 彦根市本庄町の富江家のくらしについて紹介	C展示室	近江昔くらし倶楽部
	藍の生葉染め体験	10:00～12:00	琵琶湖博物館の畑で収穫した藍の生葉を使用して染色	生活実験工房	近江はたおり探検隊
	土のペンダントづくり	①13:00～13:40 ②14:00～4:40	陶芸用の土を使ってペンダントの作成	生活実験工房	里山の会
	ハンモックでお昼寝	①15:00～15:50 ②16:00～16:50	森の中に簡易ハンモックを吊ってお昼寝してみよう	受付：生活実験工房前	里山の会
	ミニ自然観察会	①10:30～11:30 ②13:30～14:30	屋外展示をぶらぶらと歩きながら見られる植物を観察	受付：生活実験工房前	植物観察の会
	夜の昆虫観察会	19:30～21:00	ライトトラップを仕掛けて、夜に集まってくる昆虫を観察	生活実験工房前	



	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
7/3 (日)	イブニングコンサート	17:30～19:30	①創作狂言「鈴鹿の子てんぐ」(山内エコクラブ)、②創作落語「藻刈り船」(九冊帰帆)、③南米ジャズバンド(ザ海千山千ズ)、④アコースティックライブ(YeYe 橋口なつ子、Sm ch), MC 大角香里	アトリウム	エフエム滋賀
	みんなでクマの骨を組み立てよう	①10:00～12:00 ②13:00～15:00	クマの骨格標本を、一般来館者の方と一緒に組み立て、7/2-3の2日間で完成させます	アトリウム	ほねほねくらぶ
	くるくる☆カラフル たねとばし	13:30～15:00	種の話聞いて、飛ぶ種を作ってみます。手を挙げた高さから落としてみて、どんなふうか飛んでいくのか見てみましょう	受付場所：会議室	びわたん
	投網の投げ方教えます	15:00～16:00	魚の切り抜きを投網でつかまえてみましょう	受付：会議室	うおの会
	くるりん☆かざぐるま	13:30～15:00	琵琶湖博物館にちなんだデザインの折り紙を使用して、かざぐるまを作ります	交流室2	ザ! ディスカバはしかけ
	琵琶湖の模型をつくろう	①10:00～11:00 ②13:30～17:00	琵琶湖の湖底の話聞き、プラスチック粘土を使って琵琶湖の立体模型を作ります	実習室2	びわたん
	新 めざせ珪藻マスター ～珪藻ゲットだぜ～	13:00～17:00	数十種の珪藻の種ごとに分けきればカードがもらえる。全ステップ制覇すれば「珪藻マスターバッジ」がもらえます	実習室1	たんさいぼうの会
	こどもエコ発表会	14:30～16:00	県内9小学校の子ども達による環境活動の発表会	ホール	日本青年会議所 滋賀ブロック協議会
	富江家のくらし案内ツアー	14:00～14:20	S39.5.10 彦根市本庄町の富江家のくらしについて紹介	C展示室	近江昔くらし倶楽部
	からすま半島音景色ワークショップ	13:30～16:00	耳をすまして音を聴き、そこにひろがる音の景色を感じて皆さんはどんな素敵な風景を描かれるのでしょうか。 13:00- イントロ、楽器を使った音遊び 14:00- 音探検ツアー(からすま半島巡り) 15:00- 音景色の制作・発表会	受付：生活実 験工房前	音景色ワークショップ
	星空観察会	19:30～21:00	土星がオレンジ色に明るく見える季節です。望遠鏡で見ると小さくてもリンクがはっきり分かります。宇宙について知りたいことがあればスタッフがやさしくお答えします	UNEP 国際環境技術センター前の駐車場	ダイニックアストロパーク天究館友の会

## 情報発信活動

### (1) 通信網を利用した館外への情報提供

来館者や遠隔地の利用者に対する電子的な情報提供手段については、開館以前から種々実践しながら検討を進めてきたが、2004年度までにwww（いわゆる「ホームページ」）を利用したシステムに一本化された。このシステムでは、インターネットを経由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を利用したり、博物館資料のデータベースや各種の学術情報を検索利用することができる。実際の運用は、データベースや電子交流システムなどの利用者からの反応に応じて異なる情報を提供する「動的サーバ」と、それ以外の一般的な情報を提供する「静的サーバ」の2台で分担しており、アクセス状況に関する統計も独立に計上されている。2011年度における各サーバのアクセス件数は下表のとおりであった。

インターネットページ（静的サーバ）へのアクセス件数

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
4月	1,774,977	263,430	69,379	16,509	9,869
5月	2,904,886	382,245	96,974	19,700	12,014
6月	2,227,760	306,442	80,119	17,923	10,976
7月	2,733,000	323,505	89,393	25,618	15,584
8月	3,125,850	358,388	94,720	27,506	16,642
9月	2,067,662	274,818	76,310	18,813	11,578
10月	1,886,268	253,334	77,151	15,249	9,198
11月	1,875,198	227,033	66,543	14,156	8,714
12月	1,242,884	179,338	52,844	11,245	6,486
1月	1,481,684	185,390	55,606	13,321	7,635
2月	1,891,957	221,261	56,191	14,540	8,375
3月	1,742,247	213,486	57,209	17,182	10,950
合計	24,954,373	3,188,670	872,439	211,762	128,021

総ヒット数：サーバに対するすべての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）

各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる

ページヒット数：「総ヒット数」のうち、各ページの定義ファイルに対する要求の件数

連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは

合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）

表紙アクセス：「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセスの件数

（「表紙から入った」と「表紙へ戻った」との合計）

表紙開始アクセス：「表紙アクセス」のうち、最初にウェルカムページにアクセスした件数

「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件しか計数されない

インターネットページ（動的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	488	631	521	2,969	920	742	657	481	786	656	845	829	10,525
絞込検索回数	265	282	114	354	539	591	330	114	118	190	1,013	156	4,066
データ閲覧件数	9,383	15,802	98,035	239,752	6,546	6,285	6,502	2,529	4,099	5,236	8,801	7,723	410,693

セッション：サーバ側が絞込検索を実現するため認識している「同一ユーザーにより連続した」アクセスの集合

\*博物館内部からのアクセスは計数していない

### 《インターネットページの更新》

当館のwwwページは、2002年度、2005年度、2008年度の3回にわたり、情報提供の目的となる本来の情報は保持しながらリンク（目的の情報へ行き着くための誘導情報）の構造を見直して、「広報媒体」としての

機能を強化する大規模更新を行ってきた。今年度はこれらの成果を踏まえた内容の更新を継続するとともに、昨年度に引き続き一部情報の組み直しを行った。具体的には、記録として重要という理由で残している「過去のイベント等に関する情報」について、従来は実施当時の形態を基本的にそのまま残していたところ、これを過去情報であると判るように再編集・再配置する作業を順次進めた。

なお、昨年度までに引き続き、更新業務のうちレイアウトデザインに関わる部分は、保守管理業務の一部として委託請負業務によって実施した。即ち、発信情報の内容に責任を負う担当者が完全な内容を揃え、それを委託業者に引き渡してレイアウトデザインを完成させ、館内からのみ閲覧できるテストサーバで担当者が確認したうえで公開するという方法を原則とした。緊急を要する事例に関しては、情報発信全体の統括を担当する学芸員がレイアウトデザインに影響しない範囲で直接更新することとしたが、この方法を実際に実施したのは年間十数例程度である。一部事業で事業担当者が忙殺されて必要な発信情報が必要な時期に間に合うように提供されない。

## (2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス

博物館側からの一方的な情報発信だけでなく、来館者や遠隔地の人からの情報を受ける活動も含めた双方向の情報交換を実現するためのサービスを、電子メールを利用して展開している。

開館以来、質問、感想、要望などを受け付ける専用の電子メールアドレス (query@lbn.go.jp) を設け、受付担当者が受け付けた電子メールを内容に応じて専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを行っている。2011年度は全部で106件 (ウィルスメール・スパムメール・定期的な情報提供を除く) のメールがあり、その内容は以下のようなものであった。琵琶湖博物館の特徴として魚などの水生生物に関する質問が多く、歴史・民俗に関する質問が少ない。

専門的内容を含む質問 (展示内容に直接関係するものを除く)	67
地学、古生物(5)・魚類、水族(26)・植物(10) その他生物(17)・歴史、民俗(6) 環境、人と自然の関わり(3)	
施設利用・行事などの問い合わせや依頼	7
報掲載依頼 (リンク許可・サイト登録を含む)	1
資料の提供・利用、収蔵資料、展示資料についての問い合わせ	12
館の運営についての意見	1
館の運営についての問い合わせや依頼	10
館の案内資料の請求	2
博物館に関する企画・設備等の売り込み	6
合 計	106

回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。  
 担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。  
 具体的には、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。  
 photo@lbn.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ・要望・情報提供  
 db-admin@lbn.go.jp データベースに関する連絡  
 dantai@lbn.go.jp 団体利用に関する問い合わせ・打ち合わせ  
 chiiki\_renkei@lbn.go.jp 地域連携活動に関する問い合わせ・打ち合わせ  
 meteo@lbn.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡  
 jisshu@lbn.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ  
 hashi-adm@lbn.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ  
 press@lbn.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先  
 souzou@lbn.go.jp 新琵琶湖学セミナー参加申込先  
 nakumushi@lbn.go.jp ギャラリー展「鳴く虫」関連投句受付

## (3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
研究調査報告書第 27 号	A4	194	800
琵琶博だより 5号	A4		10,000
琵琶博だより 6号	A4		10,000
琵琶博だより 7号	A4		10,000
琵琶博だより 8号	A4		10,000
企画展示「こまった！カワウ」展示解説書	B5	63	2,000
企画展示「こまった！カワウ」ポスター	A1		1,000
企画展示「こまった！カワウ」チラシ	A4		60,000
企画展示「こまった！カワウ」シンポジウムチラシ	A4		2,000
ギャラリー展示「民具を科学する」ポスター	A2		500
ギャラリー展示「民具を科学する」チラシ	A4		20,000
ギャラリー展示鉱物化石展 1012「湖国の大地に夢を掘る」チラシ	A4		15,000
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ 23 年度後期	A4		10,000
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ 24 年度前期	A4		10,000
「あさ、ひる、ばん 博物館をたのしもう！」チラシ	A4		168,000
「あさ、ひる、ばん 博物館をたのしもう！」当日案内資料	A5		8,000
「あさ、ひる、ばん 博物館をたのしもう！」当日案内資料	A4		500
広報用「琵琶湖&川の魚」カレンダーポスター	A1		2,500
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ	A4		250,000
琵琶湖博物館要覧	A4	37	500

## Ⅱ 環境の整備

### 1 拠点としての施設整備

#### (1) 利用者用施設の整備

展示室スポットライトのLED照明化を行い、省電力・低炭素化対策を行った。また、中央監視制御装置や、駐車場料金精算システムの更新を行った。

#### (2) 情報システムの整備

2011年度は以下のような更新、追加整備等を行った。

##### 1) 機器の更新

館内の情報機器の多くは5年間のリース契約により配備されているが、リース機器の更新を行わないという県の方針が継続されているため、その対策としてリースを終了した機器を返却廃棄せず、継続使用することにした。

##### 2) ソフトウェアの追加開発

予算が確保されなかったため、ソフトウェアの追加開発を実施しなかった。

##### 3) セキュリティ強化のための措置

情報システムのセキュリティを確保するため、セキュリティ対策のための各種ソフトウェアについて、最新の情勢に応じたバージョンアップを継続的に行った。特に、各端末機器段階での対策ソフトウェアについては、サーバで集中管理する態勢をとっていたが、メーカーが対策情報更新サービスの停止を予告したため、年末年始の休館時期を利用して、メーカーが提供する後継製品への無償バージョンアップ作業を実施した。

なお、博物館が自ら運営している情報システムとは別に、業者が館外に設置管理しているサーバを利用して展開している環境学習センターの情報提供サイト「エコロシーガ」に異常が生じていることが、2012年3月27日午前に発見された。調査したところ、前日深夜に不正アクセスの痕跡が認められたため、サービスを停止して、被害状況（影響波及の可能性を含む）の確認と、今後に向けた対策の検討を行っている。確認検討および対策の実施が完了し次第、サービスを再開する予定であるが、2012年度に入ってからになることは確定している。

#### (3) 来館者アンケート調査結果

##### 1) 目的

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の博物館運営や展示の企画、広報活動のあり方などを考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを年3回実施している。

##### 2) 実施時期と方法

アンケートを実施する日程は原則として平日と休日を含んで連続する3日間とし、アンケート用紙は来館者への券売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布し、アンケート協力をお願いをしている。アンケート記入台はアトリウムに1箇所、玄関横に1箇所、計2箇所設置し、券売時に配布したものは別にアンケート用紙を置いている。2011年度の実施内容は以下のとおりである。

第1回 2011年8月26日（金）～28日（日） 回答者数 213名

第2回 2011年11月11日(金)～13日(日) 回答者数 84名  
 第3回 2012年3月19日(土)～21日(月) 回答者数 134名

### 3) 調査内容

来館回数、博物館来館のきっかけ、滞在時間、満足度、および記入者自身のおよその年齢、性別、住居地域は、毎回共通の調査項目となっている。2011年度は基本的に2010年度調査と同じ調査項目で調査を実施した。

### 4) 傾向

3回の調査ともほぼ2010年度と同じ時期(8月、11月、3月の20日前後の金土日)に実施した。

#### ①□リピーター

「はじめて」来館された方は約半数、「4回以上」来られている方は微増している。

#### ②情報源

来館のきっかけとなった情報源は例年と同じく、友人・知人、家族・親戚による口コミが多かった。2010年度と比較して、テレビ、ホームページ、雑誌・本を見ての来館が増え、広報活動の成果が表れている。

#### ③満足度

来館者アンケートの満足度調査(博物館を訪ねて「非常に満足した」と「満足した」をあわせた満足度)で「年3回平均目標値80%」を目標とし達成してきた。2008年度85.2%、2009年度82.1%、2010年度81.2%と減少傾向にあったが、2011年度は84.4%とアップしている。

#### ④不満

例年のように、2011年度も駐車場、交通の便、道路案内、レストラン、昼食場所、休憩場所に対する不満が高い。さまざまに対策を講じてきたがなかなか不満解消への効果をあげていない。博物館リニューアルの中での対応が期待される。

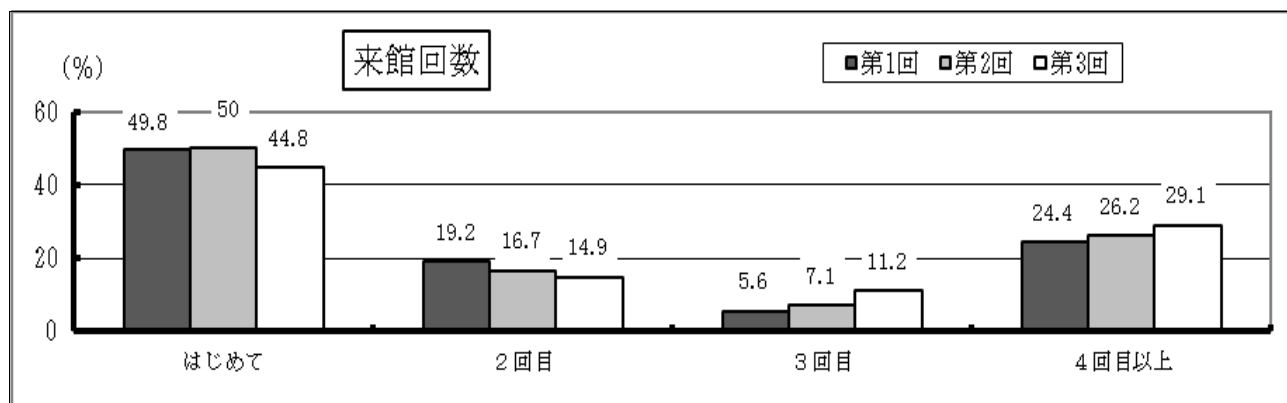
#### ⑤来館目的

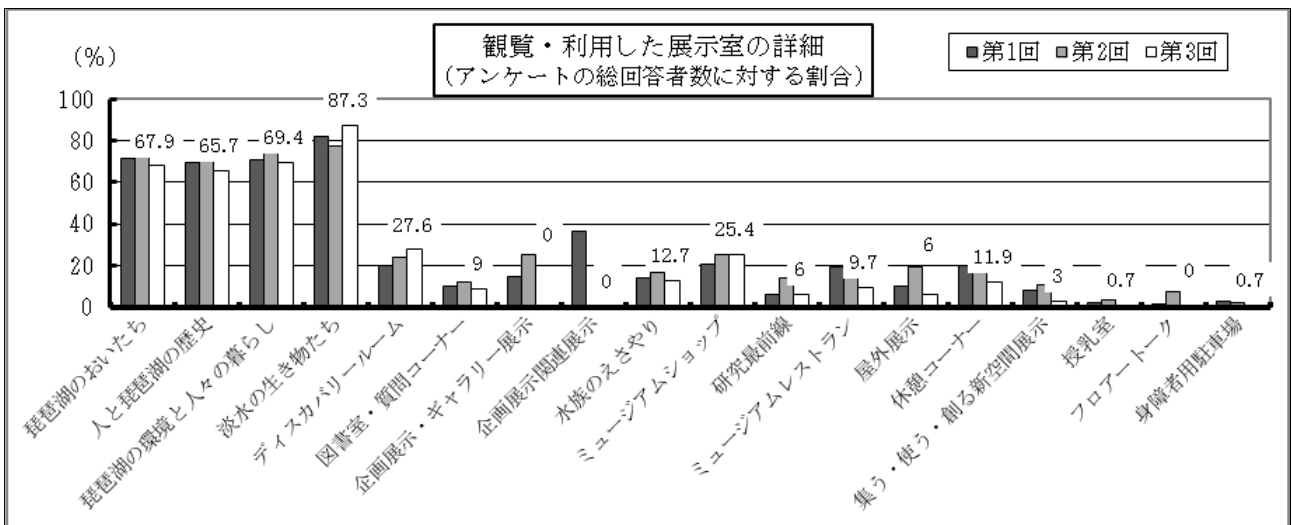
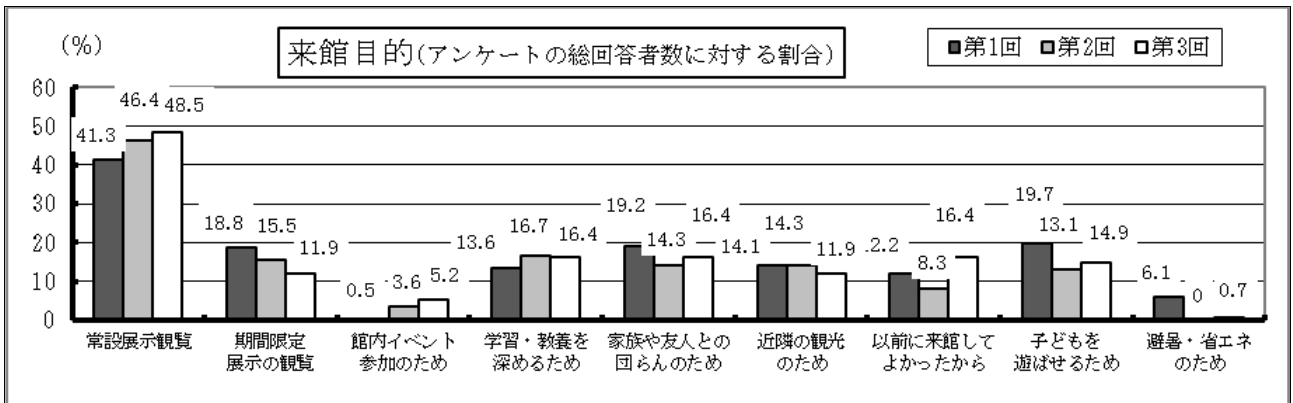
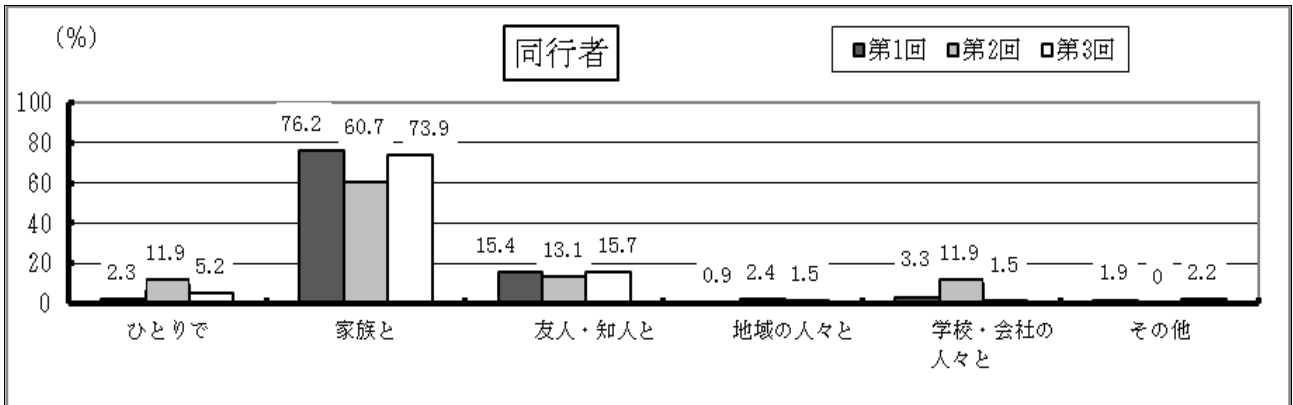
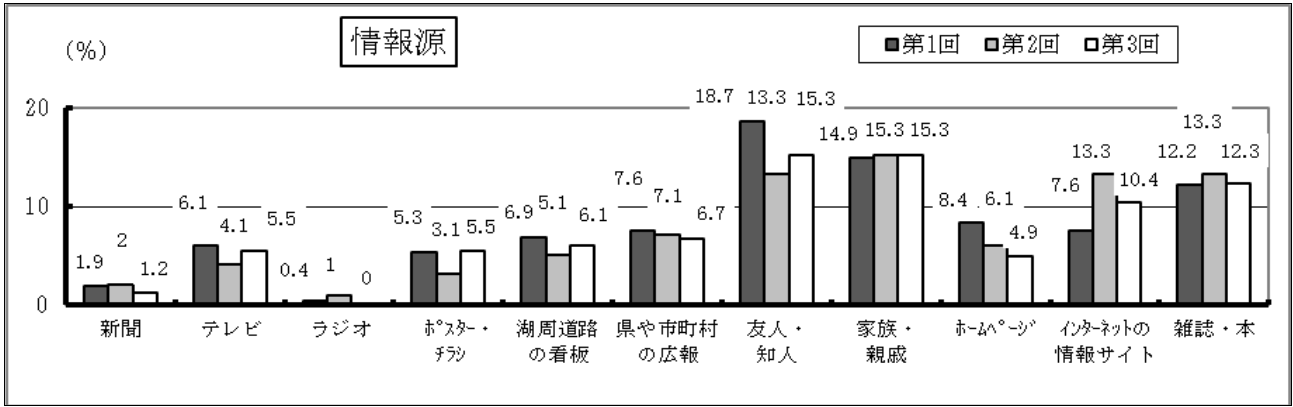
「常設展示観覧」を目的にしている方の比率が高いことが琵琶湖博物館の特徴であるが、2011年度は前年度より高まり、41.3～48.5%であった。また、「期間限定の展示の観覧」が前年度より10%ほど高く、全体として展示観覧を目的とする比率が高い。

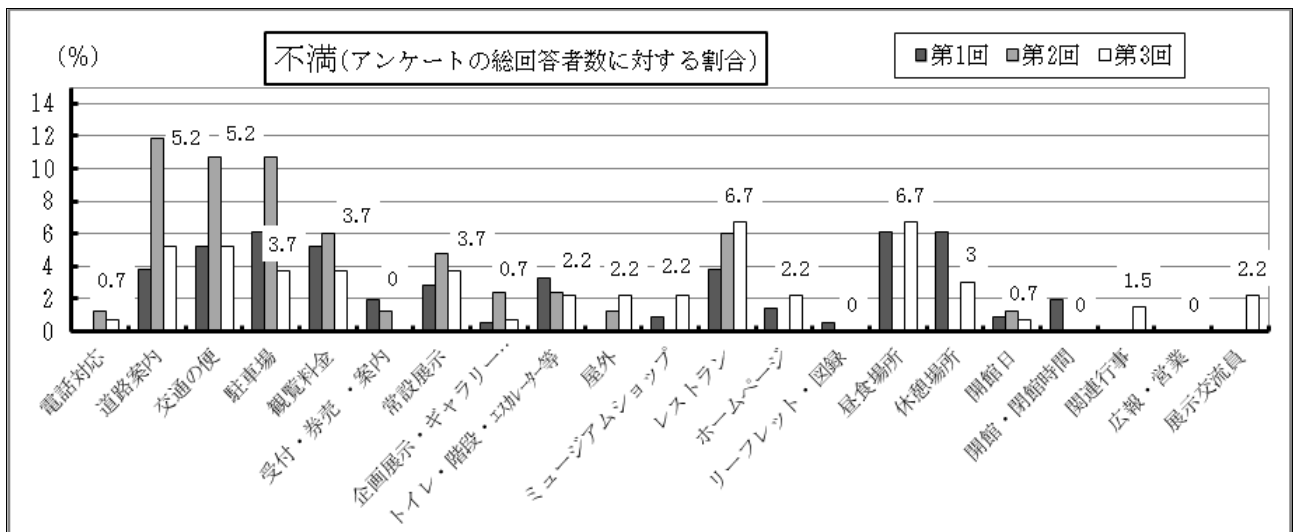
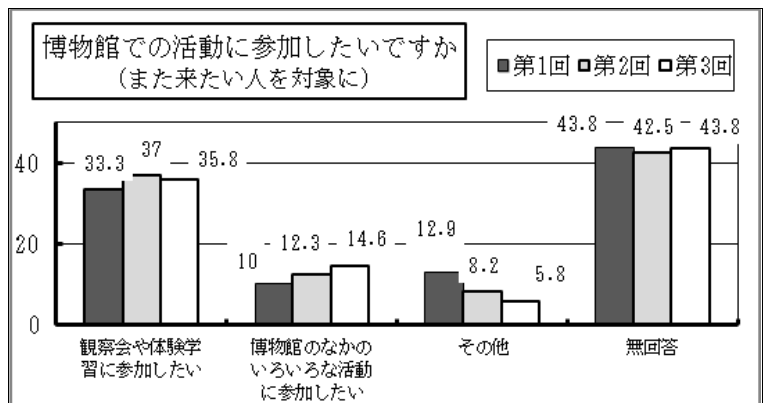
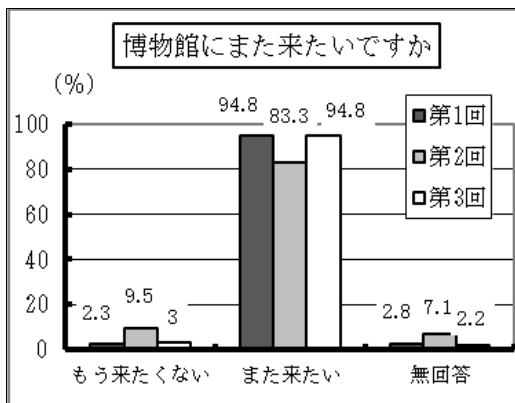
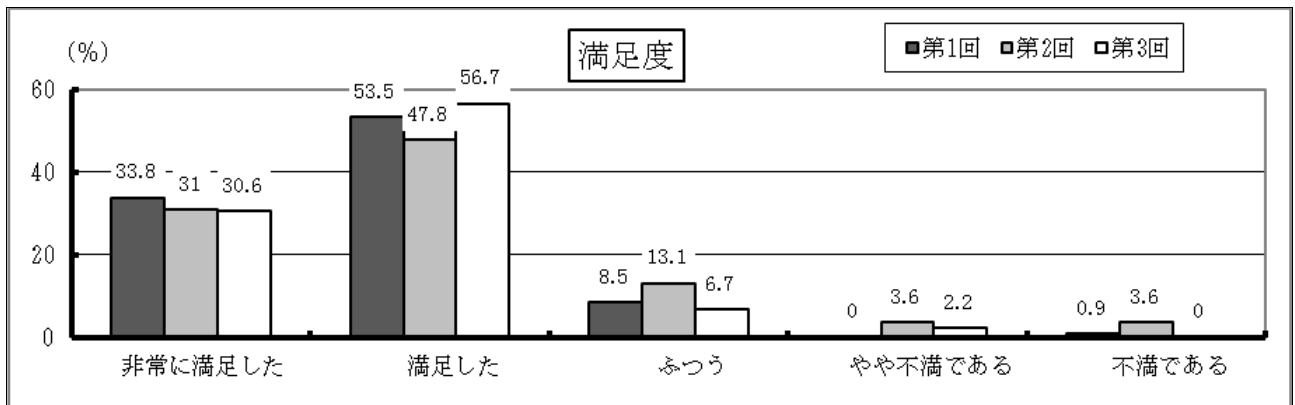
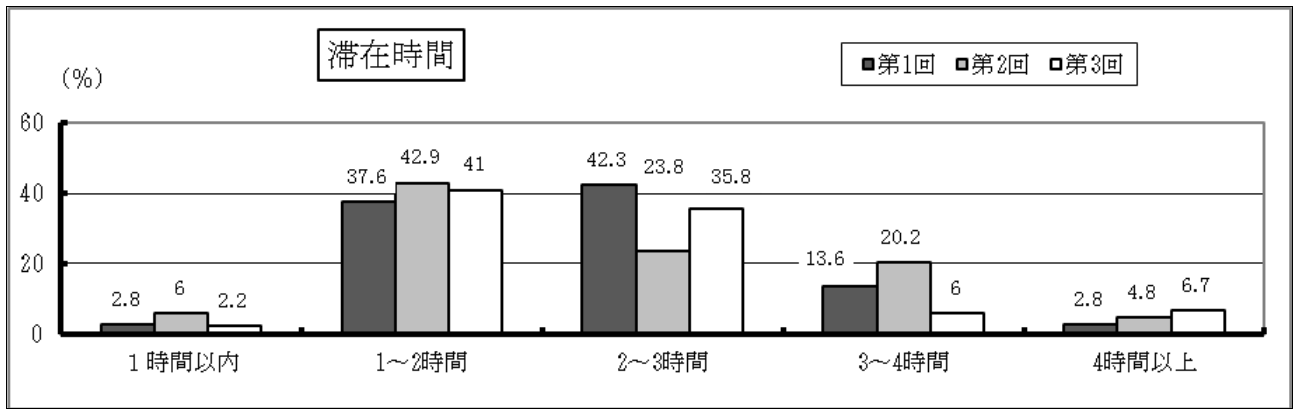
#### ⑤来館者

年齢別では、これまでと同様、30～40歳代が来館者の中心となっている。同行者も年平均70.3%が家族となっており、例年通り、家族・親子での来館が多い結果となっている。

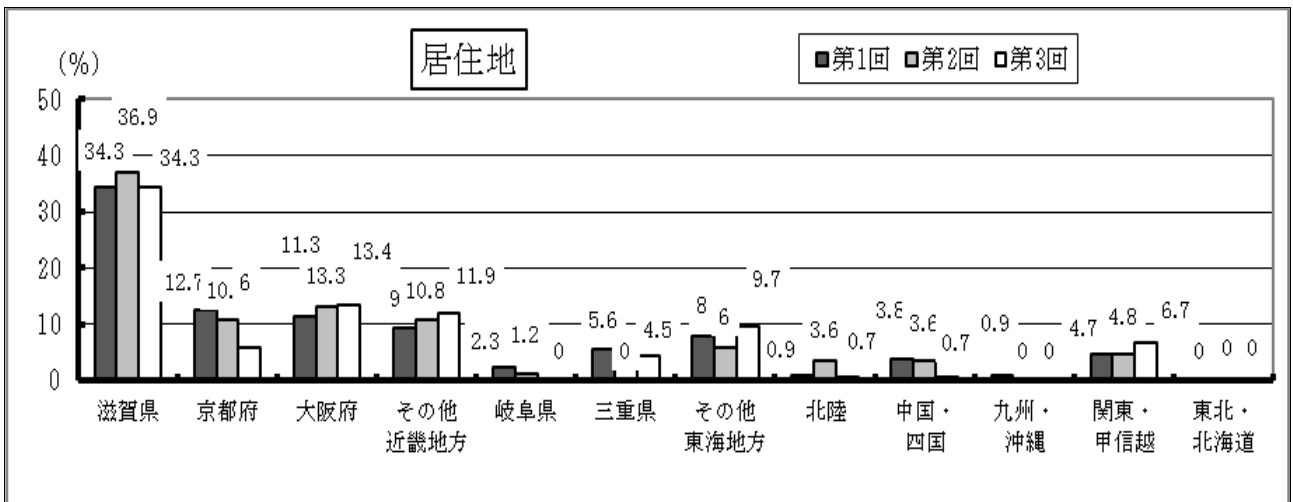
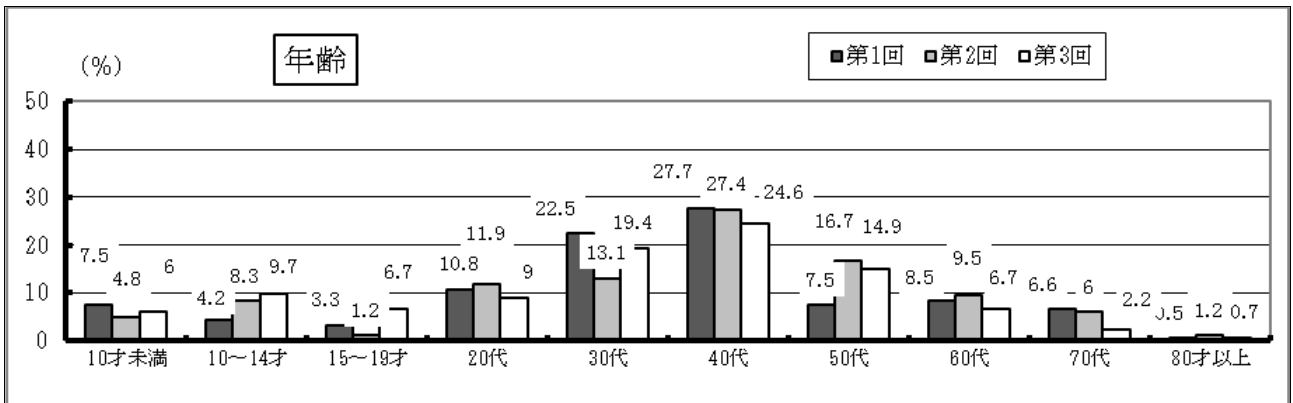
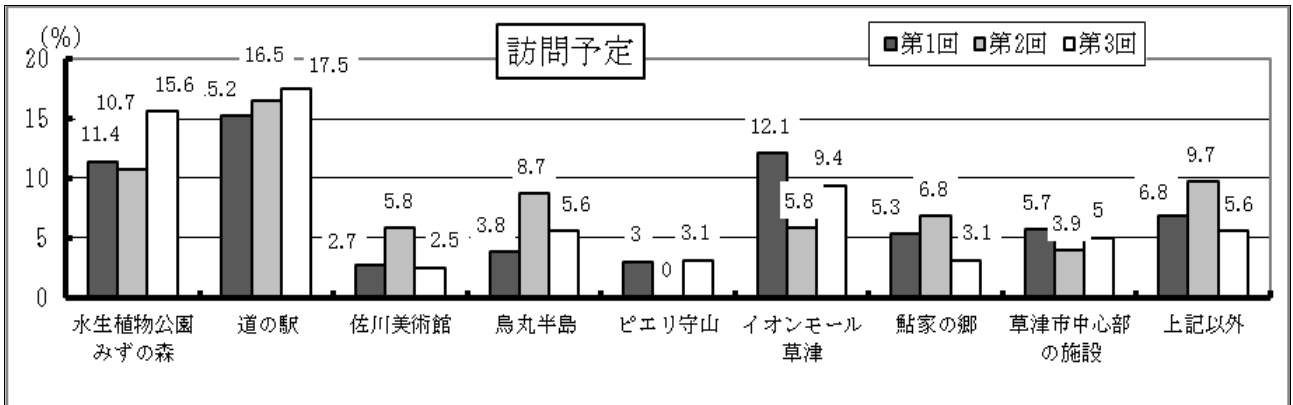
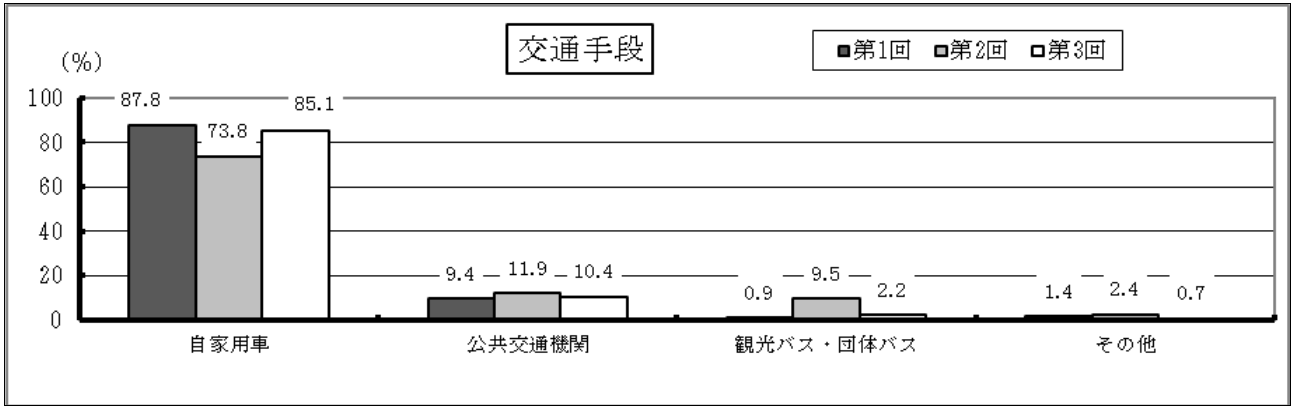
居住地は、3回とも約3分の1が滋賀県内となっており、これも例年通りの傾向である。





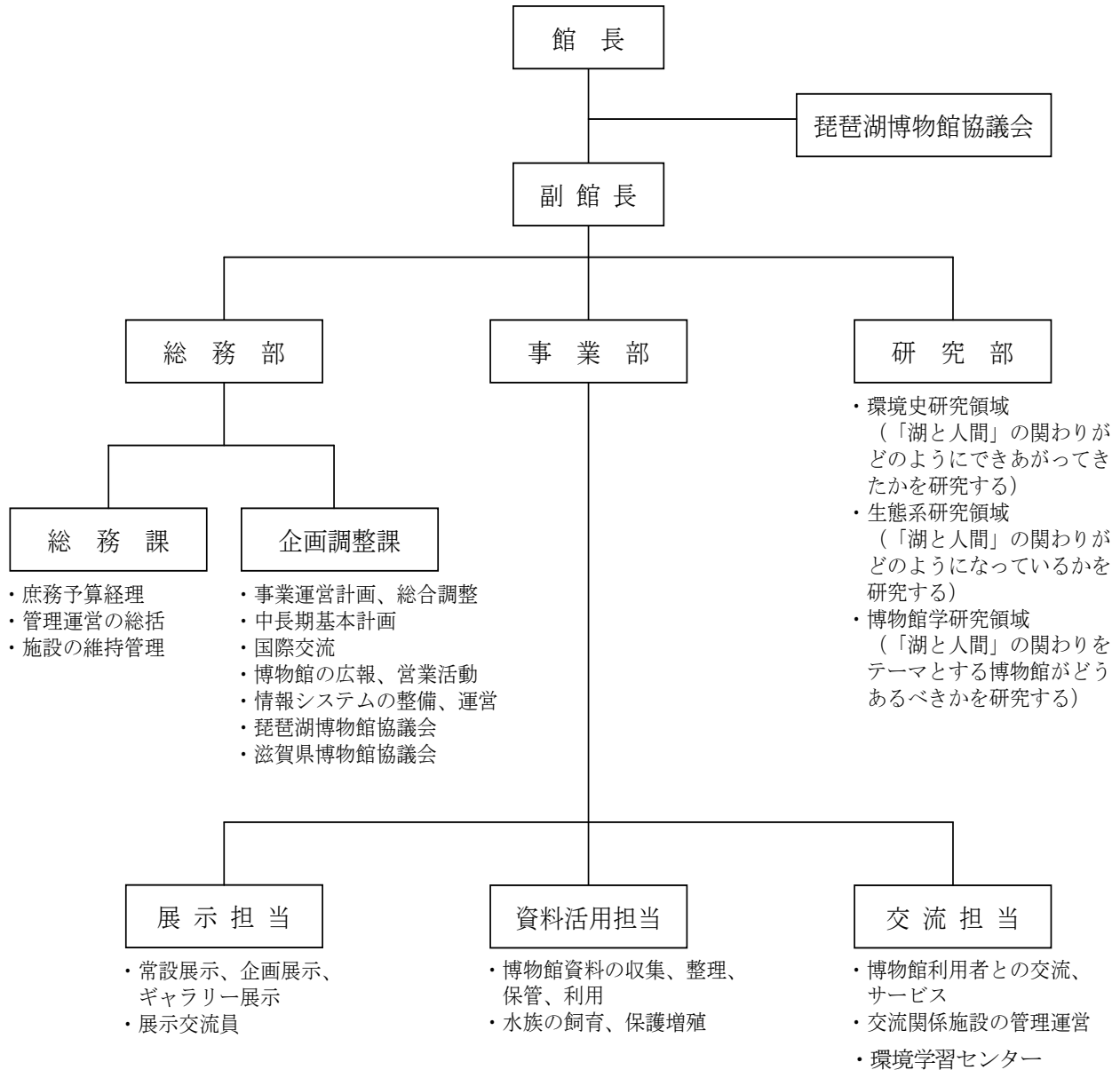






## 2 柔軟な運営組織

### (1) 組織



職員構成 (2011年10月1日現在)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	11	27	2	41	15※	56

※環境学習センター所長を含む

(2) 職員

(2011年10月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 兼房 見喜男
- 上席総括学芸員 用田 政晴
- 上席総括学芸員 高橋 啓一
- 上席総括学芸員 マーク ジョセフ グライガー

総務部

○部長 兼房 見喜男

◇ 総務課

- 課長 村井 洋一
- 課長補佐(兼) 上田 徹
- 副主幹 佐藤 育生
- 同 小島 和久
- 主査 山元 恵子
- 主事 南 祐貴子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 桑原 雅之
- 課長補佐 上田 徹
- (兼) 里口 保文
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 芦谷 美奈子
- (兼) 榊永 一宏

事業部

○部長(兼) 松田 征也

◇ 展示担当

- G.L.(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 秋山 廣光
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 奥村 浩匡
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 菅原 和宏
- (兼) 楊 平

◇ 交流担当

- G.L.(兼) 楠岡 泰
- 主幹 加藤 理
- 主査(併任) 大依 久人
- 主任主事(併任) 藤橋 和弘
- (兼) 寺尾 尚純
- (兼) 碓 登志之
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) 老 文子
- (兼) 澤邊 久美子

◇ 資料活用担当

- G.L.(兼) 山川千代美
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 金尾 滋史

研究部

○部長(兼) 八尋 克郎

◇ 環境史研究担当

- G.L. 専門学芸員 里口 保文
- 同 山川千代美
- 同 草加 伸吾
- 主査 奥村 浩匡
- 主任学芸員 橋本 道範
- 同 宮本 真二
- 学芸員 楊 平
- 同 老 文子

◇ 生態系研究担当

- G.L. 総括学芸員 八尋 克郎
- 同 松田 征也
- 同 桑原 雅之
- 専門員 碓 登志之
- 専門学芸員 亀田佳代子
- 同 芳賀 裕樹
- 同 楠岡 泰
- 同 中井 克樹
- 主任学芸員 芦谷美奈子
- 同 榊永 一宏
- 同 ロビン ジェームス スミス
- 主任技師 菅原 和宏

◇ 博物館学研究担当

- G.L. 主任学芸員 戸田 孝
- 専門員 寺尾 尚純
- 専門学芸員 秋山 廣光
- 同 大塚 泰介
- 主任学芸員 中藤 容子
- 学芸員 金尾 滋史
- 同 澤邊 久美子
- (兼) 大依 久人
- (兼) 藤橋 和弘

注) G.L. はグループリーダー

嘱託員・臨時的任用職員

前畑 政善	環境学習センター所長	吉崎 早苗	歴史民俗資料整理
樋口 文子	館長秘書	上田 康之	実習補助・団体利用受付
山田 陽子	ディスカバリールーム運営	野間 孝男	屋外展示運営
藤岡 千裕	ディスカバリールーム運営	上西 智之	交流事業
寺西 貞夫	広報・集客	夏原 浩子	図書資料整理
高石 清治	展示物の製作・維持補修	池田 勝	環境学習センター運営
井狩 知子	微小生物標本整理	児玉佳代子	交流事業
高橋 和征	昆虫資料標本整理	山本 藤樹	環境学習センター
渡邊 潤子	歴史民俗資料整理(2011.5~)		

特別研究員

柏尾 珠紀	植田 文雄	天野 一葉	川那部浩哉	中島 経夫	布谷 知夫	鈴木 隆仁	中井 大介
朱 偉	北村 美香	中野 正俊	黒岩 啓子	辻川 智代	林 博通	前畑 政善	牧野 厚史

フィールドレポーター・はしかけ登録者(掲載承諾者のみ)

◇フィールドレポーター

青山 喜博	浅井 良英	井野 勝行	遠阪 聡子	大橋 義孝	角井 俊明	勝見 政之	角尾千寿子
椛島 昭紘	小林 隆夫	多胡 好武	津田 國史	中村 公一	西崎嘉代子	平井 政一	古谷 善彦
堀 英輔	松原 孝治	松原 正子	村上 靖昭	森 淳	山川 栄樹	山川 美和	山川 侑夏
山元 祐人	山本 篤	渡辺 克彦	渡辺 秀美	野間 孝男	津田久美子	尾原 直行	藤田 章子
佐橋 保司	斎藤 禎量						

◇はしかけ

青木 豊明	青山 喜博	肥土マサ子	芦田 弘美	東 マチコ	穴蔵 雅彦	荒井 紀子	有田 重彦
栗津 義	飯住 達也	飯田 俊宏	石井 千津	石井 利和	石井 正臣	石川 雅量	石塚 正治
石橋 昂大	石橋 英洋	石橋 要一	板倉 孝史	一木 彰	今井 洋	今榮 誓子	岩西紗江子
上田 修三	上原由喜美	宇尾 数行	枝元 重樹	榎本 真司	遠藤 吉三	大石 和彦	大岡 紀彦
太田 知子	大富 信一	大橋 洋	大橋 正敏	尾賀 隆	岡田さゆり	岡田 有矢	岡田 文夫
小川 雅広	小川 由佳	小野 元嗣	小野 悠斗	角藤 将翔	片岡 庄一	片山 慈敏	片山 康夫
香月 利明	桂 雅之	加藤美由紀	金山 雅幸	金子 英生	金子 詩穂	金子 昌代	椛島 昭紘
綺田万紀子	川口 涼	川崎幸治郎	河崎 凱三	川瀬 成吾	河田 航路	川田 裕元	河野小夜子
北川 幸一	北村 美香	木下多津江	木原 靖郎	木村 美枝	久保 玲子	熊谷 明生	倉田 忠彦
倉田 英恵	栗本 薫	黒川 薫	桑垣 瑞	國分 政子	小坂 育子	小谷 秋穂	小谷 朝日
小谷 伊吹	小谷 幸丈	小谷 菜々	後藤 和弥	小林 隆夫	小原 寿子	駒井絵里子	小牟田敦子
小村 友美	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	佐々木信幸	佐々木則子	佐々木満保	佐々木幹朗	佐瀬 章男
笹生 正則	佐藤 義信	佐橋 保司	澤田 一弥	澤田 佳奈	澤田 知之	澤田 典子	芝崎美世子
柴田 利彦	嶋野 堅一	清水 華子	新玉 拓也	菅原 和博	杉本 昌隆	杉山 晃規	鈴木 直子
鈴木 規慈	角田 典久	瀬尾 好英	瀬川也寸子	千田 佳穂	千田はる恵	千田 紘慈	千田 祥生
高田 正一	高田 昌彦	高原 正成	高村 洋子	高山 博好	武田 繁	武田 広志	竹谷 満弘
竹元 冨矢	多胡 好武	立石 文代	田中 治男	田邊 穰	谷 正子	谷口 雅之	千代 園香
辻 喜久子	辻川 智代	津田久美子	津田 國史	Damon K J Mitchell		出島由佳子	手良村昭子
手良村知功	手良村知央	所 邦彦	戸田 歌子	戸田 博道	土淵 陽生	土淵 康	富田久仁枝

中井 大介	中尾 博行	長澤 京子	中島 経夫	中島美智代	中園 健治	中田 春美	長津 純子
中西 寛子	長濱 脩	中村健一郎	中村 公一	中村 聡一	嶋村のぞみ	中山 法子	納屋内高史
奈良 翔平	西川 美喜	西崎嘉代子	西村 有巧	西村 義隆	野間 孝男	野村 昭夫	橋本 昭也
畠山 寿枝	畑中 清司	初田 彩加	初田 公子	服部 彩乃	服部 隆義	服部 駿典	浜地トミ子
濱村 友夫	林 克子	日影 一正	久川 真人	日田 琥珀	日田 みか	人見 和代	人見 幸恵
人見 竜樹	肥山 陽子	平尾 武	廣瀬 範香	廣田 昌昭	福永 和馬	福森 弘二	藤井 晴美
藤井 優香	藤田 成子	藤田 治恵	藤野めぐり	藤野 未音	藤野美由紀	星野 英史	星野 賢史
堀居 大暉	本田 英樹	前川 英喜	前田 博美	前田 雅子	前原 溪佑	増田 織人	増田 佳晴
松田 道一	松原 孝治	松原 正子	松本 勉	水戸 涼乃	水戸 基博	水戸 涼介	南 和美
南村多津恵	三村 鎮雄	三村 武士	宮本 直興	村上 靖昭	村山 晃彦	森 擴之	八木 和子
柳内 由貴	柳原 徳子	杉野 由佳	山川 茜	山川 栄樹	山川 和馬	山川 美和	山川 侑夏
山川佳那子	山口 幸江	山崎 千晶	山田 貴子	山中 裕子	山本 徹	山本 晴美	山本 正美
山本 優	山本 道子	吉井 隆	吉田 達矢	吉田 浩子	吉野千栄子	和田めぐみ	和田 至博
渡邊 綾子	渡邊 一郎	渡邊 康子	渡辺圭一郎	窪田美知留	秋山 茂也	別所 宏二	別所かおる
吉井 利典	朝隈 洋子	前畑 政善	中野 敬二				

### 3 社会的支援と新しい経営

#### (1) 利用状況 (2011年度入館者数)

##### 1) 総入館者数

期 間：2011年4月1日～2012年3月31日

合 計：371,505人

開館日数：310日

一日平均：1,198人

月 平均：30,959人

#### 入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	40,076	16,668	56,744	15.3
小学生・中学生	40,046	63,042	103,088	27.7
高校生・大学生	5,342	6,165	11,507	3.1
一般	170,036	30,130	200,166	53.9
合計	255,500	116,005	371,505	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)								総計(人)	1日当たり 平均(人)	
		一般	高大学生	小中学生 (企画展)	有料計	65歳以上	障害者	サンデー 家族ふれあい	体験学習	1,190日	学校行事	小中学生 (常設展)	その他			無料計
4	27	9,343	1,366	0	10,709	425	653	600	0	0	6	6,127	4,206	12,017	22,726	842
5	27	17,803	946	0	18,749	535	1,095	627	1	361	326	14,278	6,844	24,067	42,816	1,586
6	26	10,594	939	0	11,533	356	767	936	0	0	299	10,594	4,352	17,304	28,837	1,109
7	29	15,731	789	1,001	17,501	388	999	3,462	0	0	221	10,932	23,624	39,626	57,127	1,970
8	30	28,996	1,734	2,223	32,953	925	1,627	5,201	3	0	381	12,447	11,456	32,040	64,993	2,166
9	24	11,267	842	935	13,044	364	1,213	621	7	0	1,909	3,890	4,343	12,347	25,391	1,058
10	27	11,646	909	1,525	14,080	735	1,658	582	5	0	6,149	9,978	4,997	24,104	38,184	1,414
11	26	8,790	507	437	9,734	521	1,089	0	4	0	2,226	5,141	6,825	15,806	25,540	982
12	22	3,944	480	0	4,424	179	331	317	1	0	27	2,297	2,538	5,690	10,114	460
2012.1	19	5,702	383	0	6,085	324	387	557	0	0	36	2,799	3,338	7,441	13,526	712
2	25	6,359	479	0	6,838	387	515	737	1	0	87	3,760	3,935	9,422	16,260	650
3	28	10,726	1,203	0	11,929	552	824	1,148	0	0	14	4,161	7,363	14,062	25,991	928
計	310	140,901	10,557	6,121	157,579	5,691	11,158	14,788	22	361	11,681	86,404	83,821	213,926	371,505	1,198

## 2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
4	全 体	22	2,230	11	1,346	5	978	0	0	3	209	41	4,763
	県 内	0	0	1	70	0	0	0	0	2	165	3	235
5	全 体	42	3,678	41	6,133	5	682	6	125	2	60	96	10,678
	県 内	4	139	0	0	1	280	2	28	1	20	8	467
6	全 体	29	2,326	43	6,344	13	390	1	27	5	358	91	9,445
	県 内	7	643	8	837	11	25	1	27	0	0	27	1,532
7	全 体	16	1,043	9	1,051	10	266	7	131	3	44	45	2,535
	県 内	3	258	1	167	9	186	2	22	0	0	15	633
8	全 体	2	253	4	333	2	94	2	33	2	122	12	835
	県 内	0	0	0	0	1	10	1	13	0	0	2	23
9	全 体	46	3,741	5	665	5	306	5	78	3	76	64	4,866
	県 内	22	1,587	3	181	4	290	3	31	0	0	32	2,089
10	全 体	175	14,484	9	1,212	2	157	7	266	9	447	202	16,566
	県 内	82	5,779	2	354	0	0	0	0	1	8	85	6,141
11	全 体	62	5,093	5	437	2	121	4	92	4	201	77	5,944
	県 内	33	2,664	3	30	1	43	4	92	1	40	42	2,869
12	全 体	13	1,089	4	298	1	36	2	26	4	157	24	1,606
	県 内	3	233	3	208	0	0	1	8	0	0	7	449
2011. 1	全 体	9	627	2	206	0	0	2	49	2	151	15	1,033
	県 内	6	387	2	206	0	0	0	0	1	51	9	644
2	全 体	32	2,411	0	0	3	124	4	100	1	48	40	2,683
	県 内	23	1,336	0	0	0	0	1	9	0	0	24	1,345
3	全 体	1	51	2	111	3	489	3	69	1	54	10	774
	県 内	0	0	0	0	0	0	2	42	0	0	2	42
合計	全 体	449	37,026	135	18,136	51	3,643	43	996	39	1,927	717	61,728
	県 内	183	13,026	23	2,053	27	834	17	272	6	284	256	16,469

## 3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
4	8,007	5,698	9,021	22,726
5	20,635	5,415	16,766	42,816
6	8,247	6,514	14,076	28,837
7	25,258	14,866	17,003	57,127
8	14,071	8,472	42,450	64,993
9	12,181	4,595	8,615	25,391
10	10,188	5,972	22,024	38,184
11	9,751	4,666	11,123	25,540
12	4,635	2,555	2,924	10,114
2012. 1	5,715	2,899	4,912	13,526
2	7,806	2,459	5,995	16,260
3	10,045	6,667	9,279	25,991
計	136,539	70,778	164,188	371,505
構成割合	36.8%	19.1%	44.2%	100.0%

## (2) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	3	[湖岸より]<103> まず「つながり」を作る 戸田孝主任学芸員	中日新聞
	7	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<12> 新展示も地域参加で 16年に20周年 とともに調べた成果を紹介 八尋克郎総括学芸員	毎日新聞
	9	[近江 水の宝]<52> 丸子船 完全な状態で琵琶湖博物館に展示	京都新聞
	10	[湖岸より]<104> ベビーラッシュの博物館 松田征也総括学芸員	中日新聞
	13	在来魚の生態系壊す まずい存在 ブラックバス、味よく駆除 琵琶湖博物館レストラン「にほのうみ」の天井	日本経済新聞(夕刊)
	14	琵琶湖博物館わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」開催案内	毎日新聞(オー!ミー)
	15	[おうみのお店] 琵琶湖博物館ミュージアムショップ『おいでや』 「ナマズグッズ」日本一充実	毎日新聞
	16	[湖岸より]<105> 桜に復興の息吹願う 山川千代美専門学芸員	中日新聞
	17	“絶滅の危機にある琵琶湖の魚を知って!!” 「レッドリストの魚たち」29日から、琵琶湖博物館 松田征也総括学芸員のコメント	滋賀民報
	19	遡上の夢、実現 びわますを琵琶湖のシンボルに育てる会 桑原雅之総括学芸員のコメント	読売新聞(しが県民情報)
	21	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<13> 滅亡後、城は湖畔へ 小谷城 最後の中世山城だった 用田政晴上席総括学芸員	毎日新聞
	22	ビオトープ希少魚放流 オムロン、排水使い整備 琵琶湖博物館の打診に応じる 松田征也総括学芸員のコメント、写真提供『イチモンジタナゴ』	朝日新聞
	22	絶滅危惧種 イチモンジタナゴ、琵琶湖博物館の紹介で 野洲の事業所のビオトープに放流	京都新聞
	22	琵琶湖博物館の勧めでオムロン野洲事業所、大改修ビオトープに絶滅危惧種タナゴ放流	中日新聞
	23	[湖岸より]<106> 祭りは地域の文化的資源 楊平学芸員	中日新聞
	26	古代琵琶湖の化石 ミエゾウの歯など8480点 琵琶湖博物館に寄贈	毎日新聞
	26	絶滅危惧種の淡水魚 イチモンジタナゴ救済 琵琶湖博物館の呼びかけに応じオムロン野洲事業所ビオトープつくり成魚放流 中井克樹専門学芸員のコメント、<写真提供:『イチモンジタナゴ』>	産経新聞
	27	琵琶湖博物館など県施設、「こどもの日」親子を対象に無料開放	中日新聞
	29	[遊・You・友]「化石が語る 350 万年前の生きものたち」開催案内	朝日新聞
	29	通勤手当を過払い 琵琶湖博物館などの職員	中日新聞
30	[湖岸より]<107> 仲買の実態と「金魚酒」 篠原徹館長	中日新聞	
30	[滋賀☆西日本 NOW2011] 「化石が語る 350 万年前の生きものたち」開催案内	読売新聞	
5	2	[ひと交差点]削って彩色 木片に「命」福永和明さん 琵琶湖博物館などで展覧会開催	朝日新聞
	7	[湖岸より]<108> はやぶさの奇跡に学ぶ 用田政晴上席総括学芸員 / 琵琶湖に動物 1235 種を確認 ロシアの研究者が論文 共同執筆したマーク・グライガー上席総括学芸員のコメント	中日新聞
	11	350 万年前を語る化石企画展が琵琶湖博物館で開催	産経新聞
	12	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<14> 350 万年前の化石一堂に 展示会開催 ワニ、ゾウや2メートルのコイも 高橋啓一上席総括学芸員 / 琵琶湖の動物 2 倍に 90 年の論文と比較 日露研究グループが調査、研究の中心となったマーク・グライガー上席総括学芸員のコメント	毎日新聞
	12	工場の池をビオトープに、琵琶博などの協力でカワバタモロコ研究	京都新聞
	13	琵琶湖の生物 1769 種 15 年かけロシア人研究者と琵琶湖博物館の学芸員ら調査、マーク・グライガー上席総括学芸員のコメント	京都新聞
	13	[遊・You・友]「レッドリストの魚たち」開催案内	朝日新聞
	13	[展覧会]「化石が語る 350 万年前の生きものたち」開催案内	読売新聞
	14	[湖岸より]<109> 化石の世界に触れてみよう 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞
	14	国内で40年ぶり イタチムシ4種新種か 琵琶湖博物館の鈴木隆仁特別研究員が天津の水田で発見、鈴木特別研究員のコメント	読売新聞
	14	湖国の地学研究、後世に 琵琶湖博物館から地学版「レッドデータブック」刊行	京都新聞
	14	三重県鈴木知事、琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館を視察	伊勢新聞
	15	4年に1度の花見ごろ 琵琶湖博物館でコンニャク開花 碓登志之専門員のコメント	中日新聞



月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
5	17	森づくりの活動パネルで紹介する展示会、琵琶湖博物館で開催 寺尾尚純専門員のコメント	中日新聞	
	17	あの日へタイムスリップ 大橋宇三郎、洋さん親子写真展「近江のくらしと子どもたち」を伊吹山文化資料館で開催 琵琶湖博物館に寄託された作品をパネル展示	毎日新聞	
	19	絶滅の危機にある湖魚たち 「レッドリストの魚たち」の紹介 松田征也総括学芸員のコメント	毎日新聞 (オー！ミー)	
	19	準絶滅危惧種のイチョウウキゴケ、滋賀県内に分布—琵琶湖博物館が発表	びわ湖大津経済新聞	
	20	準絶滅危惧種イチョウウキゴケ県内に広く分布 琵琶湖博物館初調査 大塚泰介専門学芸員のコメント	毎日新聞	
	21	[湖岸より]<110> 映画になった琵琶湖の風景 戸田孝主任学芸員	中日新聞	
	22	350 万年前ミエゾウの歯やワニ・・・ 古琵琶湖の化石 8500 点寄贈 琵琶湖博物館のギャラリー展示「化石が語る 350 万年前の生きものたち」で一部を展示 高橋啓一上席総括学芸員のコメント	京都新聞	
	23	[いきいき学習しが]大昔の世界想像して 琵琶湖博物館で 350 万年前の化石展示	中日新聞	
	24	琵琶湖博物館の総合・共同研究で寄生虫 2 新種発見 琵琶湖周辺 日本初も 4 種	毎日新聞	
	24	世界目線で琵琶湖探る 琵琶博 10 年がかりで冊子に	京都新聞	
	25	絵本の魚個性豊かに一新「まんまる月夜の竹生島」 琵琶湖博物館の売店で販売中	読売新聞	
	26	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<15> ビワマスとサツキマス新発見で現れる常識 柔軟な思考で研究を 桑原雅之総括学芸員	毎日新聞	
	26	琵琶湖の生物史紹介 琵琶湖博物館学芸員 31 人が執筆 高橋啓一上席総括学芸員のコメント	中日新聞	
	28	[湖岸より]<111> 琵琶湖に火山灰が降る 里口保文専門学芸員	中日新聞	
	28	ティラピア減るとメダカも減る？大分市、駆除に難問 中井克樹専門学芸員の話	大分朝日新聞	
	29	レッドリストの魚・貝紹介 琵琶湖博物館ヨドゼゼラなど 52 種、<写真提供：『ヨドゼゼラ』>	読売新聞	
	29	[滋賀プラス1]新聞版 催し・講座案内 「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」	各紙	
	30	イチョウウキゴケ準絶滅危惧種広く分布 芦谷美奈子主任学芸員の話	京都新聞	
	6	1	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「レッドリストの魚たち」）	朝日新聞
		4	[湖岸より]<112> 変化する鳥とのつきあい方 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
4		能登川博物館で青色のアマガエル展示、話題 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞	
7		県レッドデータ最新版 イサザ、ヤコビマイマイなど絶滅危惧 46 種追加 <写真資料提供：『イサザ』>	毎日新聞	
7		絵本「まんまる月夜の竹生島 琵琶湖博物館の売店で販売	産経新聞	
8		[取材ノートから]開館 15 年の琵琶湖博物館 展示どうリニューアル 篠原徹館長のコメント	京都新聞	
9		[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<16> 深海と古琵琶湖層 火山灰を比較調査 湖の生い立ちに迫る 里口保文専門学芸員	毎日新聞	
9		琵琶博 15 周年記念イベント 夜間展示やライブなど多彩に	京都新聞	
11		[湖岸より]<113> 「琵琶湖ルール」は何のため？ 中井克樹専門学芸員	中日新聞	
11		[近江 水の宝]縄文期から湖と山の恵み 琵琶湖博物館に詳しい展示紹介がある栗津貝塚の紹介	京都新聞	
11		ウの稚魚捕食漁業影響 呉市内の 10 漁協被害 亀田佳代子専門学芸員のコメント	中国新聞	
12		琵琶湖こんな形 草津（琵琶湖博物館）でミニチュア作り	京都新聞	
14		米原で白いオタマジャクシ 金尾滋史学芸員のコメント	中日新聞	
15		「琵琶湖博物館を楽しもう」 開館 15 周年無料イベント FM 滋賀の公開生放送に篠原徹館長が出演	朝日新聞	
17		[湖国 織物語①]栽培通じ地域つながる 彦根の市民グループが琵琶湖博物館はしかけ「はたおり探検隊」から譲り受けた伯州綿の種まき会を開催	京都新聞	
18		[湖岸より]<114> 梅雨の花 紫陽花 山川千代美専門学芸員	中日新聞	
23		[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<17> びわ湖の日 30 周年 来月 1～3 日、催し多彩 美化への歩み後世へ 榊永一宏主任学芸員	毎日新聞	
23		「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」開催案内	滋賀報知新聞	
24		「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」開催案内 / 湖国環境フェスタ 2011 琵琶湖博物館多目的広場で開催	毎日新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	25	[湖岸より]<115> 遺跡が語るヒント 宮本真二主任学芸員	中日新聞
	25	琵琶湖のスジエビ激減 <写真資料提供：『スジエビ』>	京都新聞
	26	アマチュア研究者と琵琶湖博物館共同研究 県のチョウ分布本に 八尋克郎総括学芸員のコメント	中日新聞
	28	記念イベント多彩に 琵琶湖博物館入館無料も	中日新聞
	28	[みんなおいでよ]夏休み自由研究講座、[まちかど掲示板]「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」 開催案内	読売新聞(しが県民情報)
	30	企業の環境活動講演や事例紹介 「草津エコフォーラム 2011」で芳賀裕樹専門学芸員が「琵琶湖の水質と生物のおはなし」と題して講演	朝日新聞
	30	「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」開催案内	毎日新聞
	30	「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」 琵琶湖博物館が午後9時まで無料開館	滋賀報知新聞
	7	1	琵琶湖博物館など県施設、「こどもの日」親子を対象に無料開放5施設で節電生活楽しもう 県が無料開放 / 2011 夏休みお天気広場を琵琶湖博物館で開催
1		滋賀県立琵琶湖博物館 きょうから3日間 午後9時まで開館	産経新聞
2		[湖岸より]<116> 「わがまちの水」の再発見 楊平学芸員	中日新聞
2		夜行性の魚も見てね 琵琶湖博物館あすまで無料 / [湖国の人たちオピニオン' 11] 対話重ねホテル保護 荒井紀子琵琶湖博物館展示交流員	毎日新聞
2		神秘的「夜の顔」に感激 琵琶博15周年 特別展示オオナマズ悠然	京都新聞
2		「びわ湖の日」30周年で催し 琵琶湖博物館では開館時間を延長水族館を夜間展示中、期間中は入館無料	日本経済新聞
3		琵琶湖博物館など県の文化施設5カ所無料開放	中日新聞
4		草津・湖国環境フェスタ さかなクンぎょぎょ湖魚語る 琵琶湖博物館では小学生がエコ活動に関する報告	京都新聞
4		外来魚の脅威訴える 「湖国環境フェスタ」琵琶湖博物館で開催 びわ湖の日制定 30周年さかなクンがトーク	中日新聞
4		琵琶湖固有の魚などさかなクン流に紹介 草津、琵琶湖博物館多目的広場でトークショー	産経新聞
6		水辺の小さな成人式、ハッチョウトンボ羽化 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞
7		[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<18> マシジミとタイワンシジミ種のかく乱回復困難 淡水生物を未来に残す 松田征也総括学芸員	毎日新聞
8		[遊・You・友]シンポジウム「文化的景観と原風景」、夏休み自由研究講座 開催案内	朝日新聞
9		[湖岸より]<117> 地域の資料守る 被災標本修復 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
10		琵琶湖博物館マーク・J・グライガー上席総括学芸員らが調査 寄生虫新種、琵琶湖流域で確認 コメント	読売新聞
12		漁獲量ピーク時の1割強 琵琶湖のウナギ枯渇危機 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
13		[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「こまった!カワウ」)	朝日新聞
13		昼は文化施設で涼んで 滋賀県が琵琶湖博物館など有料の県立施設を家族連れに無料開放	日本経済新聞
14		[人脈々]われら琵琶湖の子<中> 暮らしに近い水取り戻せ 「湖と人間」をテーマに据えた琵琶湖博物館設立	日本経済新聞
15		イチョウウキゴケ広く分布 琵琶湖博物館「フィールドレポーター」が県内調査、芦谷美奈子主任学芸員のコメント	読売新聞
15		[湖国 織物話]野良着 農の営み伝える「記憶遺産」 琵琶湖博物館「温故知新・近江の糸と織り」で展示された野良着の紹介	京都新聞
16		こまったカワウテーマに企画展 きょうから琵琶湖博物館で	京都新聞
16		[湖岸より]<118> 近江は俳諧・俳句の故郷 篠原徹館長	中日新聞
18	彦根の水路 メダカ復活 住民清掃「市街地では異例」 琵琶湖博物館の話 / 5施設で節電生活楽しもう 県が琵琶湖博物館など無料開放	京都新聞	
20	自然と共存伝える責任 ナマズ博士 前畑政善環境学習センター長	読売新聞	
21	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<19> 企画展 鳥と人“つきあい方”を模索 集団繁殖で漁業被害 亀田佳代子専門学芸員	毎日新聞	
22	大量繁殖や森林破壊 カワウの害知って 琵琶湖博物館	毎日新聞	
22	涼みながら節電 琵琶湖博物館など5施設無料開放	読売新聞	
23	[湖岸より]<119> 地球自転は大きなスケールで 戸田孝主任学芸員	中日新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	25	緑の竹生島 再生の兆し カワウふん害で森林壊滅 亀田佳代子専門学芸員の話	京都新聞
	30	[湖岸より]<120> 邪馬台国は近江にあった？ 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞
	30	竜巻の仕組みに児童らびっくり 琵琶湖博物館で「お天気広場」	京都新聞
	31	[滋賀プラス1]新聞版 催し・講座案内 「企画展示こまった！カワウ」	各紙
	31	節電の夏 無料策に熱視線 琵琶湖博物館、家族連れ中心に来館者増	中日新聞
8	2	節電無料開放で盛況 琵琶湖博物館など県立5施設	毎日新聞
	2	親子が小魚など捕まえ環境学ぶ 米原で観察会 秋山廣光専門学芸員のコメント	中日新聞
	4	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<20> 固有種・ネジレモ 復活が異常解消の鍵 夏の南湖は水草まみれ 芳賀裕樹専門学芸員 / 候補に琵琶湖博物館など3施設 県教委提案文化館所蔵品移転先	毎日新聞
	4	琵琶湖文化館の収蔵品移送先 琵琶湖博物館など3施設を候補に	京都新聞
	4	「近江の仏教美術」情報発信法を探る 収蔵庫に受け入れ余裕があるのは琵琶湖博物館だけ、県が公表	中日新聞
	6	[湖岸より]<121> 東日本大震災を生き抜いた古墳 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	6	節電対策で県立文化施設一部開放、中間まとめ 最多は琵琶湖博物館	京都新聞
	7	[教育 どうする夏休み③]自由研究のコツ 「虫博士」内園冬馬君(標本『ハラグロオオテントウ』は琵琶湖博物館で展示)	朝日新聞
	8	自由研究に役立てて 21日に琵琶湖博物館など県内の13団体が「環境と科学フェス」	中日新聞
	10	電力需要今夏最高に県施設の無料開放 琵琶湖博物館は多くの家族連れでにぎわう	中日新聞
	12	「節電」無料開放利用16%増 県立5施設琵琶湖博物館など	読売新聞
	13	新種の寄生虫湖国で発見 河川と水路の魚から 琵琶湖博物館の総合・共同研究で発見 <写真資料提供:『ゲナルコプシス・ヤリタナゴ』『フィロピナ・カワムツ』>	京都新聞
	13	[湖岸より]<122> 琵琶湖の底に埋まるもの 里口保文専門学芸員	中日新聞
	17	琵琶湖の生物1769種確認 日露研究グループ 動物は従来の2倍以上 マーク・J・グライガー上席総括学芸員の話	産経新聞
	18	カワウ激減 竹生島に緑の兆し 亀田佳代子専門学芸員のコメント	毎日新聞
	18	秋の虫お題に一句観察も 琵琶湖博物館ユニーク企画 篠原徹館長のコメント / 冷蔵庫カーテンで節電を 県、琵琶湖博物館など文化施設で配布	京都新聞
	19	親子で博物館へ行こう 琵琶湖博物館の紹介	日本経済新聞(夕刊)
	20	[湖岸より]<123> 鳥と人の多様な関わり 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	20	ヨシで守る琵琶湖の生き物 取材協力	中日こどもウィークリー
	22	新種のコケムシ発見 琵琶湖博物館琵琶湖で発見 <写真資料提供:『リュウコツカラクサコケムシ』>	中日新聞
	23	[現場から 記者リポート]財政難 常設展変わらぬ博物館 来場者数落ち込む県立施設 兼房見喜男副館長の話	毎日新聞
	25	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<21> 生物多様性 試練経た“自然の遺産” 地域在来生物の保全を 中井克樹専門学芸員	毎日新聞
	26	[ニュース短信]地方自治記念貨幣展 琵琶湖博物館で開催	朝日新聞
	26	科学の魅力みんなの夢中 琵琶湖博物館など9館でつくる実行委が主催	読売新聞
	26	琵琶湖ブランド世界へ発信、専門家ら魅力分析 篠原徹琵琶湖博物館館長らがメンバーの「価値を考える会」が初会合	京都新聞
	26	カワバタモロコ 絶滅危惧種守ろう 産官学連携し繁殖 子ども向け観察会も 金尾滋史学芸員のコメント	中日新聞
	27	[湖岸より]<124> 増え過ぎた生き物をどうするか? 中井克樹専門学芸員	中日新聞
	28	「雄大な絵柄が魅力 琵琶湖博物館で地方自治記念貨幣展	毎日新聞
29	収蔵庫に津波、傷ついたチョウ 被災標本 琵琶博が修復	京都新聞	
30	絶滅危惧の淡水魚県内生息種を展示 「レッドリストの魚たち」 琵琶湖博物館で開催	中日新聞	
31	節電対策効果あり?無料開放 琵琶湖博物館など県立5施設	産経新聞	
9	1	「節電」無料開放に1万802人 琵琶湖博物館など県立文化5施設初めて利用は46.6%	読売新聞
	1	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館催し物案内(わくわく探検隊「光とかげで写真をとろう」)	毎日新聞(オー!ミー)
	2	県立施設の無料開放が効果 節電の夏、県汗かく	朝日新聞
	2	[遊・You・友]「秋の鳴く虫」投句会 開催案内	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
9	3	[湖岸より]<125> 水辺を想う 宮本真二主任学芸員 / 琵琶湖文化館の機能移転 県側が琵琶湖博物館など受け入れ候補の利点と課題を説明、検討委判断「近代美術館が最良」	中日新聞	
	3	琵琶湖文化館の収蔵品、県立近代美術館へ移転を検討委決定 琵琶湖博物館などと比べて施設の広さ、交通面など高評価	京都新聞	
	4	「害鳥・カワウ」姿知って 琵琶湖博物館で企画展 営巣の様子再現 フン有効利用、歴史も紹介	京都新聞	
	8	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<22> 相嘗会 厳寒期にもフナ貢納 堅田の人たちの“わざ” 橋本道範主任学芸員	毎日新聞	
	8	こまったカワウ生きものとのつきあい方ー展 県立琵琶湖博物館で開催 亀田佳代子 専門学芸員のコメント	毎日新聞 (オー！ミー)	
	10	[湖岸より]<126> 変化するチョウ類の分布 八尋克郎総括学芸員	中日新聞	
	13	琵琶湖にコケムシ2新種 世界的珍種含む 琵琶博発見 <写真資料提供：『「アカリコケムシ」の群体』『「リュウコツカラクサコケムシ」の休芽』>	京都新聞	
	14	クリーク異変 赤茶色に 楠岡泰専門学芸員の話	朝日新聞 (九州)	
	14	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内 (「こまった！カワウ」)	朝日新聞	
	16	[遊・You・友]「湖国の鳴く虫たち-庭の小さな音楽家-」開催案内	朝日新聞	
	17	[湖岸より]<127> 生物多様性の重要性を認識 山川千代美専門学芸員	中日新聞	
	20	庭の音楽家 目でも楽しんで 琵琶湖博物館「湖国の鳴く虫たち展」 桑原雅之総括学芸員のコメント	毎日新聞	
	20	鳴く虫に身近な秋感じ 琵琶博展示 20種類以上が音色 秋山廣光専門学芸員のコメント	京都新聞	
	21	[まちかど]館長フロアトーク「鳴く虫と日本文化」の案内	京都新聞	
	22	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<23> カワウ 11月13日、シンポで報告 個体数急増 自然・人に影響 松田征也総括学芸員	毎日新聞	
	24	[湖岸より]<128> 水環境を守る琵琶湖地域の村 楊平学芸員	中日新聞	
	25	[滋賀プラス1]新聞版 催し・講座案内 「観察会ピワマスの採卵現場を見学してみませんか」	各紙	
	30	美しい音色 聴きに来て 琵琶湖博物館「湖国の鳴く虫」展 秋山廣光専門学芸員のコメント / 近江鉄道 路線バス (JR 草津駅から琵琶湖博物館を通る「烏丸下物線」など大幅減便	中日新聞	
	10	1	[湖岸より]<129> 東西二つの集落が関与 篠原徹館長	中日新聞
		1	湖国チョウ勢力図異変 ツマグロヒョウモン増加ギフチョウ減少 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『ツマグロヒョウモン』『ギフチョウ』>	京都新聞
		1	虫が奏でる湖国秋の色 琵琶湖博物館「庭の小さな音楽家」展 秋山廣光専門学芸員のコメント	産経新聞
		5	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内 (「湖国の鳴く虫たち」)	朝日新聞
		6	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究室から～]<24> 琵琶湖の近現代史 滋賀の解くべき課題 疏水から総合開発まで 篠原徹館長	毎日新聞
8		[湖岸より]<130> 自然の脅威と向き合う 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞	
13		セタシジミ貝塚に迫る 連続講演会の案内 琵琶湖博物館植田文雄特別研究員「縄文のまつりといのり」	京都新聞	
15		[湖岸より]<131> 琵琶湖と洞庭湖の歴史的関係 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞	
15		京滋の近代化 考察して 篠原徹琵琶湖博物館館長	京都新聞	
18		県環境白書 低炭素社会推進に重点 「びわ湖の日」30年事業紹介 琵琶湖博物館環境学習センターの役割など	京都新聞	
19		珍種クラゲ湖国に現る！草津の高校生、池で捕獲 琵琶博で公開「実際に見て感動」 楠岡泰専門学芸員のコメント	京都新聞	
20		[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<1> 人々の水がめ、信仰の地 アジアの琴湖と琵琶湖 用田政晴上席総括学芸員	毎日新聞	
20		湖国でシーボルト会議 28日から琵琶湖博物館と津市民会館で開かれる	京都新聞	
22		[湖岸より]<132> 土砂ダムによる水害の怖さ 戸田孝主任学芸員	中日新聞	
23		環境研究 成果を発表 質問や意見交換も 「琵琶湖流域の環境を追う 物質の流れに着目したアプローチ」琵琶湖博物館で開催	京都新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	26	琵琶湖守る活動「世界湖沼会議」米で31日開催 嘉田知事が県の取り組みについて講演、琵琶湖博物館の学芸員が外来魚による生態系破壊と抑制の取り組みについて報告	読売新聞
	27	シーボルトの功績語る講座 30日、琵琶湖博物館で開催 芦谷美奈子主任学芸員のコメント	毎日新聞
	28	世界湖沼会議 針江の住民ら初参加 会議には琵琶湖博物館専門学芸員による外来魚対策の発表もある。	朝日新聞
	29	[湖岸より]〈133〉 琵琶湖はいつからある？ 里口保文専門学芸員	中日新聞
	31	[まちかど]琵琶博「鳴く虫」展、投句会入賞決まる	京都新聞
11	1	カワウ、モロコ本物みたい 彦根・若葉小 サテライト博物館開幕 琵琶湖博物館のレプリカや化石標本80点を展示	京都新聞
	2	琵琶湖博、彦根・若葉小の空き教室に出張 大依久人主査ら3人が児童の質問に答える / 高島の川で県内初 希少ドジョウ小4発見 琵琶湖博物館の長田智生水族飼育員も市内の別の川を調査中に確認、琵琶湖博物館で展示 金尾滋史学芸員の話 <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	朝日新聞
	2	高島で湖国初捕獲 小4が発見 ナガレホトケドジョウだじょ〜 琵琶湖博物館で展示 金尾滋史学芸員の話 <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	京都新聞
	2	絶滅危惧種のナガレホトケドジョウ 高島の岡君ら発見、琵琶湖博物館の水族飼育員も別の川で複数発見 <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	中日新聞
	2	水鳥、魚、大ナマズ… 琵琶湖博物館の展示品 若葉小へ学校サテライト博物館	しが彦根新聞
	3	[ここだけの湖の話〜琵琶湖博物館と世界のフィールドから〜]〈2〉 動植物の成り立ちたどる 古琵琶湖層群に残る過去 高橋啓一上席総括学芸員	毎日新聞
	3	[遊・You・友]「琵琶湖森林づくりフォーラム」開催案内	朝日新聞
	4	世界湖沼会議 琵琶湖保全是世界の“指針” 中井克樹専門学芸員が県の取り組んだ外来魚対策の紹介	京都新聞
	4	生命の喜び感じて 琵琶湖博物館で展示中のマミズクラゲを観覧された来館者の投稿記事	読売新聞(しが県民情報)
	5	[湖岸より]〈134〉 企画タイトルの秘密 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	6	めずらしいドジョウ発見！ 滋賀の小4、県内で初 琵琶湖博物館の水族飼育員も別の川で群れて生息しているのを確認 <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	朝日小学生新聞
	6	『「魚つかみ」を楽しむ』 琵琶湖博物館の設立に呼応して発足した「うおの会」の活動から生まれた 本の紹介	読売新聞
	6	水草除去で湖の保全を 保険会社員ら美化活動、清掃後に琵琶湖博物館の学芸員が水草の説明	京都新聞
	6	企業社員や家族ら琵琶湖沿岸歩いて清掃、琵琶湖博物館の見学や野鳥・水草の説明	中日新聞
	7	森林と健康 研究語る 県森林づくりフォーラムが琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	8	日本一の琵琶湖しっかり勉強 琵琶湖博物館の所蔵資料を展示する「サテライト博物館」が彦根の若葉小で開館	産経新聞
	9	[みんなでスピーキング]顕微鏡でのぞいた生命の宇宙 来館者の投稿記事	毎日新聞
	9	滋賀で小学生見つけた 絶滅危惧種ナガレホトケドジョウの展示が琵琶湖博物館で始まる 金尾滋史学芸員のコメント <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	産経新聞
	10	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「木の実で遊ぼう」案内	毎日新聞(オー！ミー)
	12	[湖岸より]〈135〉 二つの博物館とその歴史的背景 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	15	ナガレホトケドジョウ 絶滅危惧種県内で初の確認 今津東小4年岡君が発見 琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	毎日新聞
	17	[ここだけの湖の話〜琵琶湖博物館と世界のフィールドから〜]〈3〉 「似て非なる」棚田と梯田 中国雲南省の生業と景観 篠原徹館長	毎日新聞
	19	[湖岸より]〈136〉 メタセコイアの紅葉 山川千代美専門学芸員	中日新聞
	26	僕が見つけた！ナガレホトケドジョウ 金尾滋史学芸員のコメント <写真資料提供：『ナガレホトケドジョウ』>	読売新聞
	26	[湖岸より]〈137〉 海外からの視点 宮本真二主任学芸員	中日新聞
	27	世界湖沼会議 いつまでも湖とともに 琵琶湖保全の先進性に注目 中井克樹専門学芸員	京都新聞
	28	湖と人の歴史探究 琵琶湖博物館がセミナー参加募る	京都新聞
	12	1	[ここだけの湖の話〜琵琶湖博物館と世界のフィールドから〜]〈4〉 世界の博物館との連携 国際交流の拠点として 八尋克郎総括学芸員

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
12	1	外来ギョッ! 琵琶湖の魚 絶滅の危機 生態系守ろう 中井克樹専門学芸員の話	読売 KODOMO 新聞	
	3	[湖岸より]<138> 鳴く虫と日本人の文化 八尋克郎総括学芸員	中日新聞	
	7	生物から考える田んぼの再生 「琵琶湖地域の水田生物研究会」を琵琶湖博物館で開催	京都新聞	
	8	コンニャク季節はずれ開花 県立琵琶湖博物館	朝日新聞	
	9	春と間違え!? コンニャク開花 琵琶湖博物館	中日新聞	
	9	琵琶湖保全 法整備探る 「民主党琵琶湖(淀川水系)再生議員連盟」の設立総会后、川那部浩哉前琵琶湖博物館館長が講演	京都新聞	
	9	[展覧会]びわ湖・生命の水・テント絵展 案内	読売新聞(しが県民情報)	
	10	[湖岸より]<139> 水環境の維持管理の主役 楊平学芸員	中日新聞	
	11	水鳥観察 親子で楽しむ 琵琶湖博物館	産経新聞	
	14	琵琶湖のカタチ表現 草津で「水のメディア芸術祭」 琵琶湖博物館などを視察した韓国人が作品発表	京都新聞	
	17	[湖岸より]<140> 彦根屏風とバックギャモン 篠原徹館長	中日新聞	
	22	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<5> 洪水の歴史から見えるもの アジア低地居住の利と害 宮本真二主任学芸員	毎日新聞	
	22	育つピワマスの卵 県立琵琶湖博物館で展示	朝日新聞	
	23	講座「琵琶湖 自然と文化」第1回魚と人 開催案内	産経新聞	
	24	[湖岸より]<141> 民俗学と考古学の融合 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞	
	24	文化財は地域で守ろう 草津市の琵琶湖博物館で博物館関係者ら研修	京都新聞	
	30	寄生虫で減少 湖国のミノムシ調べよう 市民参加募る 琵琶湖博物館	京都新聞	
	30	[展覧会]お正月トピック展示「辰・龍・竜」 案内	読売新聞(しが県民情報)	
	30	[新春ガイド]お正月トピック展示「辰・龍・竜」 案内	朝日新聞	
	1	1	いざ『胡蝶の夢』へ 分布域が縮小の滋賀のチョウ 琵琶湖博物館研究調査報告書『滋賀県のチョウ類の分布』でまとめられる	滋賀報知新聞
		7	[湖岸より]<142> 辰年に竜巻を思う 戸田孝主任学芸員	中日新聞
		7	弥生時代の木偶 現在琵琶湖博物館の施設が建っている烏丸半島で発見	京都新聞
		11	母なる湖 でっかいゾウ!? 琵琶湖博物館出張します。琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
11		琵琶湖の魅力県内外で展示 「移動博物館」14日スタート 琵琶湖博物館のコメント	産経新聞	
11		琵琶湖博物館が移動展示キット	日本経済新聞	
11		[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「民具を科学する」)	朝日新聞	
11		大阪と京都だけ「府」なの 維新時、首都候補の名残? 戸田孝主任学芸員の話	日本経済新聞(夕刊)	
12		県立琵琶湖博物館が新事業 移動展示で魅力発信 / [週末ガイド]催し物案内(「民具を科学する」)	中日新聞	
12		[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「博物館でスゴロクをしよう」案内	毎日新聞(オー!ミー)	
13		「竜」にちなんだ動植物 22日まで、琵琶湖博物館で展示	毎日新聞	
14		[湖岸より]<143> ヒトの来た道 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞	
18		「琵琶湖 身近な存在に」地球研地域連携セミナー 水辺の保全と琵琶湖の未来可能性」で嘉田知事や琵琶湖博物館の学芸員らが話し合った。	読売新聞	
18		琵琶湖博物館が移動展示キット「移動」 体験型展示スタート	毎日新聞	
19		[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<6> 竹生島の将来知るヒントに 北欧のカワウ繁殖地と類似 亀田佳代子専門学芸員	毎日新聞	
20		[遊・You・友]講座「太古の人と動物が来た道」開催案内	朝日新聞	
20		琵琶湖の未来と可能性を探る セミナーに200人 金尾滋史学芸員の話	毎日新聞	
20		[遊覧選]博物館連携講座「琵琶湖 自然と文化」開催案内	中日新聞	
20		講座「琵琶湖 自然と文化」第2回太古の人と動物が来た道 開催案内	産経新聞	
20		[講演・講座]「太古の人と動物が来た道」 開催案内	読売新聞(しが県民情報)	
21		[湖岸より]<144> 想いを伝える化石たち 里口保文専門学芸員	中日新聞	
21		ホンモロコの水田育成に成果、来月12日、琵琶湖博で発表会	京都新聞	
22		琵琶湖テーマにシンポジウム 水質保全の成果披露 金尾滋史学芸員らが成果を発表	中日新聞	
26		滋賀の民具120点などを大展示 ガラリー展示「民具を科学する」 県立琵琶湖博物館で開催 / 琵琶湖博物館で展示されている丸子船を製作した松井造船所の松井光照さんの話	毎日新聞(オー!ミー)	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	28	[湖岸より]<145> 湿地を守るラムサール条約 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
	30	[湖国探研]<6> 環境に心寄せる契機に 琵琶湖の魚、水田に呼び込む 琵琶湖博物館学芸員 碓登志之	京都新聞
	31	[みんなおいでよ]琵琶湖博物館わくわく探検隊「縄文コースターを作ろう」案内	読売新聞(しが県民情報)
2	1	[新近江百景]<98> 琵琶湖博物館 琵琶湖の魅力伝える、人と湖の共存の歴史 迫力の丸子船	中日新聞(びわこ新聞)
	1	びわこ近鉄レストランで琵琶湖博物館のメニューで提供されたことがあるブラックバスのハンバーガーを発売	日本経済新聞
	2	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<7> 国内外の研究者と交流 人の輪で解明するシガゾウ 高橋啓一上席総括学芸員	毎日新聞
	3	[展覧会]北海道から沖縄まで「日本の石橋展」案内	読売新聞(しが県民情報)
	4	[湖岸より]<146> 植物の分類体系見直し進む 山川千代美専門学芸員	中日新聞
	6	絶滅危惧種 保存団体に初交流会が琵琶湖博物館で開かれる イチモンジタナゴ報告や課題提示 松田征也総括学芸員の話 <写真資料提供：『イチモンジタナゴ』>	毎日新聞
	6	[湖国探研]<7> 農具変遷に生活の知恵 鋤、鍬に見る地域の特徴 琵琶湖博物館特別研究員 辻川智代	京都新聞
	8	どこでも 琵琶湖博物館 移動展示用 キット制作中	朝日新聞
	8	近江の名所 屏風細密 琵琶湖博物館で展示 橋本道範主任学芸員の話	京都新聞
	9	全国歩き石橋パシャ 甲賀の男性 琵琶湖博物館で写真展	京都新聞
	10	鋤や鍬など120点 「民具を科学する」展 県立琵琶湖博物館	毎日新聞
	11	[湖岸より]<147> 国家と博物館の「自由」 宮本真二主任学芸員	中日新聞
	11	[近世のきらめき]彦根城博物館の四半世紀 <下> 「ひこにゃん」威光 限界も…出前講座に活路 琵琶湖博物館など湖国の多くの文化施設は集客が低減傾向	京都新聞
	14	湖国で使った民具紹介 琵琶湖博物館で展示	京都新聞
	15	全国の石橋を写真に 琵琶湖博物館で甲賀の森野さん展示会	中日新聞
	16	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<8> 植物の過去・未来 解明の鍵 古琵琶湖層の化石林 山川千代美専門学芸員	毎日新聞
	16	南湖覆う水草を特定 県琵琶湖環境科学研究センター主催の南湖の水草繁茂に関する研究発表会 琵琶湖博物館の芳賀裕樹専門学芸員が「水草の長期変遷と現状」を報告	中日新聞
	17	滋賀大学環境総合研究センターシンポジウムで「田んぼの中をのぞいてみれば」大塚泰介専門学芸員が講演	産経新聞
	18	[湖岸より]<148> ドラゴンフライの語源 八尋克郎総括学芸員 / 所蔵のびょうぶ 展示 琵琶湖博物館15周年記念	中日新聞
	18	[ソフィアがやってきた!]県琵琶湖環境科学研究センター 熊谷道夫さん、環流の回転、琵琶湖博物館で体験	京都新聞
	21	関電の原発全て停止 学者「再稼働拒否を」 川那部浩哉前琵琶湖博物館館長らが要望書を嘉田知事に手渡す	朝日新聞
	21	再稼働拒否求め滋賀知事に文書 琵琶湖博物館川那部浩哉前館長	読売新聞
	21	「再稼働を拒否して」 川那部浩哉前琵琶湖博物館館長らが要望書を嘉田知事に手渡す	中日新聞
	22	学芸員の確保、育成を 県博物館協議会(会長 篠原徹琵琶湖博物館館長)が緊急アピール	滋賀夕刊
	24	[遊・You・友]「日本の石橋展」展示案内	朝日新聞
	24	越境大気汚染考える 琵琶湖統合研究(県立大、琵琶湖環境科学研究センター、琵琶湖博物館)初の発表	京都新聞
	25	[週刊ニュースがわかる]空き教室が博物館に 彦根市立若葉小学校に琵琶湖博物館がやってきた	毎日新聞
	25	[湖岸より]<149> 水辺でつなぐ水郷の暮らし 楊平学芸員	中日新聞
27	びわ湖レイクサイドマラソン 強風なんの!最多1305人 ゴールの琵琶湖博物館を目指す	読売新聞	
28	近江名所描く 江戸期屏風 琵琶湖博物館で初公開	読売新聞	
3	1	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<9> 「地元の文化」琵琶湖と共通点 太湖に見る「万亩良田」 楊平学芸員	毎日新聞
	1	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「コラージュ作品をつくろう」案内	毎日新聞(オー!ミー)
	3	[湖岸より]<150> 湖東に残る条里の跡 篠原徹館長	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	4	水田の生態系保全を考える 琵琶湖博物館の学芸員ら4人の専門家が講演	京都新聞
	6	[みんなおいでよ]琵琶湖博物館わくわく探検隊「コラージュ作品をつくろう」案内	読売新聞(しが県民情報)
	9	被災標本 泥から“脱皮” 琵琶湖博物館あすから展示 八尋克郎総括学芸員のコメント	中日新聞
	10	被災標本の修復完了 琵琶湖博物館、きょうから350点展示	毎日新聞
	10	絆の昆虫標本見て 陸前高田で被災 琵琶博が修復 きょうから348点展示	京都新聞
	10	[湖岸より]<151> 道城と湖城 中世から近世へ 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
	13	チョウ標本 1046 の輝き再び 陸前高田で被災の一部 琵琶湖博物館が修復 八尋克郎総括学芸員のコメント	読売新聞
	16	被災昆虫標本 修復展 琵琶湖博物館 チョウなど348点 八尋克郎総括学芸員の話	朝日新聞
	17	被災チョウ類標本修復展示 琵琶湖博物館 陸前高田市立博物館が収蔵	産経新聞
	22	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館と世界のフィールドから～]<10> 地道な整理 収蔵庫を公開 大英自然史博物館に学ぶ 榎永一宏主任学芸員	毎日新聞
	24	[湖岸より]<152> 忘れたころに来るから災害に 戸田孝主任学芸員	中日新聞
	25	[滋賀プラス1]新聞版 催し・講座案内 「鉱物・化石展2012 湖国の大地に夢を掘るIV」	各紙
	29	琵琶湖博物館環境学習センターのホームページ、書き換え被害 個人情報流出なし	読売新聞
	29	琵琶博HP不正改ざん 個人情報流出なし	京都新聞
	29	サイト改ざんされる 琵琶湖博物館 閲覧者情報取得可能に	中日新聞
	31	[湖岸より]<153> 博物館の寄贈標本 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞

### (3) 広告掲載一覧

掲載時期	掲載誌	サイズ	スペース	地域	発行部数
4月	るるぶナビ「関西・中国四国ドライブ」	A4変形	1/6	関西・首都圏ほか 全国	5万5千部
4月～ 2012年3月	るるぶ.Com(インターネットホームページ)	A4変形		全国	総PV800万/ 月
6月	エルマガジン「滋賀本」	AB版	1/9	全国	10万部
4月	まっぶる滋賀	AB版	1/4	全国	9万部
4月20日	G o c l i (ゴクリ) 4・5月号	B4タブロ イド版	125×60mm	近畿+中国・四国 の一部	6～8万部
6月20日	ファミリーレジャーガイド	A4変形	目次下1/4	東海三県	20万部
7月	旅サライ2011夏号	A4変形	1P	全国	30万部
5月20日～ 8月20日	G o c l i (ゴクリ) 6・7・8月号	B4タブロ イド版	125×60mm	近畿+中国・四国 の一部	6～8万部
7月	びあはーる 関西版	文庫本	1P	全国	3万部
10～11月	KBS京都ラジオ番組	スポット 広告	15分	近畿二府四県	2,000万人
2012年1月	いきいき近江	B4タブロ イド版	1/8	滋賀県内	7万部
2012年 2月～3月	KBS京都ラジオ番組	スポット 広告	15分	近畿二府四県	2,000万人



(4) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の水族企画展示案内 琵琶湖博物館の特別講演会案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の紹介  琵琶湖博物館の紹介と展示案内  琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 「生命の湖 琵琶湖をさぐる」の紹介 [Let's Go! テーマパーク&ミュージアム] 琵琶湖博物館の紹介 [Information] 琵琶湖博物館の催し物案内 博物館だけじゃない生きた淡水魚もいっぱい！琵琶湖博物館の紹介 「びわこのさかな展」 / ギャラリー展示（ミニ展示）の紹介 琵琶湖博物館の紹介 ヴァイオリニスト 林七奈 琵琶湖博物館の案内 「旅鶴プラン 300」 琵琶湖博物館の案内	博物館研究 4月号 子供の科学 4月号 日経サイエンス 4月号 れいかる（湖国文化情報） 4月号 vol. 62  トレジャーボックス（タカラファミリー倶楽部ニュース） vol. 32 くさポン（草津とくとくガイドBOOK）草津市観光物産協会 草津観光マップ びいめーる vol. 79 自然通信 4月号 第245号 ゴクリ 4月号 リビング滋賀 1343号 家族でおでかけ日帰り京阪神' 12 大津パルコ チラシ 大人組 kansai 4月号 2011 観光便覧 K y o t o 旅鶴 夏号
5	[みんなの情報ひろば] 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内 [5月6月の特別展] 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 「RS360」公開生放送 in 琵琶湖博物館「Evening Concert」 日本三大湖沼 琵琶湖・富士五湖・十和田湖<資料提供：琵琶湖> [夏休み みんなでおでかけ] 琵琶湖博物館の紹介 [ファミリーにうれしい！1日遊び放題] 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1（県広報誌） 5・6月号 vol. 131 博物館研究 5月号  子供の科学 5月号 全科協ニュース vol. 41 No. 3 e.press 5・6月号 vol. 116 灯台 No. 608 ゴクリ 5月号 じゃらん（関西・中国・四国）5月号
6	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 県博協研修会の概要報告 琵琶湖博物館 老学芸員 [Information] 琵琶湖博物館の催し物案内 しがの美術館&博物館 琵琶湖博物館の紹介 夏休み先取り 大人も子どもも楽しめる体験型博物館！琵琶湖博物館の紹介 水族館は「癒し」のワンダーランド 琵琶湖博物館の紹介 烏丸半島 琵琶湖を楽しく学ぼう 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 正常な安全感とは？昭和30年代の暮らしを残す「富江家住宅」（琵琶湖博物館）	博物館研究 6月号 子供の科学 6月号 日経サイエンス 6月号 れいかる（湖国文化情報） 6月号 vol. 63  びいめーる vol. 80 しが 県博協だより 第23号 リビング滋賀 1350号 1351号 GO GUY! 6月号 ゴクリ 6月号  スカット360° プレス vol. 2 H o t o r i vol. 8 にゅーすもりやま No. 519 YOU通信 vol. 71 MOH通信 vol. 32
7	[みんなの情報ひろば] 琵琶湖博物館の催し物案内 “くさつ・エコミュージアム” 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 水族企画展示案内	滋賀プラス1（県広報誌） 7・8月号 vol. 132 広報くさつ 7月号 vol. 1046 博物館研究 7月号 子供の科学 7月号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	琵琶湖博物館の水族企画展示案内 [7月8月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示案内 つながるミュージアム 東日本大震災を超えて 東日本大震災被災者支援プロジェクト 変わりゆく滋賀県のチョウの分布 八尋克郎総括学芸員 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内 博物館で時空の旅 琵琶湖博物館の紹介 びわ湖ミニ博物館 近江の「学ぶ」を楽しむ どこ行く?ここ行く!夏休み 大人も子どもも楽しめる体験型博物館で学び、遊ぼう!琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の案内 読者プレゼント 琵琶湖博物館の水族展示室(淡水の生き物たち)は楽しい!! 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内	日経サイエンス 7月号 全科協ニュース vol.41 No.4 Musee 7~9月号 湖国と文化 夏 136号 でんごんばん 4号 みずなみ化石図鑑 電車&ウォーク 7月号 滋賀たび 2011 SUMMER イオンモール草津 チラシ ゴクリ 7月号 旅鶴 秋号 The Tabizuru Store 8 GO GUY! 別冊 2011年度版 しがこども体験学校
8	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館に行こう 琵琶湖博物館の水族企画展示案内 夏はコレで楽しむ!琵琶湖博物館の紹介 / 企画展示案内 / 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖へ行こう! 大人も子どもも楽しめる体験型博物館で触れて・学んで・遊ぼう!琵琶湖博物館の紹介	博物館研究 8月号 子供の科学 8月号 れいかる(湖国文化情報) 8月号 vol.64 中学社会 地理的分野(24年度版教科書) 電車&ウォーク 8月号 ハーヴェストタイムズ 8月号 びいめーる vol.81 ゴクリ 8月号
9	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 [9月10月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 琵琶湖の生き物 秋山廣光専門学芸員 亀田佳代子専門学芸員 榊永一宏主任学芸員 秋の観察会・見学会・体験教室 琵琶湖博物館の紹介 / 企画展示案内 / 催し物案内 博物館に行こう! 琵琶湖博物館の紹介 / 企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 / ギャラリー展示案内 地元の生態系展示をする ご当地植物園&水族館に注目 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の案内 読者プレゼント	博物館研究 9月号 子供の科学 9月号 全科協ニュース vol.41 No.5 鄙美(ひなび) vol.4 滋賀たび SHIGA-ICHI!! ばどnavi vol.043 9月号 でんごんばん 5号 リビング滋賀 9/3・24号 家庭画報 9月号 The Tabizuru Store 10
10	琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 琵琶湖博物館の案内 琵琶湖博物館の展示物を製作している西尾製作所の紹介 滋賀ドライブへ Go!Go! 琵琶湖博物館の紹介	れいかる(湖国文化情報) 10月号 vol.65 博物館研究 10月号 子供の科学 10月号 旅鶴 冬号 シティリビング vol.475 京都:コロン 10月号
11	[みんなの情報ひろば] 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 11・12月号 vol.134 博物館研究 11月号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
11	琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 [11月12月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 科学館&博物館で未知の世界を体験 琵琶湖博物館の紹介	子供の科学 11月号 日経サイエンス 11月号 全科協ニュース vol.41 No.6 でんごんばん 6号 にゅーすもりやま No.527 関西ファミリーWalker 11-12 冬号
12	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の企画展示案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究 12月号 子供の科学 12月号 れいかる (湖国文化情報) 12月号 vol.66 びいめーる vol.83 にゅーすもりやま No.529 リビング滋賀 12/3号 12/24号
1	[みんなの情報ひろば] 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 [1月2月の特別展] 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 琵琶湖の足あとをたどり、湖と人々とのかかわりを探ろう! 大依久人主査 / 学びと交流の場 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 水族館・博物館 GUIDE 琵琶湖博物館の紹介 おでかけ情報 びわこをもっと知りたい! 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1 (県広報誌) 1・2月号 vol.135 博物館研究 1月号 子供の科学 1月号 全科協ニュース vol.42 No.1 教育旅行 1月号 湖南地域! ええとこクイズラリー でんごんばん 7号 にゅーすもりやま No.531 早春びあ 関西版 タウンガイド 大津市版
2	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖をみつめる人々 「琵琶湖のほとりで琵琶湖を探る」 里口保文専門学芸員、「名水の里の魅力」 楊平学芸員、「ナマズの産卵行動の謎を探る」 前畑政善名誉学芸員 琵琶湖博物館の催し物案内 博物館をエンジョイ 琵琶湖博物館の紹介 日本最大級の水族展示を見て琵琶湖について学ぶ! 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介	博物館研究 1月号 子供の科学 2月号 れいかる (湖国文化情報) 2月号 vol.67 近江から 創刊号 びいめーる vol.84 digimaga vol.129 こどもとおでかけ365日 2012 関西版 るるぶこどもとおでかけ関西
3	[みんなの情報ひろば] 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 畏怖と共感の自然を詠む 篠原徹琵琶湖博物館館長 琵琶湖博物館の催し物案内 おもしろ体験 琵琶湖博物館の紹介 草津特集 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖の自然と人のかかわりを学ぶ 琵琶湖博物館の紹介 [情報のまど] 「地域発見! 参加型移動博物館」 展示案内 湖の人々の暮らしがわかる 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 水田の生態系と社会とのつながりを考える 田んぼの中をのぞいてみれば 大塚泰介専門学芸員 近畿の水の源 琵琶湖体験学習ツアー 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1 (県広報誌) 3・4月号 vol.136 博物館研究 3月号 子供の科学 3月号 俳句 3月号 でんごんばん 8号 まっふる家族でおでかけ日帰り京阪神 GO GUY! 3月号 pumpkin No.252 あいこうか (甲賀市広報誌) 3月15日号 No.162 親子で楽しむ! 歴史体験ミュージアム リビング滋賀 3/3・17・24号 滋賀大学環境総合研究センター 年次シンポジウム チラシ ローソン琵琶湖を美しくプロジェクト チラシ

## (5) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4/26	おうみ発 610 QP ハートプラザ	新空間展示「ホテルの学校」	NHK 大津	荒井展示交流員
4/29	滋賀プラスワンインフォメーション	ギャラリー展示 鉱物・化石展 2010	FM 滋賀	高橋上席総括学芸員 山川専門学芸員
5/20	キラりん滋賀 (びわ湖の日30周年記念番組)	琵琶湖のおいたち	びわ湖放送	里口専門学芸員
6/2	レイクサイドモーニング77 (平和堂マイデイリーライフ)	湖と人のくらし写真アルバム	FM 滋賀	金尾学芸員
6/5	おやこでクッキング	しじみ展示・琵琶湖の魚の様子	CS 放送	
6/22	コンタクトカフェ	西川貴教さんが琵琶博を紹介	名古屋テレビ	榊永主任学芸員
	明日の日本プロジェクト	省エネCCFL照明の施工例	NHK 東京	榊永主任学芸員
	すまたん	琵琶湖の移動、ブルーギル	読売テレビ	里口専門学芸員 秋山専門学芸員 榊永主任学芸員
6/24	RS360	琵琶湖博物館と「あさ・ひる・ばん」の紹介	FM 滋賀	榊永主任学芸員
7/2	かがく de ムチャミタス!	琵琶湖の基本情報、固有種	テレビ大阪、びわ湖放送	桑原総括学芸員
7/7	ゆう	琵琶湖の外来魚問題	朝日放送	中井専門学芸員
7/27	レイクサイドモーニング77 (平和堂マイデイリーライフ)	自由研究はお早めに	FM 滋賀	榊永主任学芸員
7/29	お天気広場		NHK	
7/29	お天気広場		びわ湖放送	
8/1	不可思議探偵団	温暖化と外来種	日本テレビ系	中井専門学芸員
8/1	かんさい情報ネット	「節電クールライフ」で琵琶博無料の案内、おトクなクールスポット	読売テレビ	榊永主任学芸員
8/2	VOICE	節電クールライフ	毎日放送	榊永主任学芸員
8/3	ジャパーン47ch	レストラン「にほのうみ」ブラックバス関連	MBS	
		琵琶湖博物館の魚の保全活動について	KNN (韓国) テレビ	金尾学芸員
8/19	あなたが主演 50 ボイス ~琵琶湖~	琵琶湖に棲息する固有種	NHK 総合	松田総括学芸員 里口専門学芸員
	ふるさとめぐり逢い	琵琶湖博物館とレストラン「にほのうみ」の紹介	ZTV 滋賀	
9/11	くらし再発見バラエティー ニッポンスタイル!で行こう	カバタ	CBC (中部日本放送)	榊永主任学芸員
9/16	アンカー	赤いミドリムシの生態について	フジテレビ	楠岡専門学芸員
10/19	ジャパーン47chスーパー	「デカイなあ〜!」と言えるもの ビワコオオナマズ	TBS 系列放送 MBS 製作	榊永主任学芸員
10/14	キラりん滋賀フライデー	「日本まんなか直送便」~滋賀県版10月編 魅力がいっぱい 厳選! 秋の行楽スポット	びわ湖放送	榊永主任学芸員
11/1	8時です!生放送!!火曜日	琵琶湖博物館の紹介	JCOM チャンネル	

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
11	1	おうみ発 610 外来魚	世界湖沼会議	NHK	中井専門学芸員
12	4	走る男	琵琶湖博物館の紹介	KBS 京都	榊永主任学芸員
12	19	情報プレゼンター・とくダネ!	とくспе! 徹底分析! なまぜの謎 (特集コーナー)	フジテレビ	秋山専門学芸員 金尾学芸員
1		チカラコブ モノゴト裏側ツアーズ	水族バックヤード	eo 光テレビ イキャットチャンネル	秋山専門学芸員
1	6	おうみ!かわら版滋賀	トピック展示	ZTV 滋賀	草加専門学芸員
1	7・8	WEEKLY!かわら版 (滋賀)	トピック展示	ZTV 滋賀	草加専門学芸員
1	16・18	おうみ発 610 夜のニュース	連携講座案内	NHK 大津	
1	20	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	クイズ番組 (魚の固有種)	NHK 大津	桑原総括学芸員
1	24	レイクサイドモーニング77 (平和堂マイデイリーライブ)	古代湖としての琵琶湖の歴史や化石からわかる周辺の環境の移り変わりについて	FM 滋賀	高橋上席総括学芸員
1	31	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	クイズ番組 (魚の固有種)	NHK 大津	桑原総括学芸員
2	7	おうみ発 610 お天気コーナー	写真提供: ニゴロブナ	NHK 大津	桑原総括学芸員
2	15	出前博物館事業		ラジオ	
2	16	news every	ジビエ料理 (ブラックバス)	日本テレビ系	秋山専門学芸員
2	20~22	データ放送	民具を科学する	毎日放送	
2	28	おうみ発 610 QP ハートプラザ	民具を科学する	NHK 大津	用田上席総括学芸員
3	3	県政プラスワン	博物館の紹介	びわ湖放送	

(6) 予算

2011 年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	125,771,831
財 産 収 入	694,630
諸 収 入	20,145,220
合 計	146,611,681

2011 年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	384,162,165
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	121,652,139
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物	75,758,759
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	35,488,307
環境学習推進費	環境学習センターの運営	3,143,886
	合 計	620,205,256

## 4 存在基盤の確立

### (1) 琵琶湖博物館協議会

#### 第1回

開催日時 2011年9月2日（金） 13:30～16:00

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 ①琵琶湖博物館の運営状況について  
②展示の本格的更新について

#### 第2回

開催日時 2012年3月21日（水） 13:30～15:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 ①中長期基本計画2011年度行動計画の実績・評価および2012年度行動計画について  
②新・琵琶湖博物館の創造について

#### 第8期委員

(任期：2010年9月1日～2012年8月31日)

氏 名	区分	現 職 (2011年3月現在)
大川 すみ子	学校教育	草津市立草津第二小学校 校長
河上 哲昭	学校教育	守山市立小津小学校 校長
津屋 結唱子	社会教育	滋賀文化芸術学習支援センター トータルコーディネーター
青木 繁	社会教育	(有)グリーンオーカークラブ・ネイチャーガイド 研究所代表取締役
伴 修平	学識者	滋賀県立大学環境科学部 教授
西川 輝昭	学識者	東邦大学理学部 教授
西 源二郎	学識者	公益財団法人 東京動物園協会 参与
村井 良子	学識者	(有)プランニング・ラボ代表取締役
松江 仁	学識者	京都放送 (K B S 京都) 滋賀支社長
第1回 沢田 康彦	学識者	パナソニック (株) ホームアプライアンス社 参事
第2回 廣畑 諭	学識者	パナソニック (株) アプライアンス社 総務グループひろげるエコ推進 チーム チームリーダー
筒井 のり子	学識者	龍谷大学社会学部 教授
伊達 仁美	学識者	京都造形芸術大学芸術学部 教授
山本 尚三郎	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 副理事長
吉井 隆	学識者	公募委員
長束 すが子	学識者	公募委員

### (2) 企画・計画

#### 1) 第二段階 (2006 年度～2010 年度) 活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。2011年度は計画の第三段階にあたり、地域の人々が博物館と対話することを通して、地域を再発見することを促し、琵琶湖博物館がこの活動を応援することで共に成長することができる機能(対話と応援ができる博物館)を強化していく。また、開館20周年に当たる2016年を目標として、新琵琶湖博物館の創造に向けた準備期間としても位置づけられている。そのため2010年度

に作成された第三段階の行動計画に新琵琶湖博物館の創造に向けた項目を加えると共に、そのことをも踏まえて2011年度の行動計画の実績・評価および2012年度の行動計画を作成した。今後は、第三段階の活動方針に沿って行動していくと共に、新琵琶湖博物館の創造に向けていっそう活発な活動をしていく必要がある。

## 2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

今年度は「琵琶湖博物館広報・経営戦略」に基づき、広報経営戦略会議を7回開催し、年度当初に「2011年度行動計画」を策定した上で、効果的な広報活動を実施した。芳賀専門学芸員の分析によれば、過去10年間に於いて学生や幼児、あるいは無料入館者の数は大きく変動していないが、有料入館者(一般の個人・団体)の落ち込みが大きく、入館者数の下落数とほぼ一致していることがわかった。このことから、これまで行ってきた広報用チラシ、ポスターの作成・配布、インターネットホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問活動、ホテル・旅館・観光案内所等への広報、報道機関への資料提供に加え、一般の耳にかかりやすいラジオを活用した有料広告の試行を行った。有料広告については、これまで旅行雑誌等への掲載が主であったが、インターネットの普及により旅行雑誌そのものの効果が限定的と考えられることや、予算削減の中より有効な広報媒体を模索していく必要から、旅行雑誌への掲載を減らし、その分でラジオによる広報へと切り替えを行った。併せて「イナズマロックフェスティバル」などイベントへの出展や、イオンモール草津など大型集客施設で紹介展示を行うなど、琵琶湖博物館のPRを行った。さらには、今年度作成した「地域発見!参加型移動博物館」を用いて、知事による記者発表や兵庫公館で開催された「生物多様性国際シンポジウム」など、効果的な広報活動を行うことができた。また、来年度すぐに行動を起こせるように、年度末には2012年度広報計画案を作成した。

ところで、広報を効果的に進めるために実施されてきた広報・経営戦略会議については、来年度より「広報調整会議」と名称を変更し、広報活動に集中しより効果的に活動が行えるよう提案した。



## Ⅲ 2011年度をふり返って

### 1 研究部

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、統合研究による成果報告の講演等開催1回、外部資金を得て行った学際的・地域的研究成果の展示1回を目標値とした。前者については、今年度は統合研究による成果報告の講演等は開催しなかったが、来年度に開催する見込みである。後者については、外部資金を得て行った学際的・地域的な研究に関する成果の公表として、ギャラリー展示「民具を科学する」を2012年1月7日～3月11日に開催し、好評を得た。また、科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に9件のうち4件が採択され、採択率44%と全国的にも高い数字を誇る結果となった。一方で科研費の経理事務体制が未整備で実態に迫っていないという課題もあり、事務局を含めた体制の整備が望まれるところである。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していく必要がある。

研究の発信は、学術論文28件、専門分野の著作57件、一般向けの著作153件、学会発表は71件で、学術論文は前年を数では上回った。こうした論文等による研究成果の発信数には、依然として個人差があるが、あらゆる媒体や方法を使って発信をしていきたい。「生命の湖 琵琶湖」(文一総合出版)や中日新聞連載コラム「湖岸より」、毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などへの執筆によって、一般向けの著作数は昨年度よりは増加した。今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は、昨年度の新琵琶湖学創造セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「時空を超えて湖と人の関係性をみる」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、湖と人の関わりを歴史的な視点から探求し、その有様を時間軸に沿って見つめ直し、現在や将来を考える話題を提供することが目的であった。博物館の閑散期にあたる2月から3月まで計5日間にわたって、内部・外部の講師による10本の発表を行い、毎回定員70名を超える応募があるなど好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

### 2 事業部

#### (1) 展示

第19回企画展示「こまった！カワウ生き物とのつきあい方」（7月16日～11月23日）の入場者数は29,256人（入り口カウント）で、従来の企画展に比べて入場者数は少なかった。原因としては、主題のカワウが馴染みのない生物だったことが考えられる。夏休みのクールライフキャンペーンで常設展示が無料だったことも何らかの影響を与えたと思われる。キャンペーンの期間中と期間後では、後者の方が来館者あたりの入場者数が大きかった。アンケートの結果から、入場した人はおおむね満足したとの回答を得た。テーマが重く一般受けはしないが、観覧した人には環境について深く考える機会となったようである。重いテーマでも気軽に観覧できる工夫をすることが今後の課題だろう。

企画展示以外の期間限定の展示のテーマは化石・レッドリスト・鳴く虫・民具と多彩なテーマで開催した。鳴く虫の展示では草津市水生植物公園と共同で句会を開くなど、他機関との連携や分野を超えた楽しみ方の提供ができた。2011年度も多くの方々や機関と協力しながら企画展等を開催しており、地域に根ざした博物館としての活動が展示でも実践できた。

展示交流員については前年度同様、外部資金で体験コーナー（コレクションギャラリー・回転実験室・ふれあい水槽）の運営を維持できた。しかし、来年度は外部資金の一部が無くなるため、このサービスの維持

が難しくなる。

## (2) 資料の整備・活用

2011年度は、中長期基本計画の第3段階に沿って、資料の活用推進と低経費による収蔵環境整備につとめた。その一方で、国による緊急雇用対策の一環として、別途作業人数を増やし、未整理資料の整理、登録・情報公開化にむけての作業を行なった。新規に資料の受入を制限している状態ではあるが、鳥類乾燥標本296点や滋賀県産昆虫標本約3万点などの寄贈資料があり、貴重な資料が収蔵され資料の充実が図れた。

収蔵環境の維持管理では、全館規模の空調設備のシステム更新工事に伴い、温湿度記録システムやデータ抽出方法の見直しと調整を行った。建物および換気設備の老朽化による影響は大きく、結露の流れ漏れや通常の収蔵庫空間内での温湿度のコントロール管理が年々難しい状況に見舞われている。こういったことから、収蔵環境の整備としては、カビ防御のため、収蔵庫内だけでなく廊下にも扇風機や除湿器を設置し、外気の遮断など空気環境の改善を行った。害虫に関しては、定期的な生物トラップ調査を行い、指標害虫チャタテムシの捕獲数の変位を把握しているが、2011年度はチャタテムシの増加が見られた収蔵庫数が増え、掃除の徹底を呼びかけた。そのほか、トラックヤード周辺の清掃実施、特にトラックヤード外の排水溝の落ち葉や泥の除去を年2回（春と秋）に行い、大型シャッター下部への隙間テープの貼り付けなどにより、侵入を防ぐ処置を行った。また、温湿度環境のきめ細かい把握を可能にする体制作りを進めるため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握を行い、温湿度が不安定な収蔵空間がある収蔵環境のモニタリングの精度の改善を図った。燻蒸については、小型燻蒸庫のパッキングの老朽化に伴い、部品取り替えを行った。予防に力を入れたきめ細かい対応により収蔵環境は維持されているが、予算が少ない分職員の負担が増えており、焦点を絞った効率的な事業の実施が必要となっている。

今年度は、東日本震災で被災した陸前高田市立博物館の昆虫標本10箱を受け入れ、泥を取り除き、標本およびラベルの復旧作業を行うなど、標本レスキュー活動に携わった。

一方、東日本震災の教訓として、収蔵庫空間内での資料の保管状況、作業員の安全確保が重量課題となってきた。避難通路の確保のために整理整頓を日々の業務で行いつつ、緊急避難に対する意識をもつことをはじめ、資料の損失を最小限に防ぐ対策を考えるため、未固定棚の調査を行なった。この結果を踏まえて、次年度以降今後の処置対応を行う予定である。

資料の活用推進としては、2011年度は電子図鑑「日本産環境指標ゴミムシ類データベース 里山のゴミムシ」、電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち」および資料目録「居初家文書Ⅰ」、「居初家文書Ⅱ」の公開を行った。しかしながら、新規の資料データベースは構築することができず、資料整理は進んでいる分野があるにも関わらず、未だ公開することができない状況が続いている。博物館で収蔵している全ての資料について、資料データを広く公開することは義務であり、公開計画を策定して今後の予算確保を進める必要がある。管理や活用体制、他機関等と資料を相互に利用できる環境整備や情報共有など、積極的な環境整備はまだ今後の課題である。

## (3) 交流・サービス活動

2011年度新たな試みとして7月1～3日の3日間「あさ・ひる・ばん 博物館を楽しもう！」を実施した。このイベントは夜間開館、イブニングコンサート、はしかけオープンハウス、FM生中継などを通して琵琶湖博物館をまだ訪れたことがなかった方や足が遠のいていた方に琵琶湖博物館をもっとよく知っていただく、きっかけを提供するものであった。3日間で22,374人もの来館者があり、3日（日曜）には1日で11,383の方が入館した。スタンプラリー参加者にアンケートを実施したところ、約20%の方がはじめての来館であり、50%の方が4回以上のリピーターであった。また、80%近くの方が滋賀県在住の方であった。今回のイベントにより、琵琶湖博物館には来館者のニーズに合えば、1日に10,000人以上のお客様をよべるポテンシャルがあることが明らかになった。

「はしかけ」制度については、2011年度末の登録者は340名と前年度と比較して40名ほど増加した。活動しているグループは淡海湧き水の会が加わり15グループとなった。「フィールドレポーター」の会員数は80名と前年度と比較して若干減少した。アンケート型調査は夏に「滋賀の天然水と水の神さま」および冬に「ミノムシ」の調査を行った。また、自由交流型調査として恒例となっている蓬萊山山頂におけるアキアカネのマーキング調査を8月に行い、その再捕獲調査を10月にふもとの里山で実施した。

学校連携事業では新学習指導要領の影響もあり、学校行事で来館する児童生徒数は5.8%減少した。開館以来当館で実施してきた滋賀県中学校教育研究会理科部会主催の「自然調査ゼミナール」を2011年から琵琶湖博物館主催で行うこととなった。学校サテライト博物館では昨年度に継続して長浜市立永原小学校での事業展開に加え、高島市立青柳小学校から彦根市立若葉小学校への移設を行った。この事業の課題として新学習指導要領への移行、少人数学級や外国語学習の導入により、学校側に受け入れる時間的・人的余裕が無くなっている上に、空き教室の準備もままならなくなっている。今後学校だけでなく、地域との連携を図り、公民館や使われなくなった庁舎の活用等も検討する必要がある。

環境学習センターでは環境学習の相談対応、情報提供のほか、環境学習の交流の場づくりとして「水と自然を考えるこだわりの酒づくり体験交流会」および「越前大野の湧水文化再生計画に学ぶ環境まちづくり」を開催した。また、「環境と科学のフェスティバル」への参加や「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。

今後博物館のリニューアルに向けて、琵琶湖博物館らしい交流事業とは何か再検討し、職員の負担を考慮しつつ、利用者の立場に立った交流事業を進めて行く必要がある。

### 3 総務部

#### (1) 来館者の状況

2011年度の来館者数は37万人と過去最低を記録した。前年より1万人増加した2010年度と比べると、有料/無料の別では有料が大きく減少し、個人/団体の別では個人が若干増加し、また未就学児/小中学生/高校・大学生/一般の別では、高校・大学生のみが減少している。月別で見ると、7・8・3月以外は減少した。

琵琶湖博物館の来館者数は、開館以来減少傾向にあったが、2005・2006年度には琵琶湖博物館広報経営戦略に基づく広報活動の展開、開館10周年の記念イベントや黄色いナマズが相次いで捕獲されるなどの話題性もあり一時的に回復した。しかし、2007年度に再び減少に転じ、それ以降は減少を続けてきた。2011年度は7月、8月に実施した「あさ・ひる・ばん博物館」、「クールライフキャンペーン」（いずれも無料）の効果があり、来館者数が1万人増加したが、来館者数は依然として減少傾向にあるものと考えられる。

これまでの減少の要因として、2008年秋以来の世界的な大不況の影響による外出控えや料金改定、新型インフルエンザの流行、近郊への大型商業施設の相次いでオープンなどが考えられるが、開館後に蓄積された調査研究・収集品などの成果を大規模な展示替え等により発信する機会がなかったことも大きな要因と考えられる。

#### (2) 来館者アンケート

例年どおり、年3回のアンケート調査を行った結果、来館者の約半数がはじめての来館、約3分の1が滋賀県内、約7割が家族での来館で、30～40歳代の親子での来館が多いといった、これまでと同様の結果が確認された。来館のきっかけとなった情報源も例年と同じく、友人・知人、家族・親戚による口コミが多かったが、前年度と比較して、テレビ、ホームページ、雑誌・本を見ての来館が増え、広報の成果が垣間見えた。不満については、例年のように、駐車場、交通の便、道路案内、レストラン、昼食場所、休憩場所に対するものが高い。さまざまに対策を講じてきたが、アンケートを見る限りでは不満解消への効果をあげてなく、博物館リニューアルの中での対応が期待される。

### (3) 広報・戦略

より効果的で効率的な広報活動を行うために、広報経営戦略会議において2011年度行動計画を年度初めに策定し、実行することとした。芳賀専門学芸員の分析により、過去10年間の入館者数の落ち込みが一般来館者の落ち込み数とほぼ一致することが明らかとなったことから、今年度は県内各市町校長会でのPRや県内・県外小学校個別訪問、旅行者への働きかけ、ホテル・旅館・道の駅等にポスター・チラシの配布、あるいは大型集客施設での企画展示・常設展示の紹介展示設置などこれまで行ってきたことの他に、ラジオを使った有料の広報を積極的に施行した。これは、雑誌、新聞、ラジオ、テレビといった一般的な広報媒体のうち、ラジオが一般来館者となる層を中心に広く様々な世代の耳に届く媒体であることが、特徴を調査した結果からわかったためである。また、昨年度まで力を入れてきた旅行雑誌への有料広告は、インターネットの普及もあってそれほどの効果は期待できないと考えられたことから、このことはより有効な広報媒体の模索にもつながっている。さらに、2011年度には「地域発見!参加型移動博物館」が作成され、8回展示展開を行った。知事による記者発表や、兵庫公館における生物多様性国際シンポジウムへの出展など、きわめて効果的に活用することができ、2012年度以降の有効活用への道筋をつけることができた。

ところで、これまでは広報経営戦略会議において、年度当初に当該年度の広報経営戦略行動計画を策定していたが、広報活動は年度当初にはすでに始まっており、行動計画が後追いになっている感があった。さらに、現広報経営戦略会議は実際の広報のやり方について議論される場であることから、より広報に特化した体制とするべく、広報調整会議と名称自体を改めることを提案し、年度末までの比較的早い段階で次年度の広報計画案を策定することとした。

### (4) 電子情報発信

最近の継続的な問題になっている端末機器群の運用が財政事情により困難になってきていること、発信情報と双方向情報交換との連携が巧くいっていないことの2点については、今年度も大きく変わっていない。しかし、2012年度予算編成で4年ぶりの端末機器更新が認められることになったので、その仕様策定に向けて準備を進めた。また、2012年度は中枢機器群の更新時期にあたっており、それに向けた予算編成や仕様策定などの準備も進めた。双方向情報交換の問題については、新規質問回答情報の入力作業を継続するなど、状況が許す限りの努力を続けているところである。また、状況改善に向けた検討を進め、その手がかりとして、既に公開している質問回答情報の抜本的更新作業を2012年度に実施することを計画している。発信情報自体については、整理作業を一つ一つ順を追って進め、順次成果がまとまっている。

### (5) 施設整備

懸案である空調等に利用する配水管については必要な修理を終えた。また、部品の製造中止等で維持管理に支障が生じていた中央監視装置や駐車料金精算装置についても更新を行った。しかし、建築後10数年が経過して施設・設備等の劣化が進んでおり、引き続き注意が必要である。

### (6) 来館者サービスの向上

当館の来館者はリピーターの方が多くことから、来館者サービスの向上の一環として、2004年4月から、1年間に何回でも観覧できる年間観覧券(年間パスポート)の販売を始め、2011年度は270人(対前年32人減)に購入いただき、延べ1,223回の入館観覧をしていただいた。このことにより、利用者ニーズに応えることができるとともに顧客の定着化による利用促進が図れた。この効果をさらに高めるため、2009年11月に始めた年間観覧券購入時に常設展観覧券1枚を進呈するサービスを継続している。

また、関西元気文化圏推進協議会が主催する「関西文化の日」事業に参加し、常設展示の観覧料を無料とした。11月19・20の両日で4,085人の方が来館された。

## (7) 国際交流活動

当館は、国立民族学博物館とともに、国際協力機構（JICA）からの委託研修事業「博物館学集中コース」を実施し、最終年度となる今年度は計6カ国10名の研修員の指導を行った。また、当館では、この研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修を受け入れており、今年度は24件に対応した。さらに今年度は、10月28～30日に開催された「第5回シーボルトコレクション国際会議」（主催：シーボルト・コレクションネット・プロジェクト、日本文化研究機構日本関連在外資料調査研究プロジェクト。後援：滋賀県他）の初日と最終日、当館を会場として日蘭独のシーボルト研究者が集い、シンポジウムや公開講座が開催された。

## (8) ミュージアム活性化推進事業

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、平成23年度文化芸術振興費補助金・ミュージアム活性化支援事業（文化庁）の助成を受け、博物館のさらなる活性化を図るため、安土城考古博物館と連携して、連続講座「琵琶湖 自然と文化」、琵琶湖体験クルーズ、体験学習の開催、大型ショッピングモールでの出前博物館などを開催した。

## IV 博物館利用のご案内

- 開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は、午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館）  
年末年始（12月25日～1月2日）  
その他館長が定める日

■観覧料（常設展示） （2012年4月1日現在）

	個人	団体(20名以上)	年間観覧券	共通券(*)
高校生・大学生	400円	320円	1,600円	520円
大人	750円	600円	3,000円	850円

(\*) 草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。団体は取り扱いません。

※未就学児、小中学生、障害のある方、県内居住の65歳以上の方は常設展示の観覧は無料です。また、障害のある方は企画展示の観覧も無料です。（詳細についてはご確認ください。）

※年間観覧券は、購入後1年間、常設展示、企画展示を何回でも観覧できます。

※企画展示はそのつど料金を定めます。（開催期間中）

### ■交通案内

- JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。  
「草津駅西口」から、近江鉄道バス「からすま半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車、約25分。  
タクシーで約20分。  
「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線～栗東志那中線～湖周道路を経て約25分。  
または「瀬田西I.C」から湖周道路を経て約30分



### ■駐車料金（2012年4月1日現在）

大型バス	マイクロバス	普通車	二輪車
1,700円	1,100円	550円	200円

※博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

### ■問い合わせ

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地  
滋賀県立琵琶湖博物館  
TEL (077) 568-4811 FAX (077) 568-4850  
インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

琵琶湖博物館 年報 16号

2011年度

平成24年(2012年)10月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地  
電話 077-568-4811